

町横尾遺跡Ⅱ

—長野県埴科郡坂城町坂都1号線道路改良事業に伴う緊急発掘調査報告書—

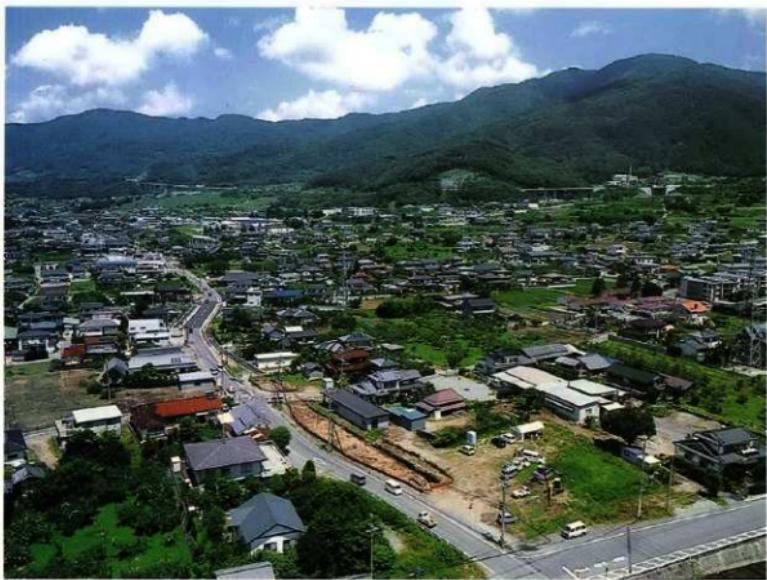
2008.3

坂 城 町
坂城町教育委員会

町横尾遺跡Ⅱ

2008.3

坂 城 町
坂城町教育委員会



町横尾遺跡Ⅱ（南西より）



町横尾遺跡Ⅱ（南より）

序

坂城町教育委員会教育長 長谷川 臣

今回発掘調査を実施した町横尾遺跡は、坂城町大字南条を西に流下する谷川によって形成された扇状地のほぼ扇尖部に立地しています。本遺跡の北側は中之条遺跡群で、かつての発掘調査で縄文時代～平安時代の集落址が確認されています。また、南側には金井東遺跡群が広がっており、同遺跡群の中で最大の遺跡である保地遺跡では縄文時代後・晩期の遺構や遺物が多く発見され注目を集めました。このように、今回の発掘調査地点は坂城町の中でも特に遺跡の多く存在する場所であります。

今回の発掘調査では、縄文時代～平安時代の住居址が発見されました。3棟調査された縄文時代の住居址からは、縄文時代前期の深鉢という煮炊きに使う土器や、黒耀石で作られた石器などが発見されました。弥生時代の住居址からは、真っ赤に顔料を塗られた土器群が出土しました。これらは、煮炊き用の「壺」、貯蔵用の「壺」、盛り付け用の「高杯」など、生活に必要な土器類が一そろいになっていました。住居址から出土した遺物を見ることで当時の暮らしぶりが想像できる貴重な発見でした。また、平安時代の住居址からは器の外面に墨で文字の書かれた「墨書き土器」が発見されました。これは坂城町では初めてのことと、坂城町では最古の文字資料となりました。

このほか、鉄製品製作に関わると思われる遺物の出土した住居址も発見され、今後、坂城のもの作りの歴史を考える上で貴重な資料と言えるでしょう。

最後に町横尾遺跡Ⅱの発掘調査は、土中に眠る文化遺産の重要性を理解していただいた関係者の皆様方のご支援とご協力によって行うことができました。厚く御礼申し上げます。また、現地において作業にあたられた皆様には、異常気象とも言える夏の暑い中、献身的な努力と、古代文化解明へのゆるぎない情熱によって、調査を無事終了させていただいたことを感謝いたします。さらに、関係機関、関係各位には、文化財保護行政の本旨をご理解ください、ご協力いただきましたことに心から御礼を申し上げ、序文とさせていただきます。

例　　言

- 1 本書は、長野県埴科郡坂城町坂都1号線道路改良事業に伴う町横尾遺跡IIの発掘調査の報告書である。
- 2 発掘調査は、坂城町より委託を受け、坂城町教育委員会が実施した。
- 3 発掘調査所在地及び面積
町横尾遺跡II　長野県埴科郡坂城町大字南条4682-1ほか、約800m²
- 4 調査期間　試掘調査　平成18年8月17日～8月18日
現地調査　平成19年6月5日～平成19年8月9日
整理調査　平成19年8月20日～平成20年3月19日
- 5 本書の主な執筆・編集は、助川・田中・時信が行った。
- 6 本書掲載の土器及び石器観察表は田中が作成した。
- 7 本書の作成にあたり、助川・田中・時信のほか、朝倉、天田、坂巻、荻野が主な作業を行った。
- 8 本書で使用した航空写真は、株式会社写真測図研究所が撮影したものである。
- 9 本書及び調査に関する資料は、坂城町教育委員会の責任下において保管されている。
- 10 本調査及び本書作成にあたって、下記の方々や機関から御配慮を得た。記して感謝の意を表したい。
(敬称略、五十音順)
市川桂子、倉澤正幸、小林建築(町横尾)、(社)更埴地域シルバー人材センター、鈴木徳雄、
大工原豊、谷藤保彦、平川　南、町田勝則、三木陽平、山口逸弘、山崎まゆみ

凡　　例

- 1 遺構の略号は、下記のとおりである。
H→竪穴住居址　F→掘立柱建物址　R→製鉄関連遺構　D→土坑址　Q→特殊遺構
P→ピット　M→溝状遺構
- 2 遺構名は、時代別ではなく発掘調査時においての命名順である。
- 3 本書に掲載した実測図の縮尺は該当箇所のスケールの上に記した。
- 4 掘図中におけるスクリーントーンは、下記を示す。
遺構　■→構築土　■→焼土　■→カマド
遺物　■→須恵器断面　■→磨滅範囲　→軸範囲　■→赤色塗彩範囲　●→含織維
- 5 遺物の挿図中の表記は、第1図1は、簡易的に1-1と表記した。
- 6 土層の色調は『新版 標準土色帖』の記載に基づいている。
- 7 出土遺物の観察表の法量は、口径・底径・器高の順に記載し、ーは不明、()が残存値、< >が推定値、()・< >がない場合は完存値を示し、単位はcmである。

目 次

序

例 言

凡 例

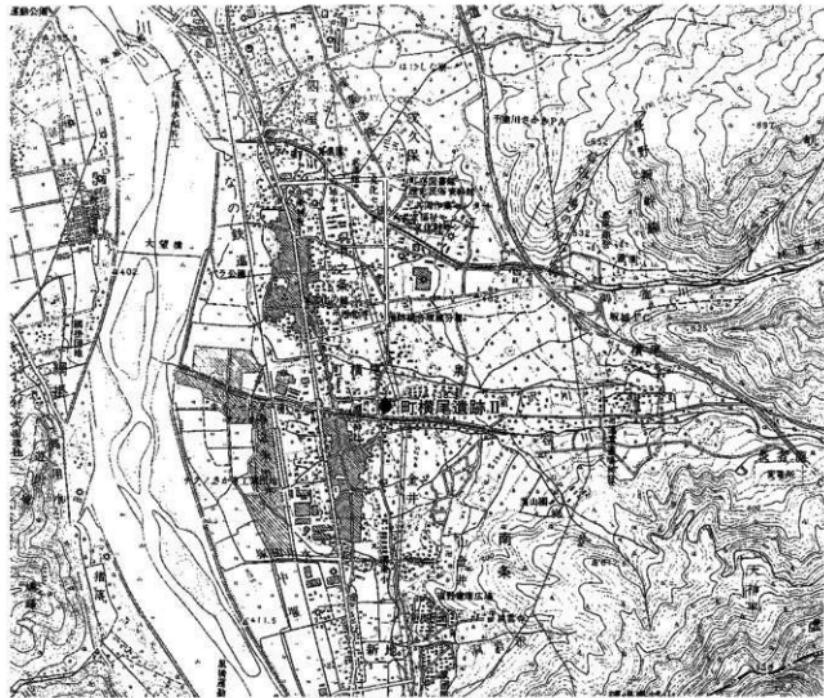
第Ⅰ章 発掘調査の経緯	1
第1節 発掘調査に至る動機と経緯.....	1
第2節 調査の構成.....	2
第3節 調査日誌.....	2
第Ⅱ章 遺跡の立地と環境	3
第1節 地理的環境.....	3
第2節 歴史的環境.....	3
第Ⅲ章 調査の概要.....	7
第1節 調査の方法.....	7
第2節 基本層序.....	8
第3節 検出された遺構・遺物.....	8
第Ⅳ章 調査の結果.....	10
第1節 壇穴住居址.....	10
第2節 土坑址.....	38
第3節 その他の遺構.....	43
黒耀石分類概念図・黒耀石出土数表.....	45
掲載土器観察表.....	46
掲載石器観察表.....	49
第Ⅴ章 総 括	54
写真図版.....	55
報告書抄録.....	72

第Ⅰ章 発掘調査の経緯

第1節 発掘調査に至る動機と経緯

町横尾遺跡は、坂城町大字南条に所在し、標高424m前後を測る谷川によって形成された扇状地の扇尖部に位置している。平成元年度に作成された『坂城町遺跡分布図』によると、縄文～平安時代の散布地とされてはいるが、同遺跡内に戦国時代の国人領主村上義清の子にあたる村上景国が処ったとされる観音坂城跡も存在しており、関連する中世の遺構の存在が予想されるなど、古代・中世の遺跡である可能性が高い。平成8年度に実施された坂城町土地開発公社の行う宅地造成にともなう発掘調査によって、古代に位置づけられる集落址が判明している。

今回、この地に坂都1号線の道路改良事業が計画され、遺跡が破壊される懼れが生じた。そのため、原因者である坂城町建設課（当時は都市・下水課）と遺跡の保護措置について協議を行ったところ、試掘調査を実施して遺跡の状況を確認することとなり、平成18年8月17日から試掘調査を実施した。開発対象地に6箇所のトレーニングを設定して遺構・遺物の確認を行った結果、3箇所のトレーニングで遺構・遺物が検出された。遺構は開発対象地の中央付近に集中する傾向が見えた。この結果を基に再度協議した結果、道路拡幅部分に関しては発掘調査を実施し、遺跡を記録保存することとなった。



第1図 町横尾遺跡II位置図 (1 : 25,000)

第2節 調査の構成

発掘調査体制

調査担当者 助川 朋広（坂城町教育委員会学芸員）、時信 武史（坂城町教育委員会学芸員）

調査補助員 朝倉妙子、天田澄子、坂巻ケン子、荻野れい子（以上、町臨時職員）

調査協力員 上原邦夫、太田武夫、佐藤司、竹内佳男、千野正彦、塙田義勝、柳原喜伸、（以上、更埴地域シルバー人材センター）

整理調査体制

調査担当者 助川 朋広（前出）、時信 武史（前出）

調査補助員 朝倉妙子、天田澄子、坂巻ケン子、田中浩江、荻野れい子（以上、町臨時職員）

調査協力員 荒川園子、三井重子、滝沢かつ子、塙田智子（以上、更埴地域シルバー人材センター）

（事務局）

教育長 柳澤 哲（～平成19年5月31日）

教育長 長谷川 臣（平成19年6月1日～）

教育文化課長 西沢 悅子（平成19年4月1日～）

文化財係長 助川 朋広

文化財係 時信 武史

朝倉妙子、天田澄子、坂巻ケン子、田中浩江、千野美樹、中沢あつみ、荻野れい子
(以上、町臨時職員)

第3節 調査日誌

試掘調査・発掘調査

平成18年8月17日 試掘調査開始。

8月18日 試掘調査終了。

平成19年6月5日 発掘調査開始。重機による表土剥ぎ開始。

平成19年6月11日 表土剥ぎ終了。遺構検出開始。

平成19年6月13日 遺構掘り下げ開始。

平成19年7月22日 現地説明会開催、約60名参加。

平成19年7月27日 遺構掘り下げ終了。

平成19年7月24日 遺構実測終了。

平成19年7月25日 航空写真撮影。

平成19年8月7日 埋め戻し開始。

平成19年8月9日 埋め戻し終了。

平成19年度中整理作業及び報告書作成。

第Ⅱ章 遺跡の立地と環境

第1節 地理的環境

坂城町は北信地方と東信地方の接触点にあたり、善光寺平を構成する更埴地方の最南端に位置する。町の地形は、中央部を貫流する千曲川の氾濫によって形成された氾濫原と、千曲川に流れ込む小河川がつくりだした扇状地によって形づくられた小盆地（坂城盆地）に特徴がある。町の北から東にかけては五里ヶ峰・大峰山・虚空蔵山をはじめとする標高1100～1300m前後の山々が連続し、千曲市・上田市との市町村界を形成し、西は大林山、三ツ頭山などの標高1000m前後の山々が連続し、千曲市・上田市との市町村界となっている。南は千曲川右岸の岩鼻と左岸の半過の岩鼻が狭隘な地形を形成し、上田盆地と隔てられている。このような地形から、古来よりこの地域は千曲川流域の要衝の地として注目されてきた。

この地域の気候は、南北に開けた小盆地状をなしていることから、季節風の影響を受けやすいため、夏季は南風、冬季は北風が強い。また、盆地状になっていることから寒暖の差が大きい。降水量は少なく、日本で最も雨量の少ない地域の一つとされている。現在では、この気候も関連し、工業が主要な産業となっており、農業では、りんご・バラ・ぶどうの栽培が盛んである。

第2節 歴史的環境

ここで、坂城町の各時期について代表的な遺跡を挙げながら、町の歴史的環境について概略的にふれておきたい。（括弧内の数字は5、6ページの坂城町遺跡分布図における遺跡番号を示す）

坂城町で最古の遺物は、約14,000～15,000年前の後期旧石器時代の上ヶ屋型彫刻器とされる石器である。この石器は南条地区の保地遺跡（3-1）より採集されたものであるが、本出土品以外には込山D遺跡に槍先型尖頭器の出土があるが、詳細は不明である。

縄文時代の遺構・遺物では早期押型文系の土器が坂城地区の和平A遺跡や平沢遺跡で採集されている。また、平成12年度に発掘調査が実施された坂城地区の込山C遺跡（30-3）からも押型文系の土器片が少量出土しているが、これらは現在整理中である。この他に縄文時代前期・中期の土器も出土している。後期・晚期では、学史的に有名な保地遺跡が挙げられる。保地遺跡は昭和40年度と平成11年度に発掘調査が実施されている。前者は縄文時代後期後半から晩期後半までの土器・石器群と、後期後半に属するとされる特殊儀礼的遺構の検出が『考古学雑誌』に報告されている（関1966）。後者については、縄文時代晩期に位置づけられる再葬墓が検出されており、中でも約19個体分の人骨が埋葬された2号墓址が注目される。その他、坂城地区の込山D遺跡（30-4）から昭和初期に採集された遮光器土偶の頭部がある。

弥生時代では、中期以前の調査例がないため状況は不明である。後期後半では、平成5年度に南条地区的塙田遺跡（1-7）で発掘調査が実施され、この時期に属する竪穴住居址36棟をはじめとする遺構が検出され、土器・石器・土製品、及び鉄製品が出土している。

古墳時代では、前期古墳は確認されていないが、中期古墳には中之条地区的仮称東平1号墳・2号墳が挙げられる（註1）。これらは、平成5年度に実施された上信越自動車道建設に伴う発掘調査で、埴輪や土器などの出土品から、1号墳は5世紀第2四半期後半、2号墳は5世紀第2四半期前半に位置づけられた（若林1999）。後期古墳では、町内でいくつかの古墳群の存在が知られているが、中でも代表的なものは村上地区の福沢古墳群小野沢支群に属する御厨社古墳である。埋葬施設に千曲川水系最大級の横穴式石室を持ち、

全長11.2mを測り、勾玉や切子玉、耳環などが出土している。古墳時代後期の集落址は町内においても多く検出され、特に環状に土器が配列された祭祀遺構が検出された南条地区の青木下遺跡II（1-8）が注目される。奈良時代・平安時代の遺跡では、中之条地区の中之条遺跡群（8）とその周辺遺跡に多くの調査例があり、この地域における奈良・平安時代の状況が徐々に解明されつつある。具体的には、寺浦遺跡（8-1）、上町遺跡（8-2）、東町遺跡（8-3）、宮上遺跡（8-5）、北川原遺跡（8-6）、豊饒堂遺跡（20）、開鉄遺跡（21）で調査が実施され、古墳時代後期後半～平安時代までの集落址が判明している。また、平安時代の生産遺跡として坂城地区的土井ノ入窯跡（32）があり、瓦の生産が行われていたことが判明し、本遺跡で生産された瓦は、現在の坂城小学校がある場所に8世紀末～9世紀頃に存在していたとされる込山廃寺（54）に用いられたほか、上田市信濃国分寺・国分尼寺、千曲市正法廃寺の補修用の差し瓦として使用されていたことが判明している。

平安時代後期、寛治8年（嘉保元）（1094）に村上地区に配流されてきた源盛清が後に村上氏として勢力をを持つようになり、戰国時代には村上義清が活躍するようになった。義清の頃、村上氏の居館は現在の坂城地区の満泉寺一帯に所在したとされ、その背後にそびえる葛尾山の山頂には、義清が使用した葛尾城跡がある。このほか、中世の遺跡では坂城地区的觀音平經塚（55）をはじめとする經塚と中之条地区的開鉄製鐵遺跡（53）がある。觀音平經塚は昭和54年と平成4年に調査が行われたが、平成4年の調査では、經塚の年代は14世紀第2四半期とされ、その周辺の五輪塔群の造営時期は14世紀第2四半期から16世紀前半頃に位置づけられている（若林1999）。開鉄製鐵遺跡は、昭和52・53年に坂城町教育委員会によって学術調査が実施され、16世紀頃の製鉄炉址2基が確認されている。この調査は県内初の製鉄遺跡の学術調査として学史に位置づけられるものであった。

江戸時代に入ると、現在の坂城地区を主体とする坂木村、中之条地区を主体とする中之条村には幕府の代官所が置かれ、以後明治維新まで天領として支配された。このことから、この地域を重要視していたことが看取される。代官所は最初、坂木（61）に置かれたが、明和4年（1767）に焼失し、その後、安永8年（1797）には中之条に代官所が置かれるようになった。

以上、近世までの坂城町の歴史を概略した。

註1 周知の御堂川古墳群東平支群1号墳・2号墳とは異なる可能性があるため、仮称とされている。今後、正式な古墳名称の確定が必要である。

参考文献（五十音順・敬称略）

- 坂城町教育委員会 1978『開鉄製鐵遺跡第一回調査報告』 1979『開鉄製鐵遺跡第二回調査報告』 1993『宮上遺跡II』 1995『東裏遺跡』 1996『垂
輪堂遺跡・上町遺跡・寺裏遺跡・東町遺跡』 1996『寺裏遺跡II』 2000『開鉄遺跡III』 2001『宮上遺跡I・II・III・IV』 2002『保
地遺跡』
岡 孝一 1986『長野県坂城郡保地遺跡発掘調査概報』『考古学雑誌』第51巻第3号
森崎 稔ほか 1981『坂城町史』中巻 歴史編（一）
柳沢 遼 1998『第5章 開鉄遺跡「北松新幹線埋蔵文化財発掘調査報告書」』（財）長野県埋蔵文化財センター
若林 卓 1999『第9章 東平古墳群』「第11章 觀音平經塚」「上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書21』（財）長野県埋蔵文化財センター



坂城町遺跡分布図

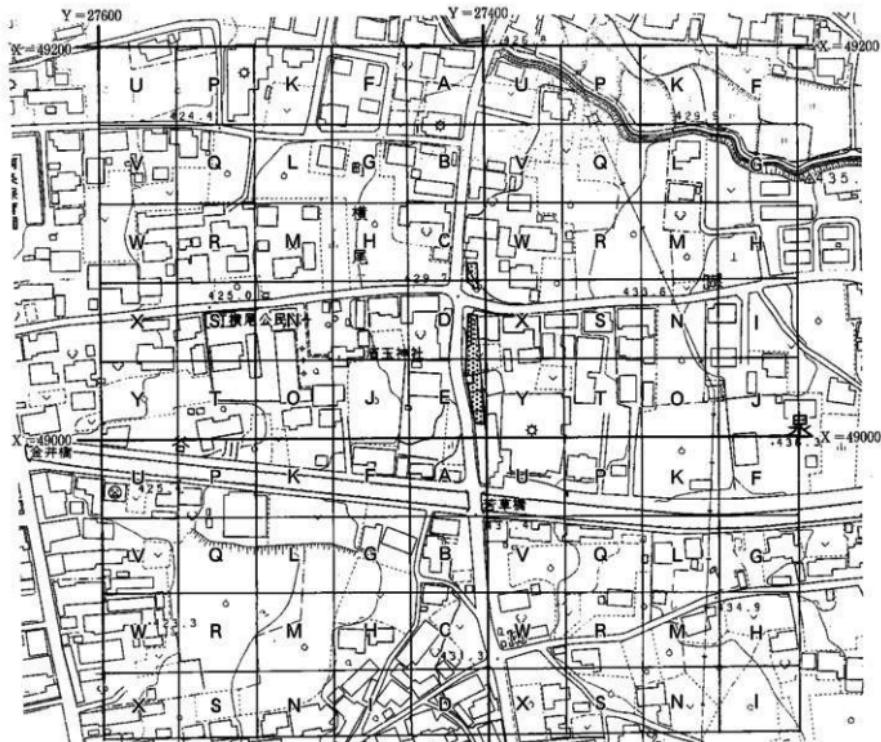
遺跡番号	遺跡名	種別	時代	遺跡番号	遺跡名	種別	時代
1	南条遺跡群 真庭遺跡	墓葬地	古生~平安	24	伊豆野遺跡	墓葬地	平安
-1	南条遺跡群 伊豆真庭 (望5)	墓葬地	古生~平安	25	平岡遺跡	墓葬地	平安
-2	南条遺跡群 百人野遺跡	墓葬地	古生~平安	26	和田遺跡群 和田八幡跡	集落跡	平安
-3	南条遺跡群 一百人野遺跡 (南街)	墓葬地	古生~平安	-1	和田遺跡群 和田白山跡	墓葬地	平安
-4	南条遺跡群 伊豆真庭 (南街)	墓葬地	古生~平安	-2	和田遺跡群 和田白山跡	取水場	平安
-5	南条遺跡群 伊豆真庭 (南街)	墓葬地	古生~平安	-3	和田遺跡群 和田C跡	取水場	平安
-6	南条遺跡群 四日丘遺跡	墓葬地	古生~平安	37	上山遺跡群	古墳	古墳 (後期)
-7	南条遺跡群 丹波山遺跡 (田端)	墓葬地	古生~平安	38	月上山遺跡	古墳	古墳 (後期)
-8	南条遺跡群 青木下山遺跡	墓葬地	古生~平安	39	馬の瀬遺跡	古墳	古墳 (後期)
-9	南条遺跡群 水田跡	墓葬地	古生~平安	40	北日吉遺跡	古墳	古墳 (中世)
-10	南条遺跡群 金井遺跡	墓葬地	古生~平安	41	北日吉と古墳群	古墳	古墳 (後期)
-11	北条西御跡群 番木木下山遺跡	墓葬地	古生~平安	-1	佐久原南六丁目遺跡	古墳	古墳 (後期)
-12	北条西御跡群 番木木下山遺跡	墓葬地	古生~平安	-2	佐久原南六丁目遺跡	古墳	古墳 (後期)
3	今井東遺跡群	墓葬地	古生~平安	42	鶴ノ瀬遺跡	墓葬地	古墳 (後期)
-1	今井東遺跡群 保佐遺跡	墓葬地	古生~平安	43	栗山遺跡	墓葬地	古墳 (後期)
-2	今井東遺跡群 山合山遺跡	墓葬地	古生~平安	44	花尾跡	墓葬地	古墳 (後期)
-3	今井東遺跡群 大木水跡 (南条小学校跡)	墓葬地	古生~平安	45	出浦古墳群 出浦古墳群	古墳	古墳 (後期)
4	今井西遺跡群 王室古墳	墓葬地	古生~平安	-1	出浦古墳群 出浦古墳1号墳	古墳	古墳 (後期)
5	今井西遺跡群 灯	古墳	中世	-2	出浦古墳群 出浦古墳2号墳	古墳	古墳 (後期)
6	明治原遺跡	古墳	古生~平安	-3	出浦古墳群 出浦古墳3号墳	古墳	古墳 (後期)
7	北山古墳	古墳	古墳 (後期)	-4	北山古墳	古墳	古墳 (後期)
-1	北山古墳	古墳	古生~平安	-5	出浦古墳群 出浦古墳4号墳	古墳	古墳 (後期)
-2	北山古墳	古墳	古生~平安	-6	出浦古墳群 猪木村1号墳	古墳	古墳 (後期)
-3	北山古墳	古墳	古生~平安	-7	出浦古墳群 猪木村2号墳	古墳	古墳 (後期)
-4	北山古墳	古墳	古生~平安	46	西酒跡	墓葬地	古生~平安
-5	北山古墳	古墳	古生~平安	47	蛭塚古墳群 芦野大塚1号墳 (鶴岡寺古墳)	古墳	古墳 (後期)
-6	北山古墳	古墳	古生~平安	-1	蛭塚古墳群 芦野大塚1号墳	古墳	古墳 (後期)
9	新井山古墳 (第六穴)	古墳	古墳 (後期)	-2	蛭塚古墳群 小野大塚2号墳	古墳	古墳 (後期)
10	新井山古墳	古墳	古墳 (後期)	-3	蛭塚古墳群 小野大塚3号墳 (ヤツカツ古墳)	古墳	古墳 (後期)
-1	新井山古墳 入井花古墳 向古塚	古墳	古墳 (後期)	-4	蛭塚古墳群 小野大塚4号墳	古墳	古墳 (後期)
-2	新井山古墳 入井花古墳 向古塚	古墳	古墳 (後期)	48	小野大塚跡	墓葬地	古生~平安
11	大字火船跡	古墳	古生~平安	49	川口古墳群 八郎古塚	古墳	古墳 (後期)
12	川口古墳群 上原古塚	古墳	古生~平安	50	川口古墳群 朝堂寺古墳	古墳	古墳 (後期)
13	川口古墳群	古墳	古生~平安	51	更賀古墳	古墳	古生~平安
14	川口古墳群 山口古塚	古墳	古生~平安	52	三木古墳	古墳	古生~平安
15	川口古墳群	古墳	古生~平安	53	御前山御跡	古墳	古生~平安
16	川口古墳群 前山古塚	古墳	古生~平安	54	込山古墳群	古墳	古生~平安
-1	川口古墳群 前山古塚	古墳	古生~平安	55	理谷古墳群	古墳	古生~平安
-2	川口古墳群 前山古塚	古墳	古生~平安	56	御前山御跡	古墳	古生~平安
-3	川口古墳群 前山古塚	古墳	古生~平安	57	日之出古墳	古墳	古生~平安
-4	川口古墳群 花波古塚	古墳	古生~平安	58	日向古墳	古墳	古生~平安
-5	川口古墳群 宮上古塚	古墳	古生~平安	59	直尾山御跡	古墳	古生~平安
-6	川口古墳群 北川山遺跡	墓葬地	古生~平安	60	御城跡	古墳	古生~平安
17	新井山古墳	古墳	古生~平安	61	御木古官道跡	古墳	古生~平安
-1	新井山古墳 前山古塚	古墳	古生~平安	62	御木古官道跡	古墳	古生~平安
-2	新井山古墳 前山古塚	古墳	古生~平安	63	豊下古墳	古墳	古生~平安
-3	新井山古墳 前山古塚	古墳	古生~平安	64	中之条石切古墳	古墳	古生~平安
-4	新井山古墳 前山古塚	古墳	古生~平安	65	浜伏古墳	古墳	古生~平安
-5	新井山古墳 前山古塚	古墳	古生~平安	66	浜伏古墳	古墳	古墳 (後期)
-6	新井山古墳 前山古塚	古墳	古生~平安	67	中之条代古跡所	古墳	古墳 (後期)
-7	新井山古墳 前山古塚	古墳	古生~平安	68	御用古墳	古墳	古墳 (後期)
-8	新井山古墳 前山古塚	古墳	古生~平安	69	御用古墳	古墳	古墳 (後期)
-9	新井山古墳 前山古塚	古墳	古生~平安	70	御用古墳群 (吉1号墳)	古墳	古墳 (後期)
-10	新井山古墳 前山古塚	古墳	古生~平安	71	口曾根古墳	古墳	古墳 (後期)
-11	新井山古墳 向山1号塚	古墳	古生~平安	72	和合古墳	古墳	古墳 (後期)
-12	新井山古墳 向山1号塚	古墳	古生~平安	73	高ノツ城跡	古墳	古墳 (後期)
-13	新井山古墳 向山1号塚	古墳	古生~平安	74	虚空藏山跡	古墳	古墳 (後期)
-14	新井山古墳 向山1号塚	古墳	古生~平安	75	瑞應院跡 (御前山御跡)	古墳	古墳 (後期)
16	新井山古墳 東平野古塚	古墳	古生~平安	81	御前山御跡	古墳	古墳 (後期)
17	新井山古墳 山田古塚	古墳	古生~平安	82	小川古墳	古墳	古墳 (後期)
18	新井山古墳 山田古塚	古墳	古生~平安	83	御用古墳	古墳	古墳 (後期)
19	新井山古墳 山田古塚	古墳	古生~平安	84	御用古墳群 五條支前1号塚	古墳	古墳 (後期)
20	新井山古墳	古墳	古生~平安	85	御用古墳群 五條支前2号塚	古墳	古墳 (後期)
21	新井山古墳	古墳	古生~平安	86	御用古墳	古墳	古生~平安
22	人月山遺跡	古墳	古生~平安	87	出浦古墳	古墳	古生~平安
23	四ノ矢遺跡群	古墳	古生~平安	88	上五瀬多木田塚	古墳	平安~近世
24	成久田遺跡	古墳	古生~平安	78	水田塚	古墳	平安~近世
25	大元遺跡	古墳	古生~平安	79	出浦古墳	古墳	古生~平安
26	新井山古墳 (御牛古塚)	古墳	古生~平安	80	村上氏御跡	古墳	古生~平安
27	新井山古墳	古墳	古生~平安	81	御前山御跡	古墳	古生~平安
28	新井山古墳	古墳	古生~平安	82	小川古墳	古墳	古生~平安
29	新井山古墳	古墳	古生~平安	83	御用古墳	古墳	古生~平安
30	新井山古墳	古墳	古生~平安	84	御用古墳	古墳	古生~平安
31	名古山遺跡群	古墳	古生~平安	85	御用古墳	古墳	古生~平安
-1	名古山遺跡群 日向山古墳 (石宮神)	古墳	古生~平安	86	鳥山古墳	古墳	古生~平安
-2	名古山遺跡群 日向山古墳 (交又)	古墳	古生~平安	87	鳥山古墳	古墳	古生~平安
-3	名古山遺跡群 丸山古墳	古墳	古生~平安	88	鳥山古墳	古墳	古生~平安
-4	名古山遺跡群 丸山古墳 (交又)	古墳	古生~平安	89	上高良遺跡	古墳	古生~平安
-5	名古山遺跡群 丸山古墳 (交又)	古墳	古生~平安	90	猿伏北山古墳	古墳	古生~平安

第Ⅲ章 調査の概要

第1節 調査の方法

本遺跡の調査では、調査区の遺構・遺物の正確な位置を記録でき、なお、将来的に周辺で実施される遺跡の発掘調査での遺構・遺物の調査にも整合できるように、平成14年4月施行の世界測地系2000の座標軸を基にグリッドを組んだ。

グリッドについては、200m×200mの大グリッドを設け区画を行い、その中を40m×40mに25等分した中グリッドを設定（第3図）し、北東端より「A・B・C…Y」区とアルファベットの大文字で命名した。本調査ではC・D・E区が発掘調査の対象グリッドである。また、その中グリッドを4m×4mの小グリッドで100区画に分割し、南北列を北から算用数字で「1・2・3…10」、東西列を東から五十音順で「あ・い・う…こ」と呼称することとした。例えば、その中の北東交点を「Oグリッド」というように命名し、調査に係るグリッドの呼称は例えば「Oあ1グリッド」とし、遺物の取り上げや遺構図の作成の基準とした。また、発掘調査における遺構の実測は、基本的に1/20を基準として簡易造り方実測にて行った。



第3図 町横尾遺跡II発掘調査区設定図 (1:2,500)

第2節 基本層序

本調査区の基本層序は右図に柱状図を示したとおりである。I層は砂礫を多く含むにぶい黄褐色土層で、耕作土である。II層は褐色土層で、旧表土層である。III層はいわゆる遺構の覆土となる。IV層は明黄褐色の砂礫層で、地山である。

以上が本調査区の基本層序であるが、調査区南部では過去に行われた擾乱や造成が直接地山面まで及んでいた。



第4図 基本層序模式図

第3節 検出された遺構・遺物

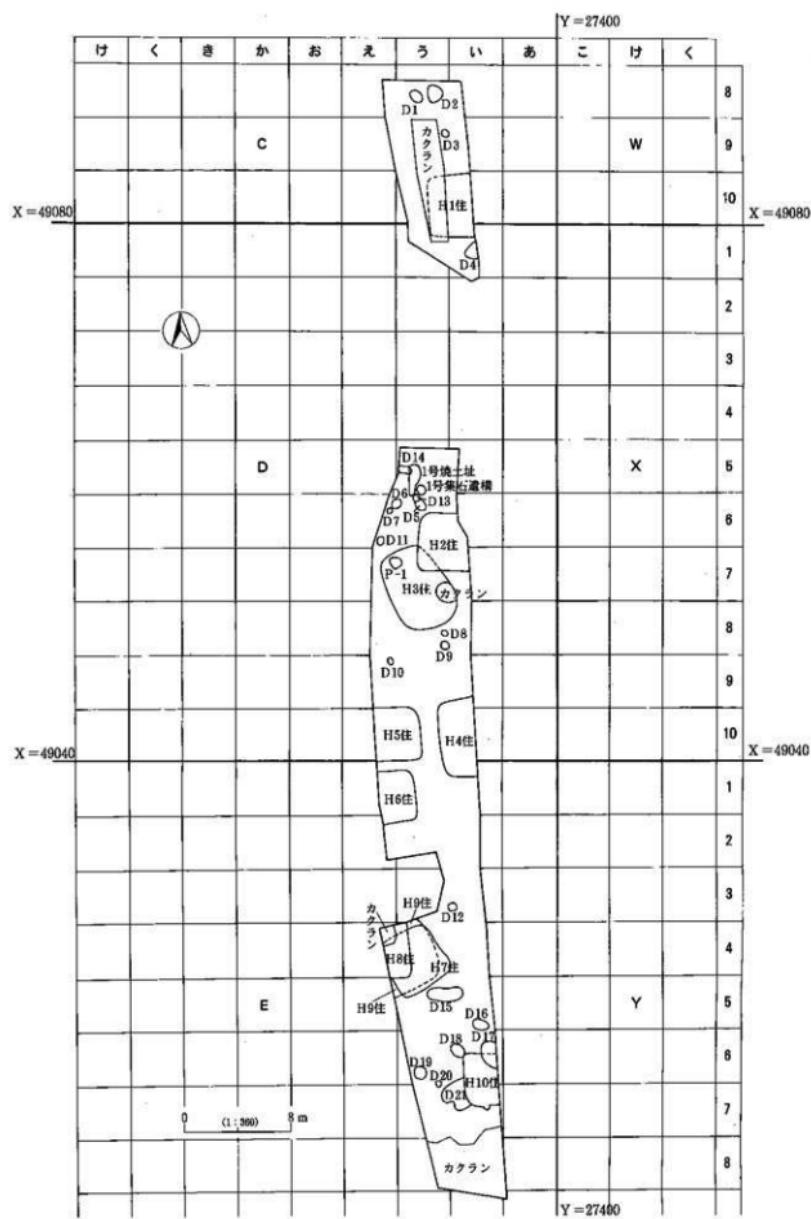
本調査によって検出された遺構・遺物は以下のとおりである。

遺構)

縄文時代	竪穴住居址	3棟
	土坑址	4基
弥生時代	竪穴住居址	1棟
	土坑址	1基
古墳時代	竪穴住居址	2棟
奈良・平安時代	竪穴住居址	4棟
中世	土坑址	1基
時期不明	土坑址	15基
	集石遺構	1基
	焼土址	1基

遺物)

縄文時代	土器・石器
弥生時代	土器・石器
古墳時代	土師器
奈良・平安時代	土師器・須恵器
中世	古錢



第5図 町横尾遺跡 II 遺構配図

第IV章 調査の結果

第1節 壇穴住居址

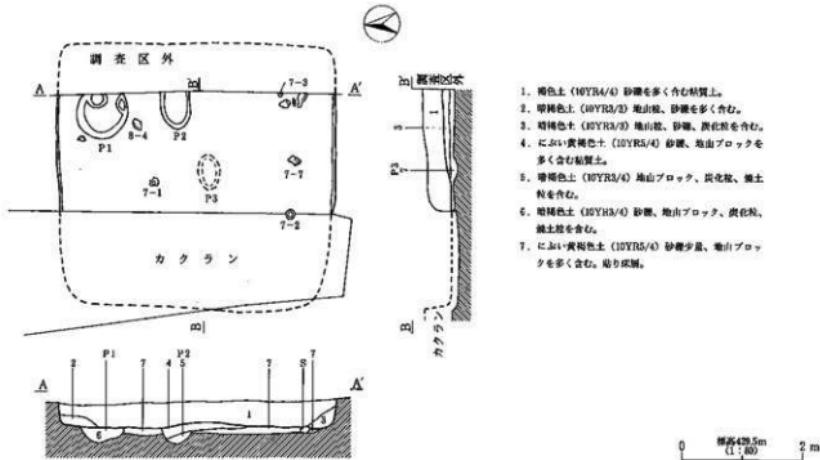
(1) H 1号住居址

遺構(第6図)

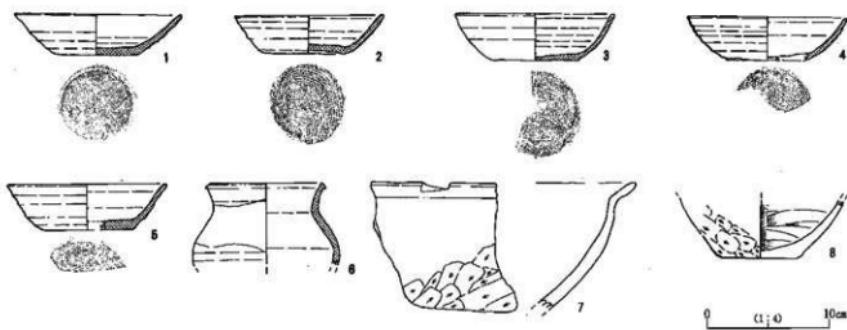
検出位置: C い10、C う10、D い1、D う1グリッド。重複関係: 西側は擾乱を受ける。東側は調査区外未検出のため不明である。平面形態: 調査区外など未検出であるが、概ね4.6m×4.6mの隅丸方形を呈するものと思われる。主軸方位はN-87°-Eを指す。覆土: 暗褐色を基調とする土層が、緩やかなレンズ状堆積を呈していた。カマド: 今回の調査では検出されなかった。東側の調査区外に所在するものと思われる。床面の状況: 概ね平坦であった。地山を2段に掘り込んで、床土を敷きこんでいた。この床土は執拗なまでも叩き占められていた。掘り方の底面は地山砂礫層の礫が突出していた。ピット: 床面及び掘り方底面において、複数のピットが確認された。用途などは判然としない。遺物出土状況: 住居址の覆土上層からも少量は出土したが、ほとんどの遺物は中層以下からの出土であった。7-2は床面直上から出土した。柱穴: 本住居址では主柱穴は確認できなかった。

遺物(第7・8図、第1・4・5表)

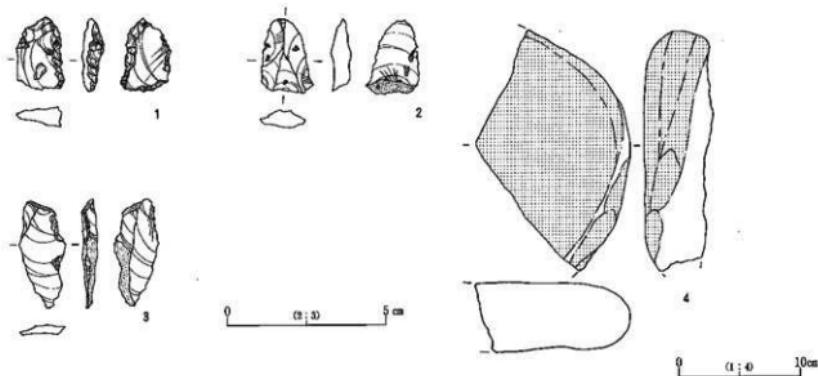
7-1~5は須恵器壺である。底部に明瞭な回転糸切り痕を残す。6は須恵器の壺である。7は土師器の鉢である。8は土師器の壺でヘラケズリが顕著である。8-1~3は黒耀石である。1は石鎚の未製品である。2は石鎚の素材である。3は再加工痕のみとめられる剥片である。4は磨石で、表面と下側面に広く磨滅痕が認められる。時期: 出土遺物や住居址の形態から平安時代前半頃の所産と思われる。



第6図 H 1号住居址実測図



第7図 H1号住居址出土器実測図

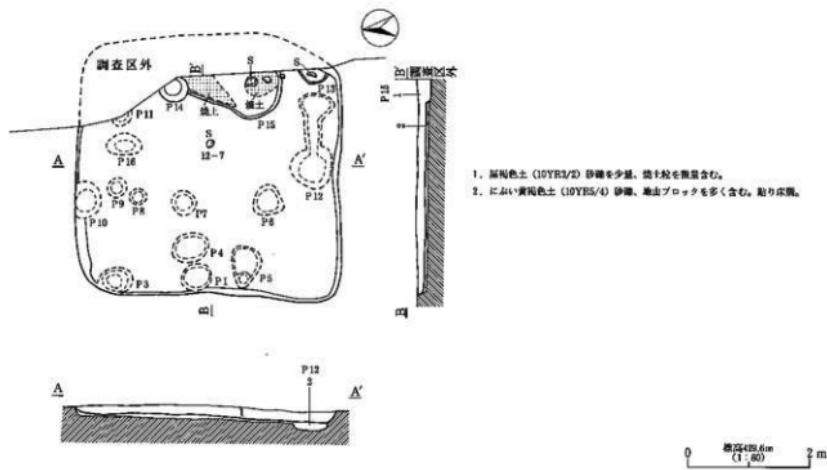


第8図 H1号住居址出土石器実測図

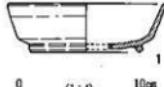
(2) H2号住居址

遺構(第9図)

検出位置:Dい6、Dう6、Dい7、Dう7グリッド。重複関係:東側が調査区外未検出のため不明である。平面形態:調査区外など未検出であるが、概ね4.3m×4.3mの隅丸方形を呈するものと思われる。主軸方位はN-90°-Eを指す。覆土:黒褐色・暗褐色を基調とする土層が、緩やかなレンズ状堆積を呈していた。カマド:今回の調査では検出されなかった。P15付近に炭化粒や焼土粒が多く見られることなどから、東側の調査区外に所在するものと思われる。床面の状況:概ね平坦であった。地山を掘り込んだ後に、厚さ数センチの床土を敷きこんでいた。ピット:床面及び掘り方底面において、複数のピットが確認された。用途などは判然としない。遺物出土状況:住居址の覆土上・中層からも少量は出土したが、ほとんどの遺物は下層からの出土であった。柱穴:本住居址では主柱穴は確認できなかった。



第10図 H2号住居址出土土器実測図

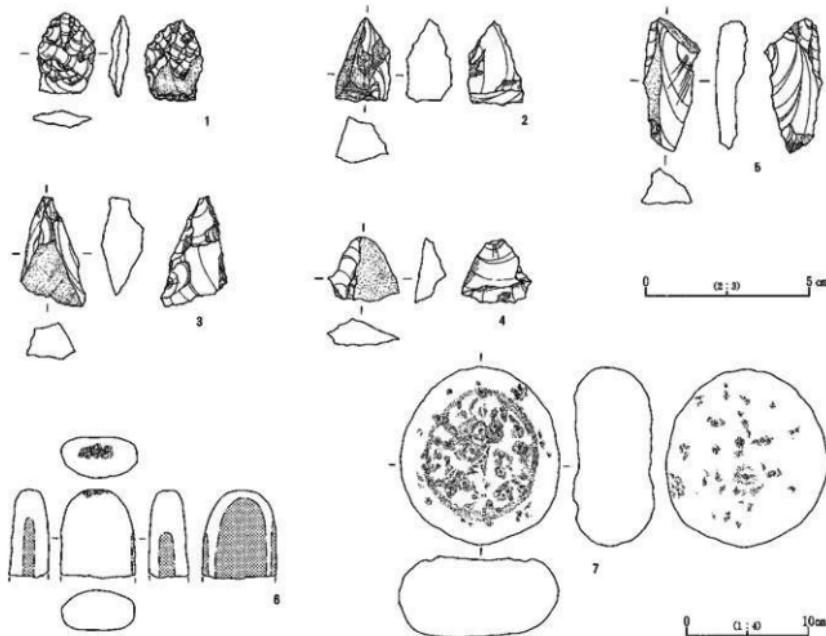


第11図 H2号住居址混入土器実測図



遺物 (第10・11・12図、第1・4・5表)

10-1は須恵器の壺で高台が貼付されている。11-1は縄文土器片で、斜位の櫛歯状刻みが施されている。12-1～5は黒耀石である。1は石鏃の未製品である。2～4は素材である。5は石錐の素材であろう。6は磨石ないしは凹石である。7は凹石で中央付近に顕著な敲打痕を残す。時期：出土遺物や住居址の形態から奈良時代頃の所産と思われる。



第12図 H 2号住居址出土石器実測図

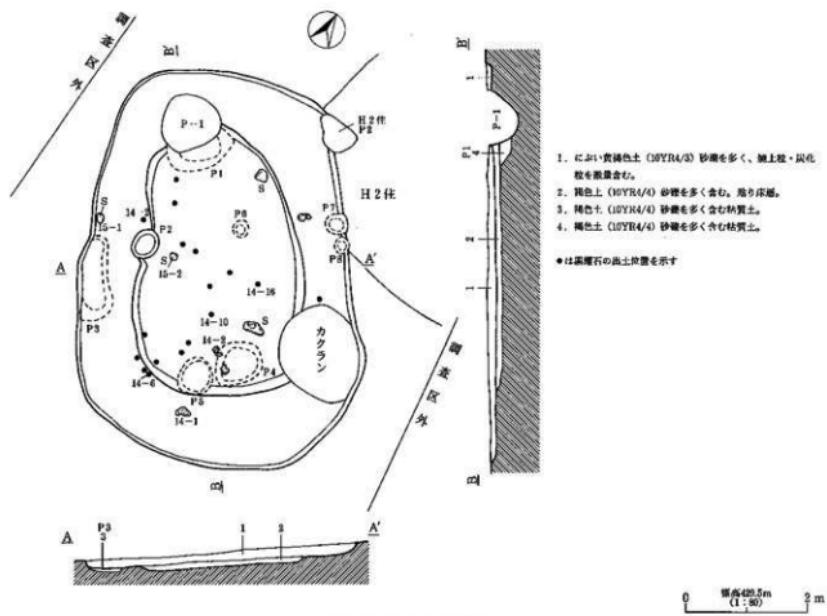
(3) H 3号住居址

遺構(第13図)

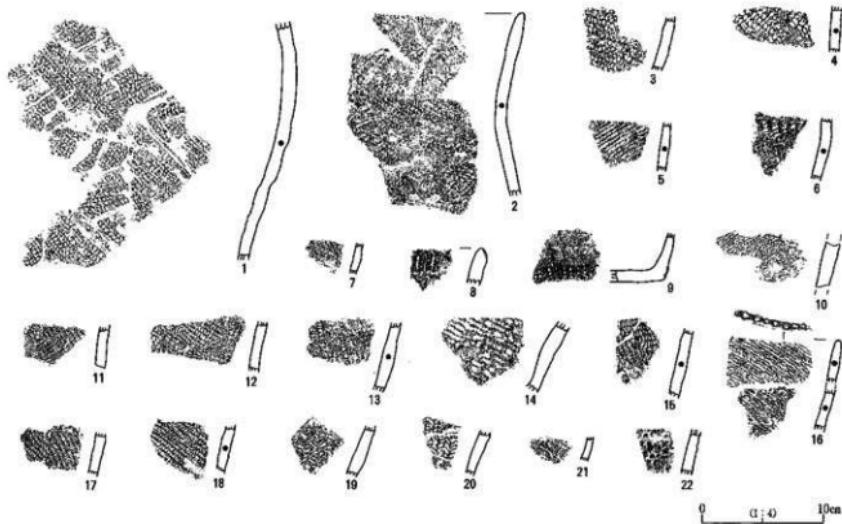
検出位置: Dい7、Dい8、Dう7、Dう8、Dえ7、Dえ8グリッド。重複関係: H 2号住居址、P-1に切られ、東部に擾乱を受ける。平面形態: 長軸約6.4m、短軸約4.5mの梢円形を呈している。主軸方位はN-29°-Wを指す。覆土: にぶい黄褐色を基調とする土層が堆積していた。炉址: 今回の調査では検出されなかった。床面の状況: 概ね平坦であった。地山を2段に掘り込んだ後に、厚さ数センチの床土を敷きこんでいた。ピット: 床面及び掘り方底面において、複数のピットが確認された。用途などは判然としない。遺物出土状況: 遺物のほとんどが下層～床面直上の出土であった。柱穴: 本住居址では主柱穴は確認できなかった。

遺物(第14・15・16・17・18図、第1・4・5・6表)

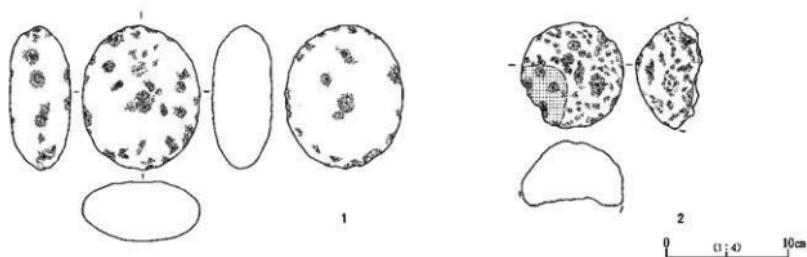
14-1～22は縄文土器の深鉢である。1・2は羽状縄文が施されている。16は口縁部で、外面には無節縄文が施されている。口唇部には刻目が施されている。3には異条縄文が施されている。5・14には無節縄文が施されている。19・20には組紐原体を施している。7には浅い櫛歯文が施されている。8は口縁部で、単沈線による連続刻み目を施している。6には櫛状工具による刺突文が施されている。9は底部で3本一组の櫛歯様工具による刺突文が施されている。21には単沈線による格子目文が施されている。22には押型文が施されている。15-1は凹石で表裏面に浅い敲打痕を残す。2は凹石で全面に顕著な敲打痕を残し、側面



第13図 H3号住居址実測図



第14図 H3号住居址出土土器等実測図



第15図 H 3号住居址出土石器実測図(1)

に磨滅痕を残す。16-1～18-17は黒耀石である。16-1～3は石核である。4は石錐の未製品が欠損したものである。5は石錐である。16-6～17-7は石錐の未製品で製作途中に欠損したものもある。8は再加工痕のみとみられる剥片である。17-9～18-17は素材である。時期：出土遺物や住居址の形態から縄文時代前期の所産と思われる。

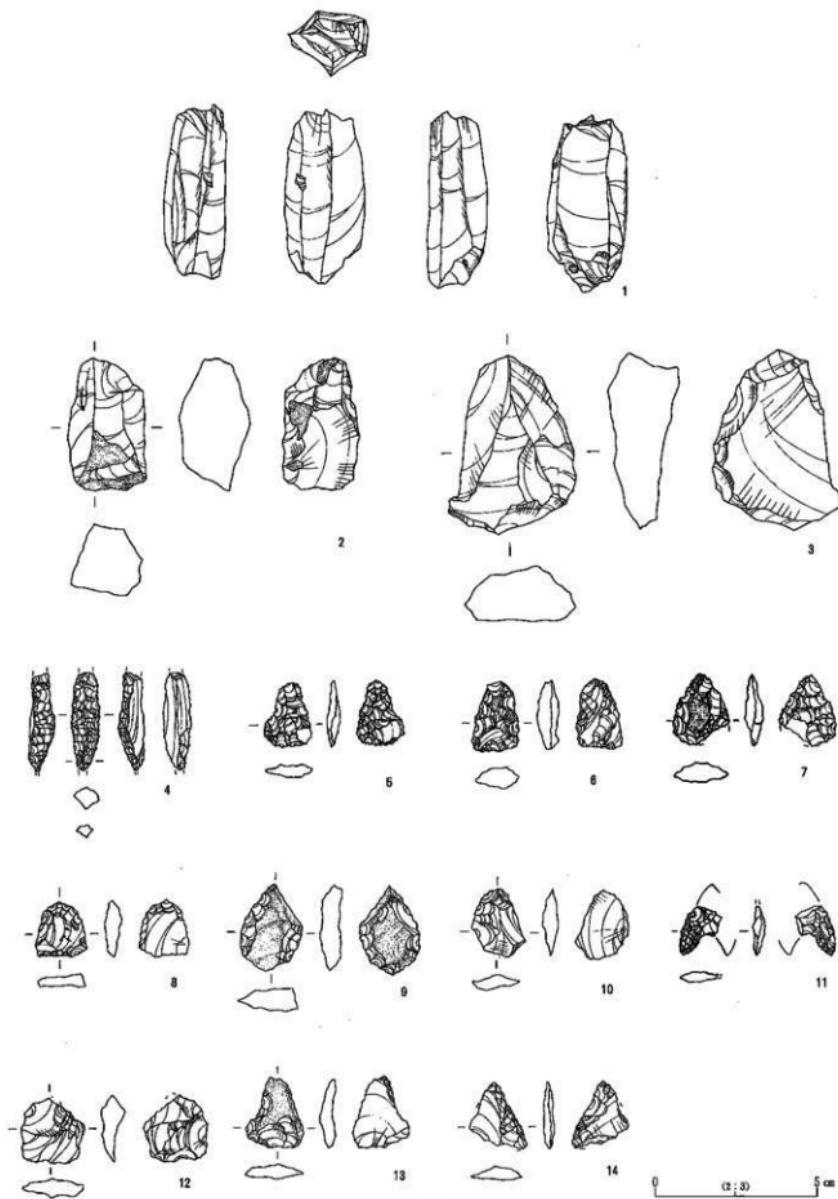
(4) H 4号住居址

遺構(第19図)

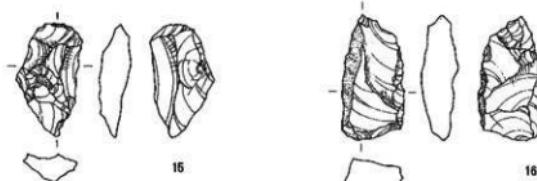
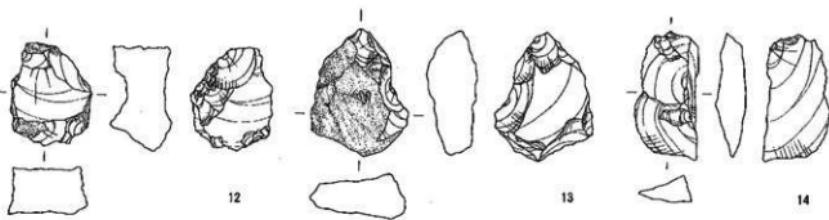
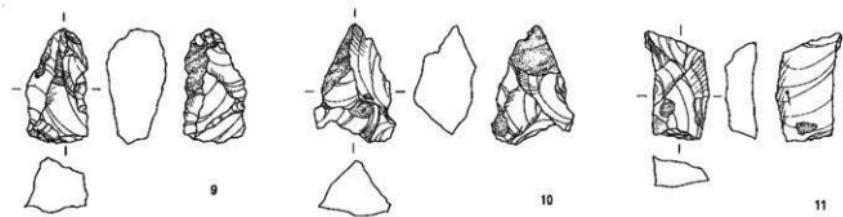
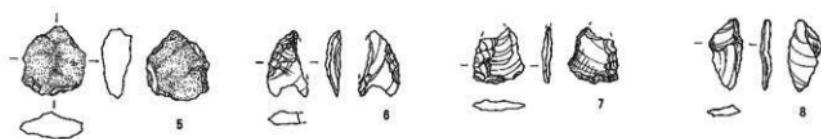
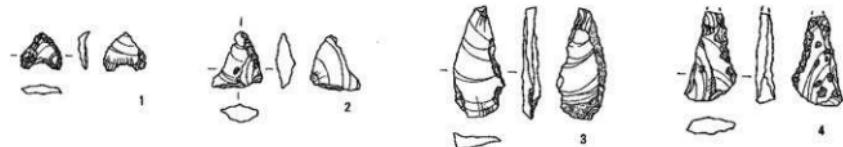
検出位置：Dい9、Dう9、Dい10、Dう10、Eい1、Eう1グリッド。重複関係：東側が調査区外未検出のため不明である。覆土中より縄文・弥生時代の遺物が多く出土していることから、調査区外において縄文・弥生時代の遺構と重複関係にあることも推知される。平面形態：調査区外未検出のため詳細は不明であるが、概ね6m×6mの隅丸方形を呈するものと思われる。主軸方位はN-85°-Eを指す。覆土：暗褐色を基調とする土層が、緩やかなレンズ状堆積を呈していた。カマド：今回の調査では検出されなかった。東側の調査区外に所在するものと思われる。床面の状況：概ね平坦であった。地山を掘り込んだ後に、厚さ数センチの床上を敷きこんでいた。ピット：床面及び掘り方底面において、2基のピットが確認された。遺物出土状況：住居址の覆土上・中層からも少量は出土したが、ほとんどの遺物は下層からの出土であった。柱穴：本住居址では柱穴が2箇所確認された。残りの2箇所は調査区外の東側に所在しているものと思われる。断面形態は逆台形を呈しており、床面からの深さは約50cmであった。

遺物(第20・21・22図、第1・2・4・6表)

20-1～4は土師器甕である。1～3は底部に木葉痕を残す。21-1は縄文土器の深鉢の底部で、櫛歯状工具による連続刺突文が施されている。22-1は黒耀石の素材である。2は表裏面全体に粗い剥離調整を施して大型の石錐様の形状を作出している。詳細な使用目的や製作時期は不明である。4は凹石で表裏面と側縁に弱い敲打痕を残す。5は磨石で表裏面に磨滅痕を残す。7・8は石皿で、大きな河原自然石の表面に深い凹面を持ち、若干の敲打痕を残す。時期：出土遺物や住居址の形態から古墳時代後期頃の所産と思われる。

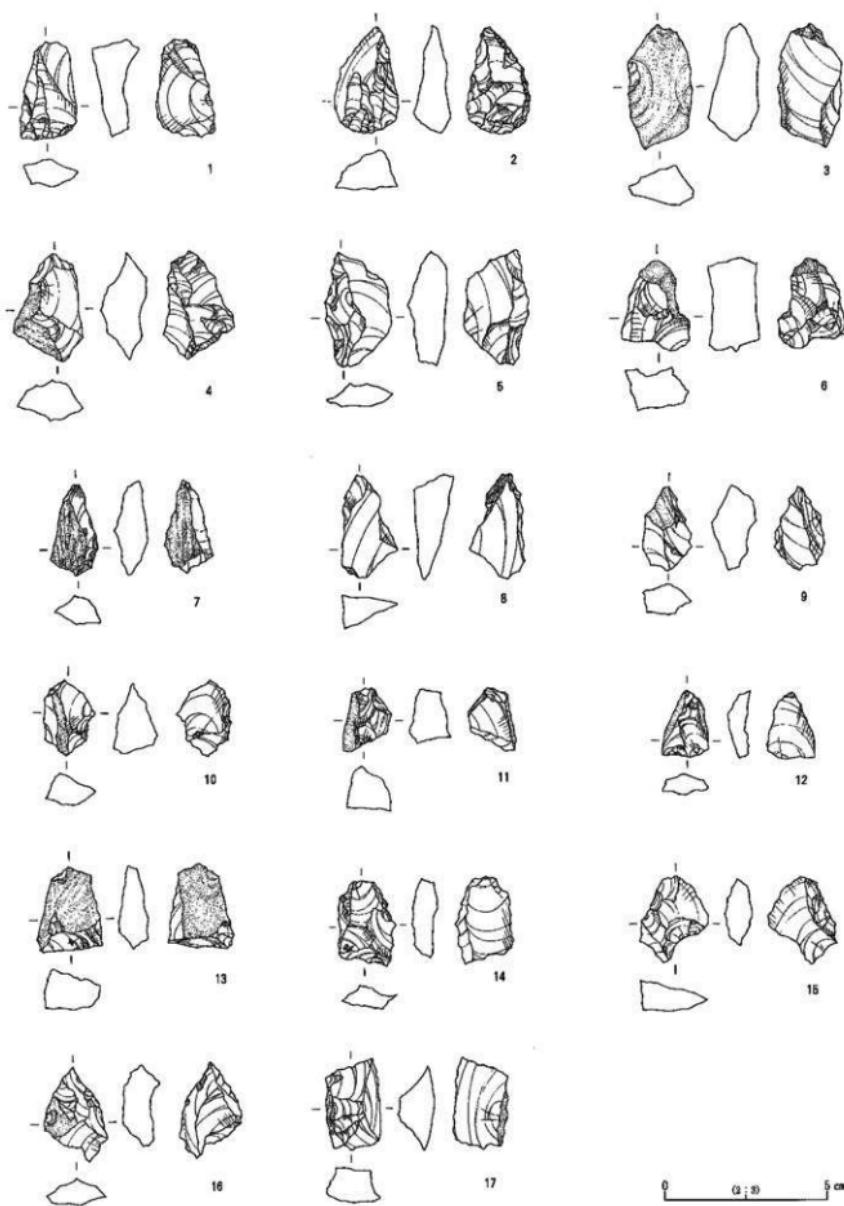


第16图 H3号住居址出土石器实测图(2)

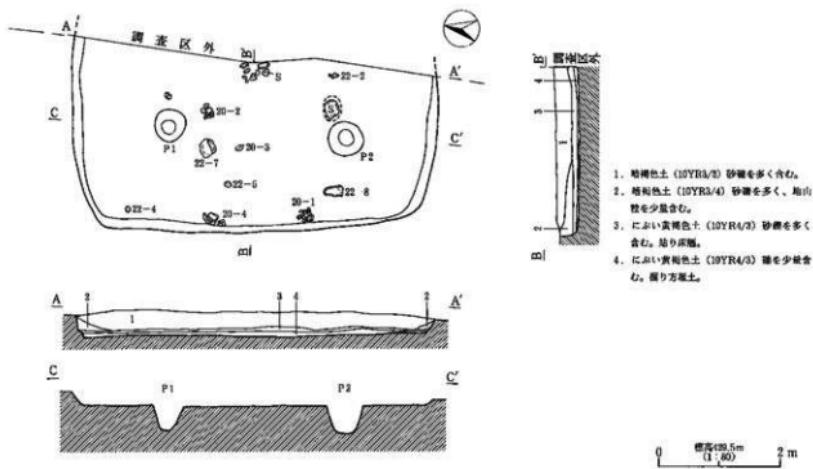


第17図 H-3居住居址出土石器実測図(3)

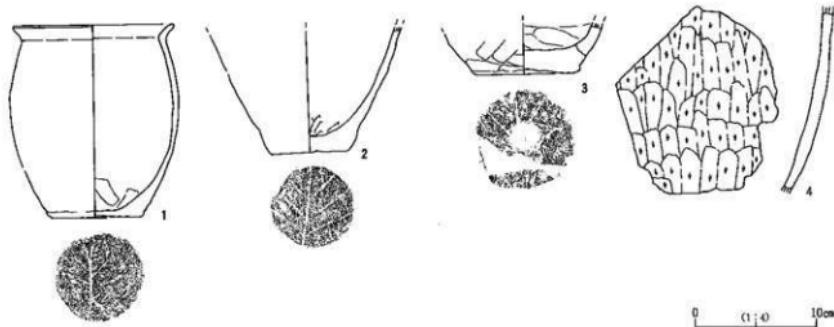
0 (2:3) 5 cm



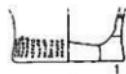
第18图 H 3 考住庙址出土石器实测图(4)



第19図 H4号住居址実測図

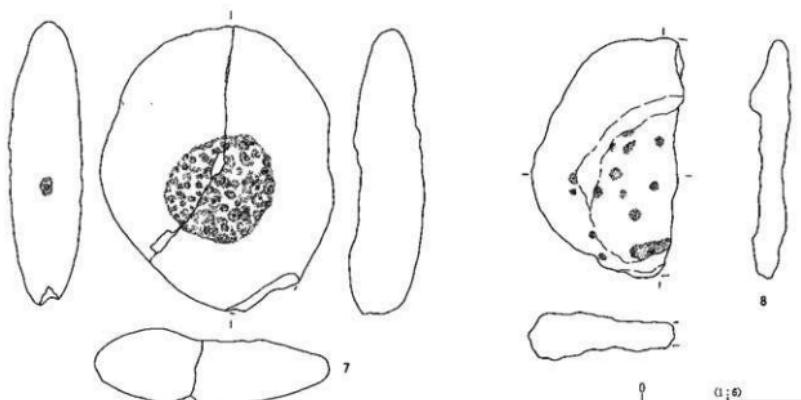
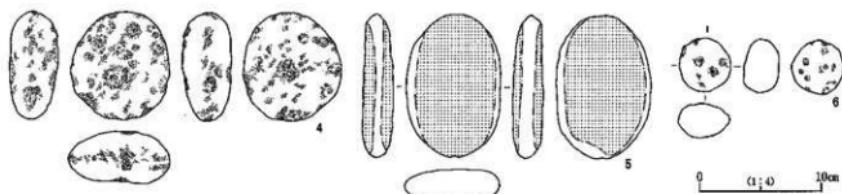
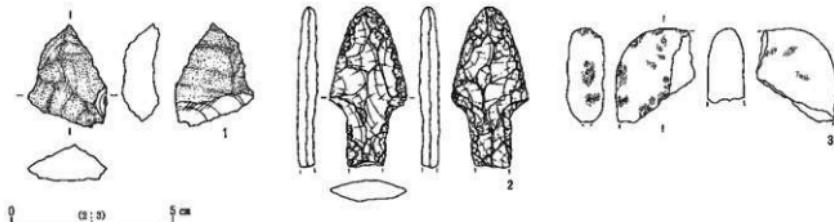


第20図 H4号住居址出土土器実測図

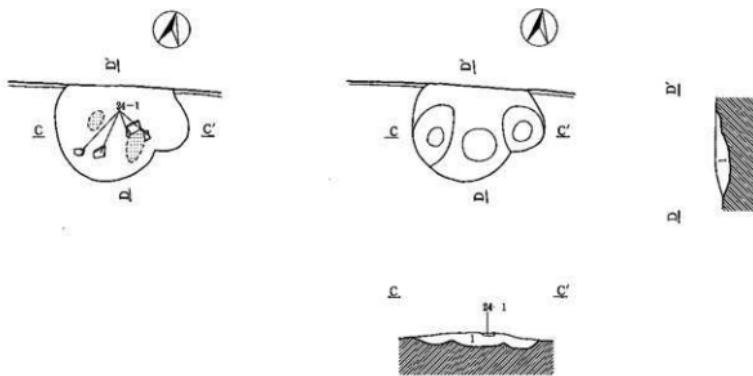
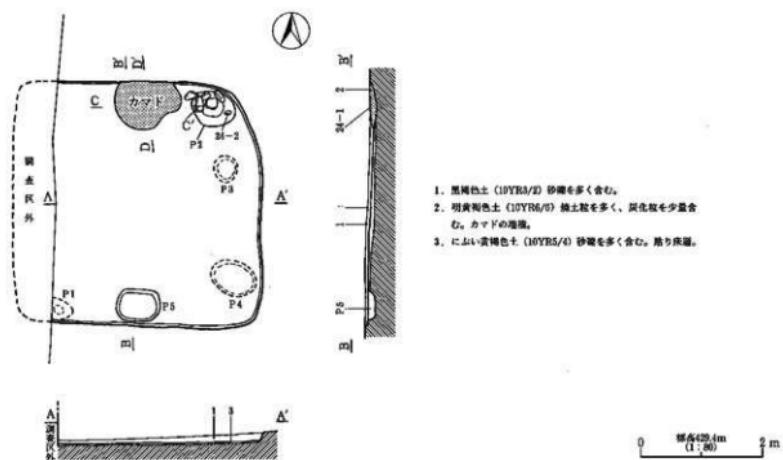


0 1:40 10cm

第21図 H 4号住居址混入土器実測図



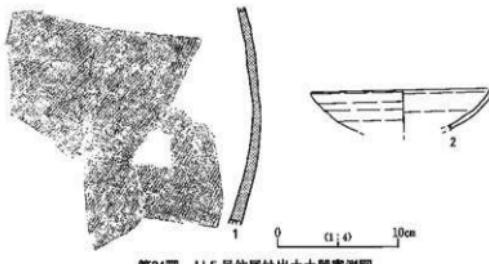
第22図 H 4号住居址出土石器実測図



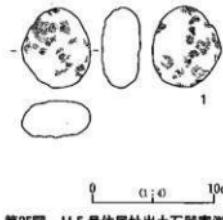
1. 明黃褐色土 (10YR6/0) 炭化粒・沈土粒・
明黃褐色粘土ブロックを含む。カマドの底座部。

0 50cm (1:40) 1m

第23図 H5号住居址・カマド実測図



第24図 H 5号住居址出土土器実測図



第25図 H 5号住居址出土石器実測図

(5) H 5号住居址

遺構 (第23図)

検出位置: Dう10、Dえ10グリッド。重複関係: 西側が調査区外未検出のため不明である。平面形態: 調査区外など未検出であるが、概ね $4\text{m} \times 4\text{m}$ の隅丸方形を呈するものと思われる。主軸方位はN— 0° —Eを指す。覆土: 黒褐色を基調とする土層が、緩やかな堆積を呈していた。カマド: 住居址の北側中央付近から確認された。住居址自体の削平が進んでいたため、カマドも基礎部分しか残存しておらず、明確なソデ構造を確認することはできなかった。床面の状況: 概ね平坦であった。地山を掘り込んだ後に、厚さ数センチの床土を敷きこんでいた。ピット: 床面及び掘り方底面において、複数のピットが確認された。用途などは判然としない。カマドの東側のP 2では、覆土中から径25cm程度の礫が検出されたがその意図するところは不明である。遺物出土状況: 住居址の覆土上・中層からも少量は出土したが、ほとんどの遺物は下層～床面直上からの出土であった。柱穴: 本住居址では主柱穴は確認できなかった。

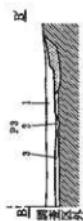
遺物 (第24・25図、第2・4表)

24-1は須恵器壺の肩部片である。2は土師器の壊である。25-1は敲石で表裏面に敲打痕を残す。時期: 出土遺物や住居址の形態から平安時代の所産と思われる。

(6) H 6号住居址

遺構 (第26図)

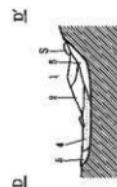
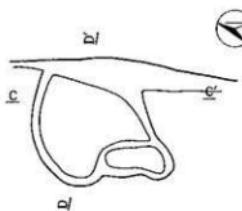
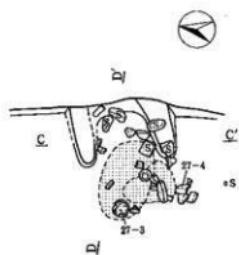
検出位置: Eう1、Eう2、Eえ1、Eえ2グリッド。重複関係: 西側が調査区外未検出のため不明である。平面形態: 調査区外など未検出であるが、概ね $4\text{m} \times 4\text{m}$ の隅丸方形を呈するものと思われる。主軸方位はN— 83° —Eを指す。覆土: 暗褐色を基調とする土層に覆われていた。カマド: 住居址の北側から確認された。住居址自体の削平が進んでいたため、カマドも基礎部分しか残存しておらず、ソデの下部構造の一部が確認されたにすぎなかった。床面の状況: 概ね平坦であった。地山を掘り込んだ後に、厚さ数センチの床土を敷きこんでいた。ピット: 掘り方底面において、複数のピットが確認された。用途などは判然としない。遺物出土状況: 住居址の覆土上・中層からも少量は出土したが、ほとんどの遺物は下層からの出土であった。床面からは被熱したと思しき板状の石材が出土した。(写真図版2) 柱穴: 本住居址では主柱穴は確認できなかった。



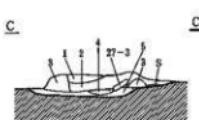
1. 暗褐色土。(DYYR3/3) 糜を含む。
2. にふい黄褐色土。(DYYR6/4) 粘土粒・炭化粧多く含む。カマドの堆積土。
3. にふい黄褐色土。(DYYR4/3) 糜を含む。燒り土層。



標高429.5m
(1:40)
2 m

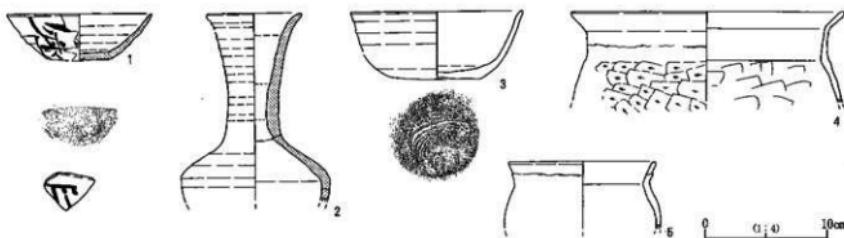


1. 黄褐色土。(DYYR5/5) 粘土・砂粒を含む。崩落したカマドの大井戸。
2. 暗褐色土。(DYYR3/3) 炭化粧・粘土粒多く含む。カマド焼落層。
3. 黄褐色土。(DYYR4/4) 戻った粘土ブロックを含む。カマドの被覆物層。
4. 暗赤褐色土。(DYYR3/6) 粘土粒・炭化粧多く含む。カマドの焼上層。
5. にふい黄褐色土。(DYYR5/4) 糜を多く含む。カマド焼落方塊。

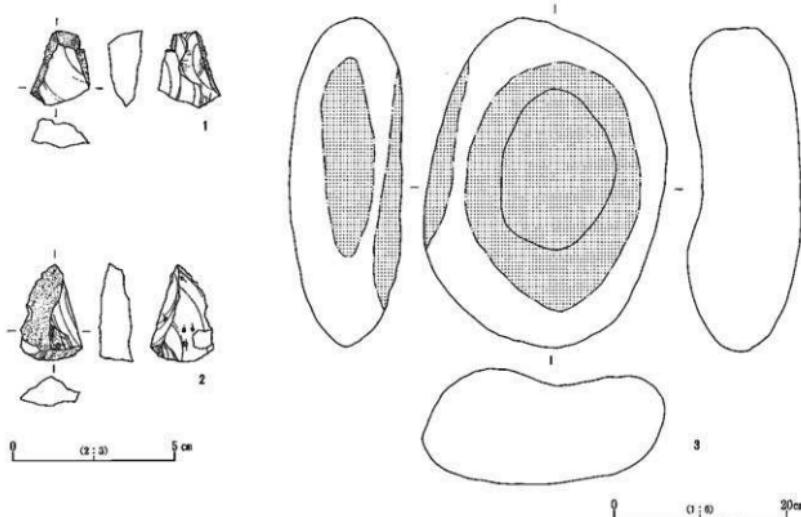


標高429.5m
(1:40)
2 m

第26図 H 6号住居址・カマド実測図



第27図 H 6号住居址出土土器実測図



第28図 H 6号住居址出土石器実測図

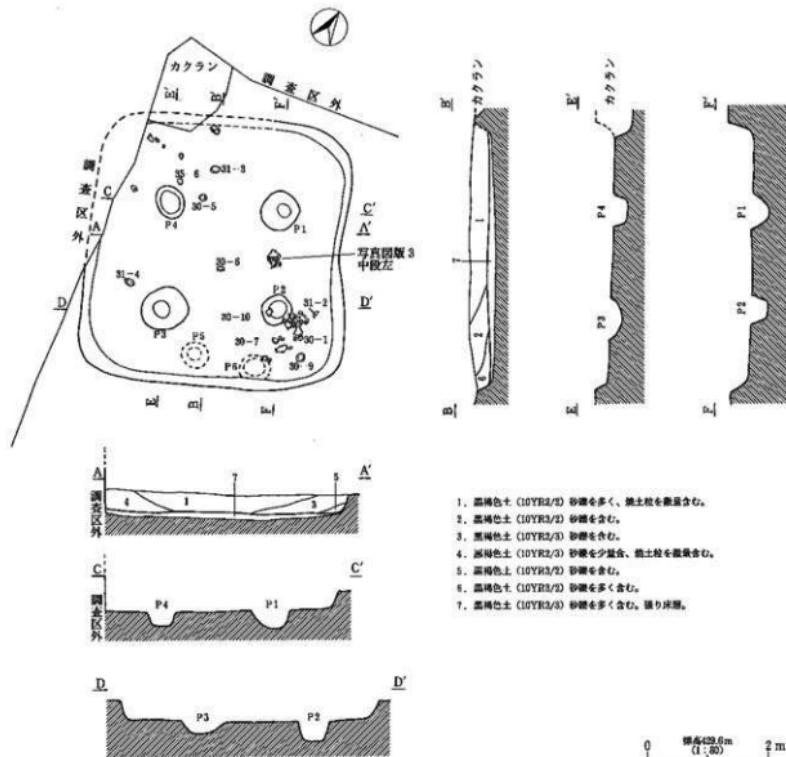
遺物 (第27・28図、第2・4・6表)

27-1は須恵器の环である。环部外面には墨書で「維」の文字が書かれている。この文字の上にも判然としない一文字があるので「□維」と読みとることができ、人名ではないかと思われる(平川南氏教示)。2は須恵器の長頸壺である。底部を欠損している。3は土師器环である。口縁部は若干外寄しており底部は回転糸切り痕が顕著である。4は土師器の壺で、いわゆる武藏型の壺である。口縁部が「コ」の字状を呈し、腹部にヘラケズリが施されている。5は土師器壺である。28-1・2は黒耀石の素材である。3は石皿である。硬く重い大きい川原自然礫の中央に磨滅使用に伴う顕著な凹面を持つ。時期：出土遺物や住居の形態から、平安時代前半頃の所産と考えられる。

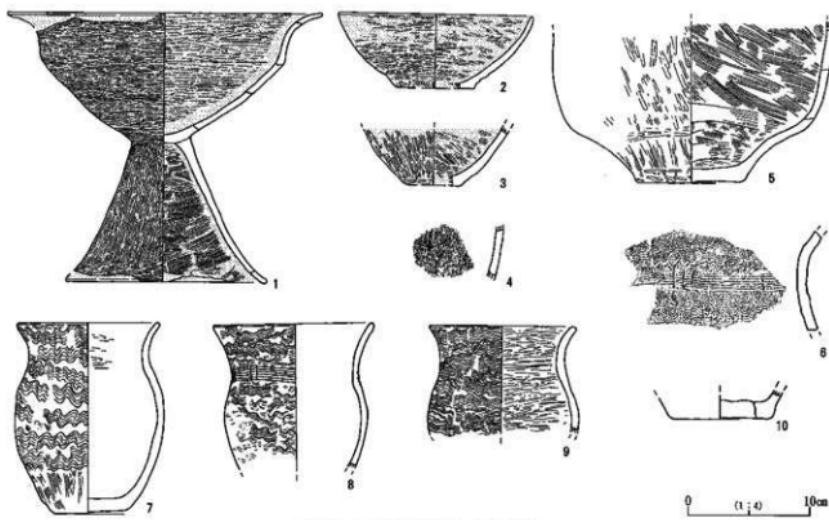
(7) H 7号住居址

遺構(第29図)

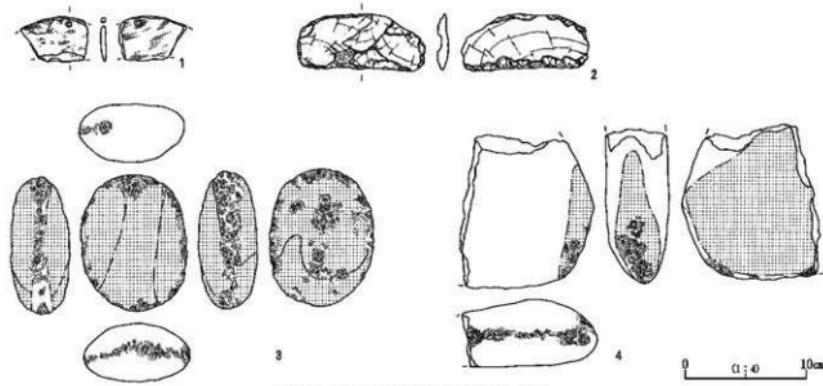
検出位置: Eう4、Eう5、Eえ4、Eえ5グリッド。重複関係: 調査区北側に擾乱を受け、H 8・9号住居址を切っている。その他は東側が調査区外未調査のため不明である。平面形態: 長軸約4.5m、短軸約4.2mの隅丸方形を呈するものと思われる。主軸方位はN-32°-Wを指す。覆土: 黒褐色を基調とする上層が、緩やかなレンズ状堆積を呈していた。炉址: 今回の調査では検出されなかった。床面付近における焼土や炭化物の検出も見られなかった。床面の状況: 概ね平坦であった。地山を掘り込んだ後に、厚さ数センチの床土を敷きこんでいた。ピット: 床面及び掘り方底面において、6基のピットが確認された。遺物出土状況: 住居址の覆土中から多くの遺物が出土したが、そのほとんどが下層からの出土であった。混入遺物の縄文土器は上層からも出土しているが、本住居址に伴う箱清水期の土器・石器類は下層～床面直上から、とりわけ床面直上からの出土が多かった。柱穴: 本住居址では主柱穴が4箇所確認された。断面形態は逆台形を呈し、住居址床面からの深さは30cm程度であった。



第29図 H 7号住居址実測図



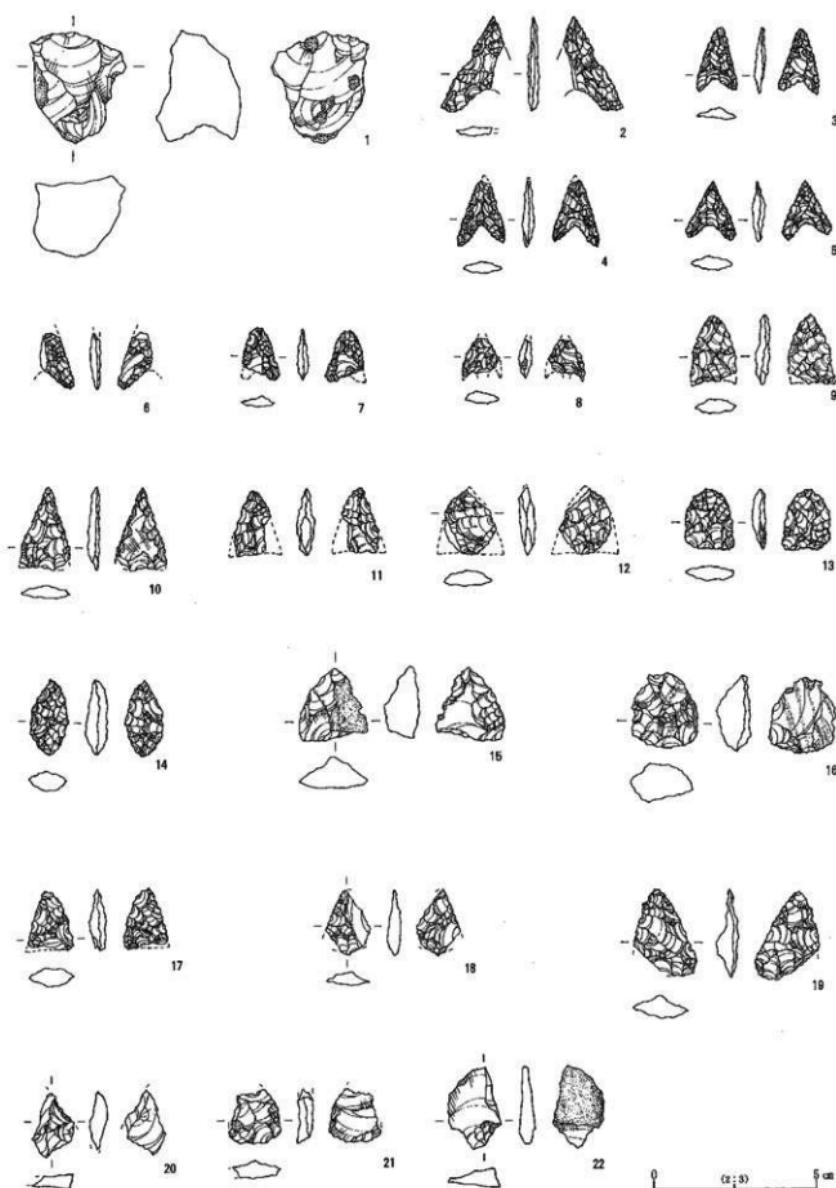
第30図 H 7号住居址出土土器実測図



第31図 H 7号住居址出土石器実測図(1)

遺物(第30・31・32・33・34・35図、第2・4・6・7図)

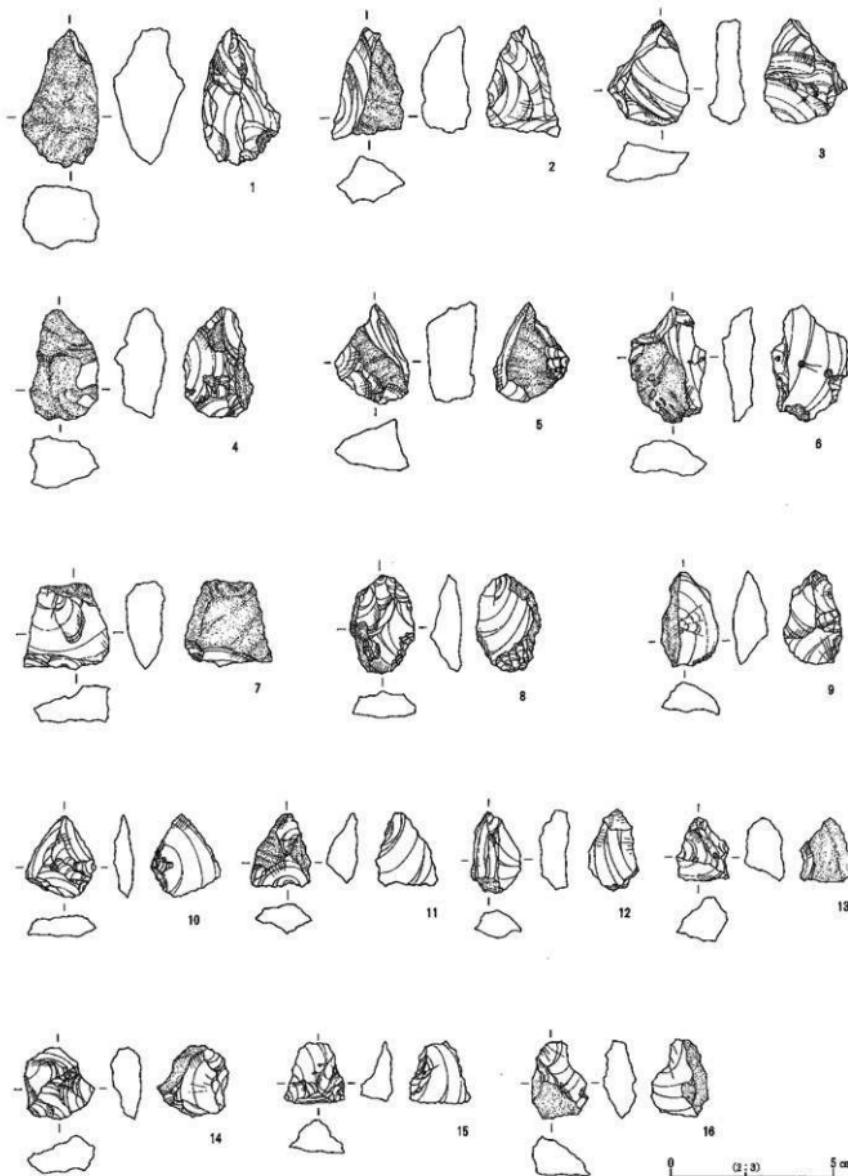
30-1~10は弥生土器である。1は高杯で丁寧なヘラミガキと赤色塗彩が施されている。2・3は鉢で横位あるいは縦位のヘラミガキと赤色塗彩が施されている。4は壺で細い単沈線による鋸歯文が施されている。5は壺の胴下半部である。6・8は壺で口縁部から頸部にかけて櫛描き波状文を施し、頸部には櫛描き縞状



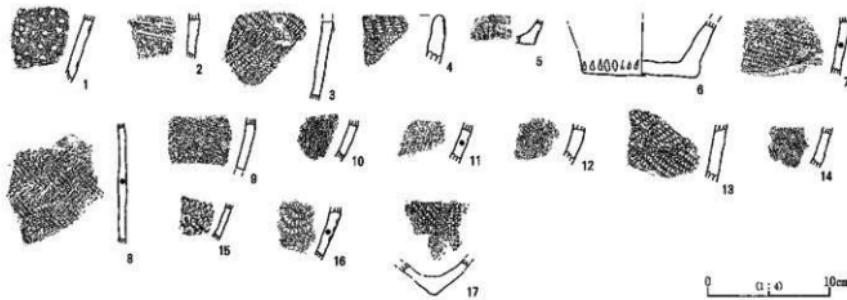
第32図 H7号住居址出土石器実測図(2)



第33图 H7号住居址出土石器实测图(3)



第34图 H7号住宅出土石器实测图(4)



第35図 H7号住居址出土器実測図

文を施しているが、30-7・9は甕で口縁部から胴部にかけて櫛描き簾状文が施されない。10は甕の底部である。31-1は磨製の石包丁である。表裏面から穿孔され、表裏面ともに丁寧な研磨が施されている。2は石包丁の未成品である。表面は周縁よりの粗い剝離により調整され、裏面は主要剥離面に刃部調整を施している。3・4は磨石あるいは敲石である。磨滅痕と敲打痕を残す。32-1～33-9、33-11～34-16は黒耀石である。32-1は石核である。2～14は石鎌で、欠損したものも見られる。15・16は石鎌の未製品である。17～21は石鎌の未製欠損品である。32-22～33-9、34-1～16は素材である。33-10は石英製の石錐である。11は黒耀石製の石錐未製欠損品である。12・13は再加工痕のみとみられる剝片である。14・15はスクレイパーである。35-1～17は縄文土器片である。1は深鉢の胴部片でLR繩文による結節羽状繩文が施されている。2は半裁竹管による平行沈線文が施されている。3は深鉢の胴部片でLR繩文による結節羽状繩文が施されている。4は櫛齒状工具による連続刺突文が施されている。5は底部片で櫛齒状工具による連続刺突文が施されている。6は底部片で連続刻目文が施されている。7・8は深鉢の胴部片でRL繩文による結節羽状繩文が施されている。16は半裁竹管連続刺突文による同心円文が施されている。17は尖底土器の底部である。RL繩文が施されている。時期：出土遺物や住居址の形態から弥生時代後期後半の所産と思われる。

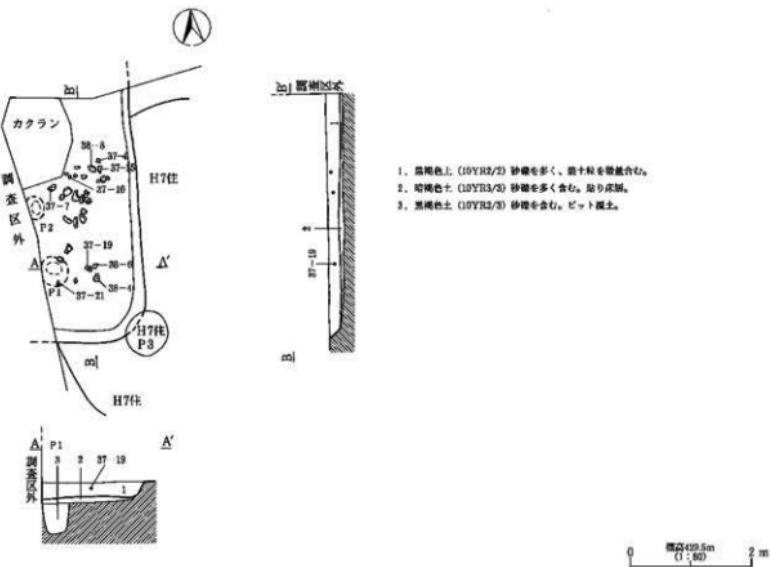
(8) H8号住居址

遺構（第36図）

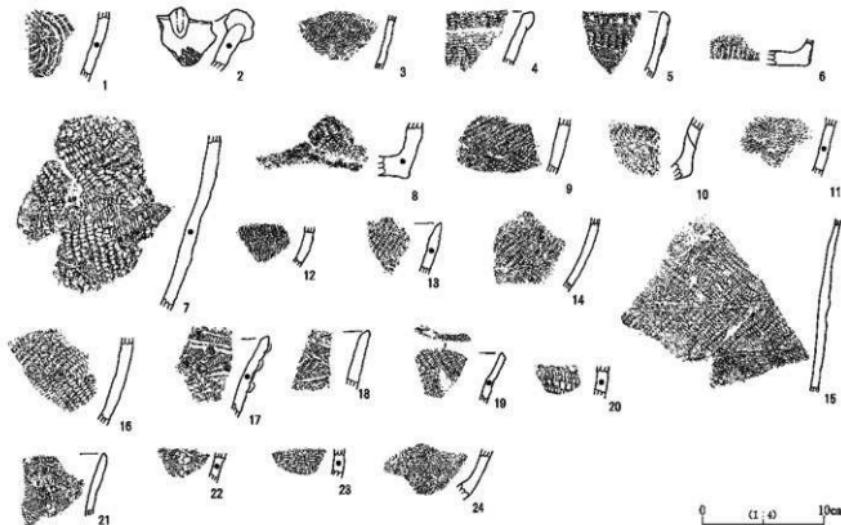
検出位置：Eう4、Eえ4グリッド。重複関係：住居址中央付近に搅乱を受け、H7号住居址に切られている。このほか詳細は北及び西側が調査区外未検出のため不明である。またH9号住居址とも重複関係にあるが、詳細は不明である。平面形態：調査区外未検出のため詳細は不明である。主軸方位はN-5°-Wを指すものと推定される。覆土：黒褐色を基調とする土層が堆積していた。炉址：今回の調査では検出されなかった。調査区外に所在しているものと思われる。床面の状況：概ね平坦であった。地山を掘り込んだ後に、厚さ数センチの床土を敷きこんでいた。ピット：掘り方底面において、複数のピットが確認された。用途などは判然としない。遺物出土状況：住居址の覆土上・中層からも出土したが、多くの遺物は下層からの出土であった。柱穴：本住居址では主柱穴は確認できなかった。

遺物（第37・38・39・40図、第3・4・7・8表）

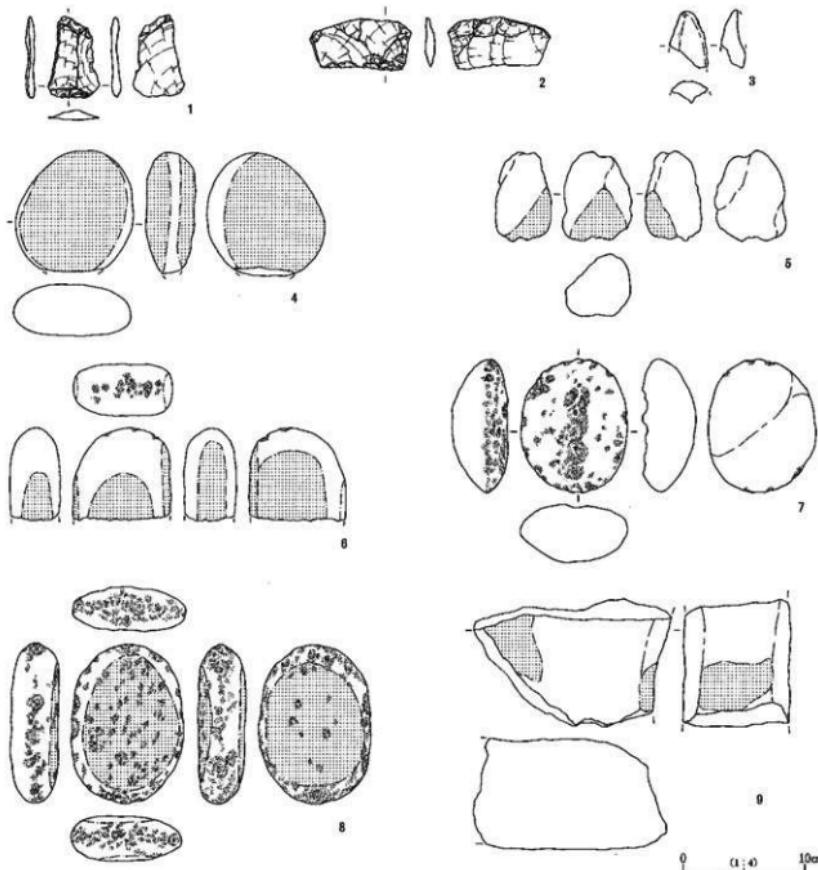
H7号住居址と切りあっているため弥生時代の遺物も多く出土している。37-1～24は縄文土器の深鉢である。1は半裁竹管による平行沈線文が施されている。2は口縁部で側面にはRL繩文が、口唇部には帯状



第36図 H 8号住居址実測図

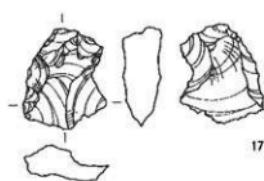
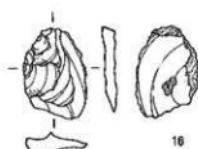
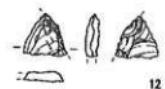
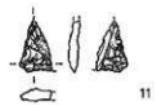
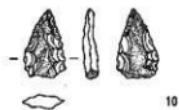
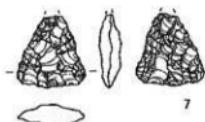
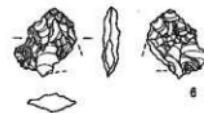
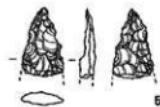
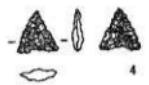
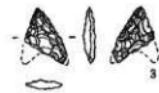
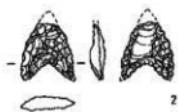


第37図 H 8号住居址出土土器実測図



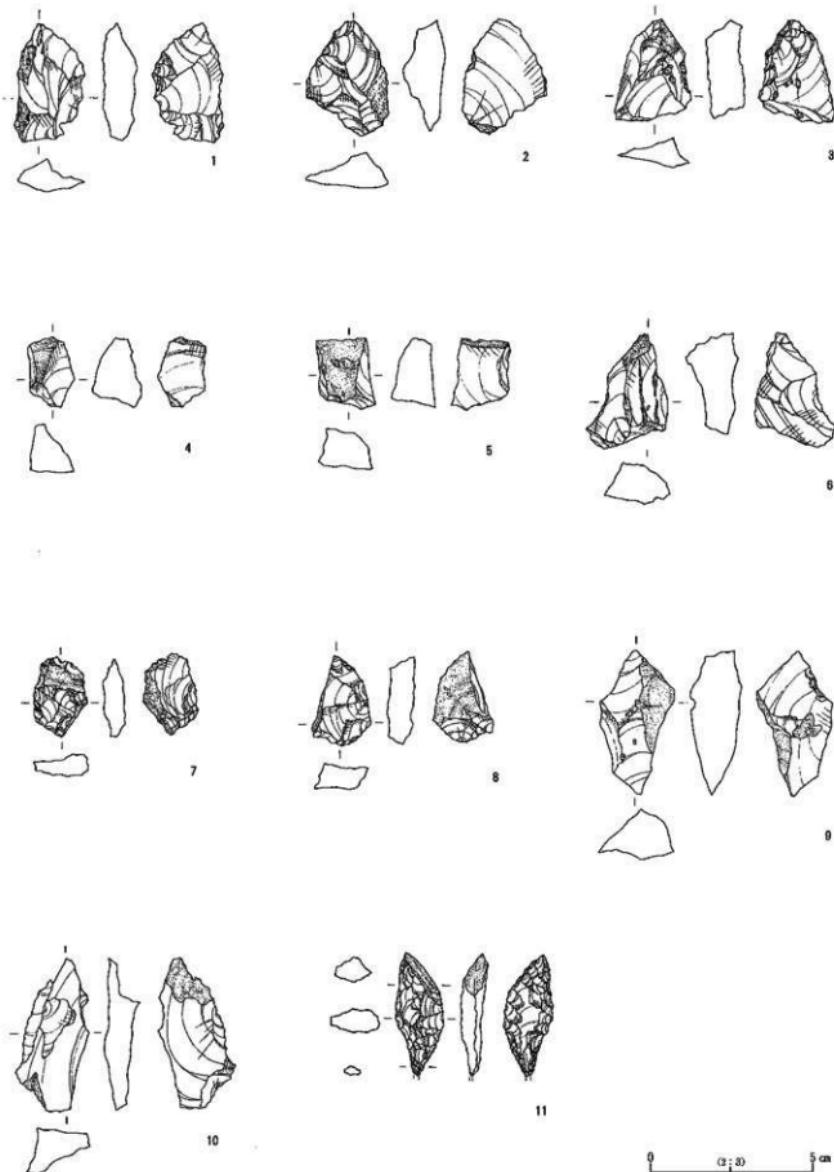
第38図 H 8号住居址出土石器実測図(1)

貼付文が施されている。3・19は胸部片でL R縄文による結節羽状縄文が施されている。4は折り返し口縁で櫛齒状工具による連続刺突文が施されている。5は口縁部片で櫛齒状工具による連続刺突文が施されている。6は底部片で連続刻み目文が施されている。7は胸部片でR L縄文異原体による羽状縄文が施されている。8・10は底部片でR L縄文端部閉束回転方向変換による羽状縄文が施されている。9・11は胸部片でR L縄文端部閉束回転方向変換による羽状縄文が施されている。13は口縁部片でR L縄文端部閉束回転方向変換による羽状縄文が施されている。14・16は胸部片で結束羽状縄文が施されている。15はR L縄文端部多条結節による羽状縄文が施されている。17は口縁部片でL R縄文を施した後に半裁竹管による連続刻み目文が施されている。20は胸部片でrl+ L Rの附加条縄文が施されている。18・21は絡条体回転施文であろうか。22は胸部片で半裁竹管によるコンパス文が施されている。23は組紐原体により施文されている。24は尖底土器で



0 1/20 5 cm

第39图 H 8号住居址出土石器实测图(2)



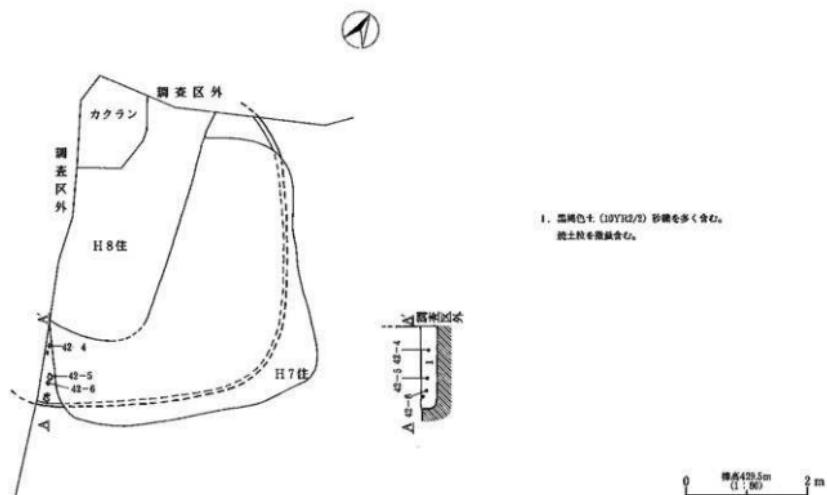
第40圖 H 8 号住居址出土石器実測図（3）

ある。38-1は打製石斧である。縦長削片の表面に粗い剥離を施し、長辺に細かい剥離調整を施し、断面三角形を作出している。2は打製石包丁である。表裏面ともに周縁より粗い剥離により調整しているが、刃部の調整も粗く未製品の可能性がある。3と共にH7号住居址に所属するものであろう。3は硬い小型の亜角礫表面に細かい擦過痕を残す。4は磨石である。断面扁平の円礫を使用し、表裏面に広く磨滅痕を残す。5は磨石である。断面円形の拳大自然石の表面の一部に弱い磨滅痕を確認できる。6も礫石器である。断面扁平の円礫を使用し、表裏・側面に広く磨滅痕を残し、端部に敲打痕が確認できる。7は凹石で断面算盤球状の表面に深い敲打痕が残る。8は敲石である。断面扁平の円礫を使用し、表裏面及び側面に浅い敲打痕が確認できる。9は磨石である。硬い亜角礫の表面及び側面に磨滅による凹面を残す。据置きにより使用したものであろうか。39-1~40-11は黒耀石である。39-1~6、8・9は石礫で欠損品も見られる。7、11~15は未製欠損品である。10、16・17は未製品である。40-1~10は素材である。11は石錐である。時期：出土遺物から縄文時代前期頃の所産と思われる。

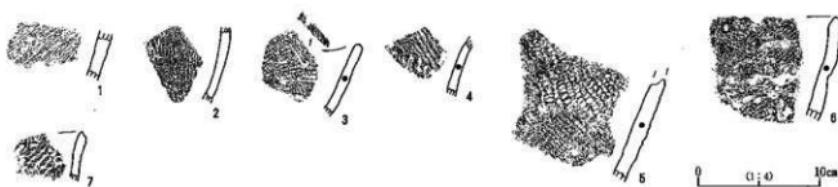
(9) H9号住居址

遺構（第41図）

検出位置：Eう4、Eう5、Eえ4、Eえ5グリッド。重複関係：北西側に搅乱を受け、H7号住居址に切られている。このほかH8号住居址とも重複関係にあるが、詳細は不明である。平面形態：調査区外未検出のため詳細は不明である。主軸方位はN-28°—Wを指すものと推定される。覆土：黒褐色を基調とする土



第41図 H9号住居址実測図

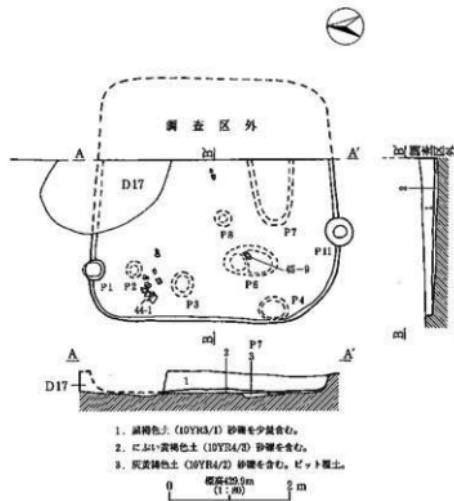


第42図 H9号住居址出土土器実測図

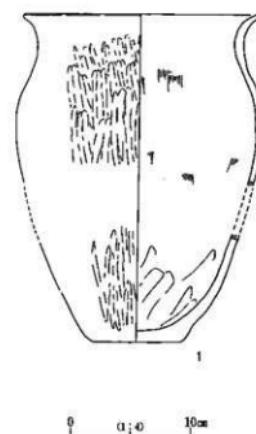
屑が堆積していた。炉址：今回の調査では検出されなかった。床面の状況：概ね平坦であった。検出範囲が限られていたためか貼り床は確認されなかった。ピット：検出範囲が限られていたためかピットは確認されなかった。遺物出土状況：住居址の覆土から多くの縄文土器片が出土した。柱穴：本住居址では主柱穴は確認できなかった。

遺物（第42図、第3表）

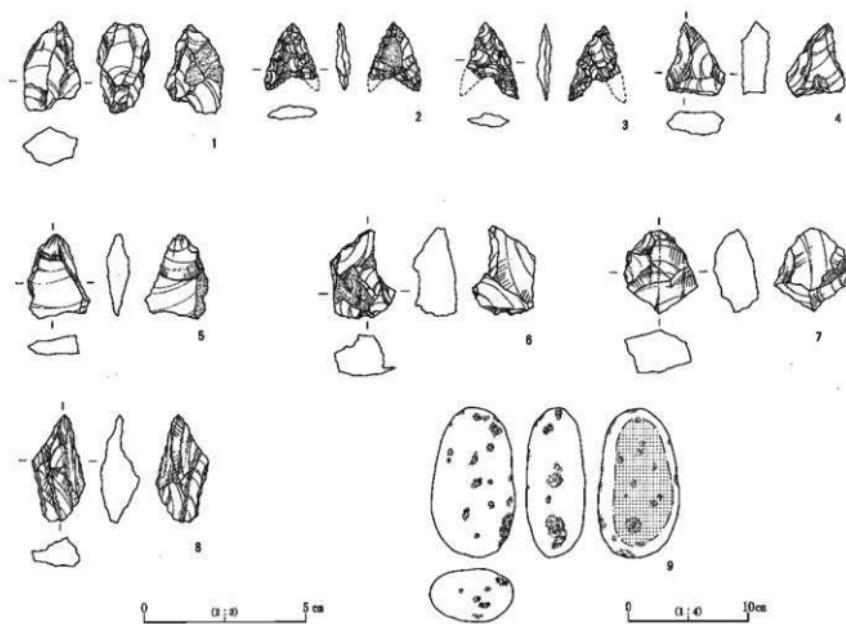
42-1～7は深鉢の破片である。3は口縁部で波状口縁である。RL縄文端部閉束回転方向変換による羽状縄文が施されている。4は胴部片で、RL縄文を施文した後に半裁竹管によるコンパス文が施されている。5は胴部片でRL異原体による羽状縄文が施されている。6は口縁部で無節縄文による羽状縄文が施されている。7は押型文土器の口縁部である。時期：出土遺物から縄文時代前期頃の所産と思われる。



第43図 H10号住居址実測図



第44図 H10号住居址出土土器実測図



第45図 H10号住居址出土石器実測図

(10) H10号住居址

遺構 (第43図)

検出位置: Eい6、Eい7グリッド。重複関係: D17に切られる。このほか詳細は東側が調査区外未検出のため不明である。平面形態: 調査区外など未検出であるが、概ね4.1m×4.1mの隅丸方形を呈するものと思われる。主軸方位はN-90°—Eを指す。覆土: 黒褐色を基調とする土層が堆積していた。カマド: 今回の調査では検出されなかった。東側の調査区外に所在するものと思われる。床面の状況: 概ね平坦であった。地山を掘り込んだ後に、厚さ数センチの床土を敷きこんでいた。ピット: 床面及び掘り方底面において、複数のピットが確認された。用途などは判然としない。遺物出土状況: 住居址の覆土上・中層からも少量は出土したが、ほとんどの遺物は下層からの出土であった。柱穴: 本住居址では主柱穴については判然としない。

遺物 (第44・45図、第3・4・8表)

44-1は土師器の壺で全体的にナデ調整が施されている。45-1～8は黒耀石である。2・3は石鎌であるが欠損している。1、4～8は素材である。45-9は敲石で、断面卵型の長楕円礫の表裏面および片側面に浅い敲打痕が確認できる。時期: 出土遺物や住居址の形態から古墳時代後期頃の所産と思われる。

第2節 土坑址

(1) D1号土坑

遺構(第46図)

検出位置：Cう8グリッド。重複関係：なし。平面形態：長軸約1.2m、短軸約0.8mの橢円形を呈し、主軸方位はN-51°-Eを指す。断面形態：皿状を呈し、検出面からの深さは12cmである。覆土：暗褐色土(10YR3/4)の単層であった。遺物出土状況：遺物は出土しなかった。時期：帰属時期は不明である。

(2) D2号土坑

遺構(第46図)

検出位置：Cう8グリッド。重複関係：なし。平面形態：長軸約1.4m、短軸約1.1mの三角形を呈し、主軸方位はN-38°-Eを指す。断面形態：概ね逆台形を呈し、検出面からの深さは約40cmを測る。覆土：黒褐色土(10YR3/2)の単層であった。遺物出土状況：遺物は出土しなかった。時期：帰属時期は不明である。

(3) D3号土坑

遺構(第46図)

検出位置：Cう9グリッド。重複関係：なし。平面形態：長軸約60cm、短軸約50cmの円形を呈する。断面形態：逆台形を呈し、検出面からの深さは25cmを測る。覆土：褐色(10YR4/4)の砂礫層の単層であった。遺物出土状況：遺物は出土しなかった。時期：帰属時期は不明である。

(4) D4号土坑

遺構(第46図)

検出位置：Dい1グリッド。重複関係：調査区外未検出のため不明。平面形態：調査区外未検出のため不明。断面形態：箱形を呈し、検出面からの深さは約30cmを測る。覆土：黒褐色土(10YR3/2)の単層であった。遺物出土状況：遺物は出土しなかった。時期：帰属時期は不明である。

(5) D5号土坑

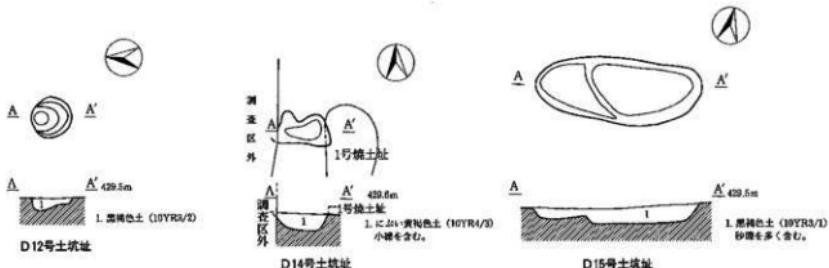
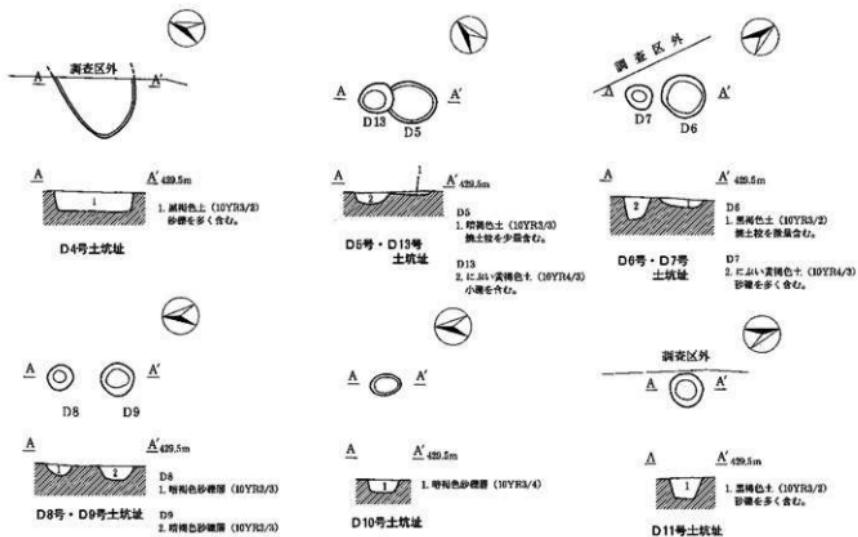
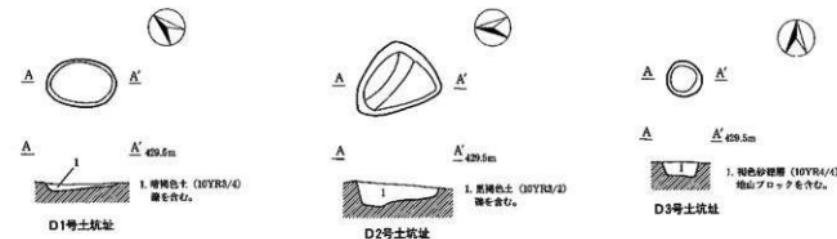
遺構(第46図)

検出位置：Dう6グリッド。重複関係：D13に切られる。平面形態：長軸約80cm、短軸約70cmの円形を呈し、主軸方位はN-50°-Eを指す。断面形態：皿状を呈し、検出面からの深さは8cmである。覆土：暗褐色土(10YR3/3)の単層であった。遺物出土状況：遺物は出土しなかった。時期：帰属時期は不明である。

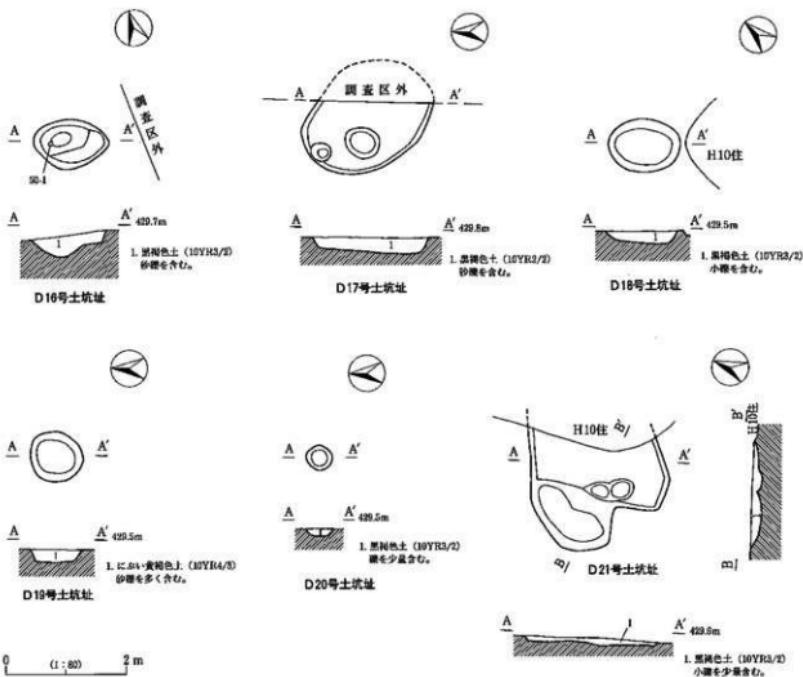
(6) D6号土坑

遺構(第46図)

検出位置：Dう6、Dえ6グリッド。重複関係：なし。平面形態：径約70cmの円形を呈し、主軸方位はN-48°-Eを指す。断面形態：逆台形を呈し、検出面からの深さは15cmである。覆土：黒褐色土(10YR3/2)の単層であった。遺物出土状況：覆土中より数点の弥生土器片が出土した。時期：出土遺物から弥生時代後期の所産と考えられる。



第46図 土坑址実測図(1)



第47図 土坑址実測図(2)

(7) D7号土坑

遺構(第46図)

検出位置:Dえ6グリッド。重複関係:なし。平面形態:径約40cmの円形を呈し、主軸方位はN-48°-Eを指す。断面形態:逆台形を呈し、検出面からの深さは35cmである。覆土:にぶい黄褐色土(10YR4/3)の单層であった。遺物出土状況:遺物は出土しなかった。時期:帰属時期は不明である。

(8) D8号土坑

遺構(第46図)

検出位置:Dう8グリッド。重複関係:なし。平面形態:径約40cmの円形を呈し、主軸方位はN-3°-Eを指す。断面形態:やや深い皿状を呈し、検出面からの深さは15cmである。覆土:暗褐色土(10YR3/3)の单層であった。遺物出土状況:遺物は出土しなかった。時期:帰属時期は不明である。

(9) D9号土坑

遺構(第46図)

検出位置:Dう8グリッド。重複関係:なし。平面形態:径約55cmの円形を呈し、主軸方位はN-3°-Eを指す。断面形態:逆台形を呈し、検出面からの深さは20cmである。覆土:暗褐色土(10YR3/3)の単層であった。遺物出土状況:遺物は出土しなかった。時期:帰属時期は不明である。

(10) D10号土坑

遺構(第46図)

検出位置:Dえ9グリッド。重複関係:なし。平面形態:長軸約50cm、短軸約35cmの円形を呈し、主軸方位はN-0°-Eを指す。断面形態:逆台形を呈し、検出面からの深さは約20cmである。覆土:暗褐色土(10YR3/4)の単層であった。遺物出土状況:遺物は出土しなかった。時期:帰属時期は不明である。

(11) D11号土坑

遺構(第46図)

検出位置:Dえ6グリッド。重複関係:なし。平面形態:径約55cmの円形を呈し、主軸方位はN-23°-Wを指す。断面形態:逆台形を呈し、検出面からの深さは約30cmである。覆土:黒褐色土(10YR3/2)の単層であった。遺物出土状況:遺物は出土しなかった。時期:帰属時期は不明である。

(12) D12号土坑

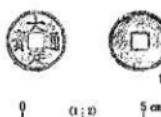
遺構(第46図)

検出位置:Eい3、Eう3グリッド。重複関係:なし。平面形態:径約70cmの円形を呈し、主軸方位はN-0°-Wを指す。断面形態:逆台形を呈し、検出面からの深さは約20cmである。覆土:黒褐色土(10YR3/2)の単層であった。遺物出土状況:遺物は出土しなかった。時期:帰属時期は不明である。

(13) D13号土坑

遺構(第46図)

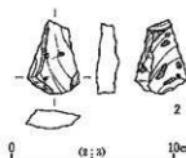
検出位置:Dう6グリッド。重複関係:D5を切る。平面形態:長軸約55cm、短軸約50cmの円形を呈し、主軸方位はN-50°-Eを指す。断面形態:皿状を呈し、検出面からの深さは約30cmである。覆土:にぶい黄褐色土(10YR4/3)の単層であった。遺物出土状況:遺物は出土しなかった。時期:帰属時期は不明である。



(14) D14号土坑

遺構(第46図)

検出位置:Dう5グリッド。重複関係:1号墳土壙を切っている。調査区外未検出のため不明。平面形態:調査区外未検出のため不明。断面形態:緩やかな逆台形を呈し、検出面からの深さは約25cmである。覆土:にぶい黄褐色土(10YR4/3)の単層であった。遺物出土状況:覆土中から古錢



第48図 D14号土坑出土遺物実測図

のほか繩文土器片などが数点出土した。

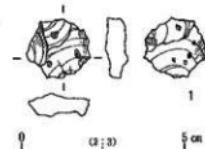
遺物（第48図、第3・8表）48-1は大定通宝である。女真族建国の金で鋳造されたもので、1178年が初鋳年代である。表面は腐食しているが金属の遺存状況は良好である。2は黒耀石の素材である。時期：出土遺物から古代から中世にかけての所産であると思われる。

(15) D15号土坑

遺構（第46図）

検出位置：Eい5、Eう5グリッド。重複関係：なし。平面形態：長軸約2.8m、短軸約1.5mの楕円形を呈し、主軸方位はN-86°-Eを指す。断面形態：2段に掘り込まれた逆台形を呈し、検出面からの深さは約40cmである。覆土：黒褐色土（10YR3/1）の単層であった。遺物出土状況：覆土中から繩文土器片が数点出土した。

遺物（第49図、第8表）49-1は黒耀石の素材である。時期：出土遺物から縄文時代前期の所産と考えられる。



第49図 D15号土坑出土遺物実測図

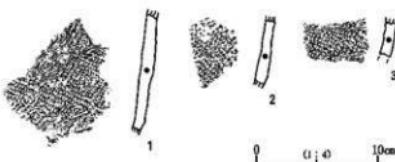
(16) D16号土坑

遺構（第47図）

検出位置：Eい5グリッド。重複関係：なし。平面形態：長軸約1.2m、短軸約0.9mの楕円形を呈し、主軸方位はN-73°-Wを指す。断面形態：やや深い皿状を呈し、検出面からの深さは約35cmである。

覆土：黒褐色土（10YR3/2）の単層であった。遺物出土状況：覆土中から繩文土器片が数点出土した。

遺物（第50図、第3表）50-1・3は深鉢の脚部片で結節羽状繩文が施されている。2は深鉢の脚部片で羽状繩文が施されている。時期：出土遺物から縄文時代前期の所産と考えられる。



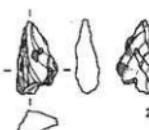
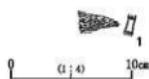
第50図 D16号土坑出土遺物実測図

(17) D17号土坑

遺構（第47図）

検出位置：Eい6グリッド。重複関係：調査区外未検出のため不明。平面形態：調査区外未検出のため不明。断面形態：逆台形を呈し、検出面からの深さは約25cmである。覆土：黒褐色土（10YR2/2）の単層であった。遺物出土状況：覆土中から弥生土器が数点出土した。

遺物（第51図、第3・8表）51-1は弥生時代の壺の脚部片で梯描き波状文が施されている。2は黒耀石製石錠の未製品である。時期：出土遺物から弥生時代後期以降の所産と考えられる。



第51図 D17号土坑出土遺物実測図

(18) D18号土坑

遺構 (第47図)

検出位置：Eい6グリッド。重複関係：なし。平面形態：長軸約1.1m、短軸約0.9mの橿円形を呈し、主軸方位はN-41°-Wを指す。断面形態：皿状を呈し、検出面からの深さは約25cmである。覆土：黒褐色土（10YR 3/2）の単層であった。遺物出土状況：時期不明の土器片が数点出土した。遺物（第52図、第8表）52-1は再加工痕のみとみられる刷片である。時期：帰属時期は不明である。



第52図 D18号土坑址出土遺物実測図

(19) D19号土坑

遺構 (第47図)

検出位置：Eう6グリッド。重複関係：なし。平面形態：長軸約90cm、短軸約80cmの橿円形を呈し、主軸方位はN-0°-Eを指す。断面形態：逆台形を呈し、検出面からの深さは約25cmである。覆土：にぶい黄褐色土（10YR4/3）の単層であった。遺物出土状況：時期不明の土器片が数点出土した。時期：帰属時期は不明である。

(20) D20号土坑

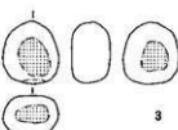
遺構 (第47図)

検出位置：Eう6グリッド。重複関係：なし。平面形態：径約40cmの円形を呈し、主軸方位はN-0°-Eを指す。断面形態：逆台形を呈し、検出面からの深さは約15cmである。覆土：黒褐色土（10YR3/2）の単層であった。遺物出土状況：遺物は出土しなかった。時期：帰属時期は不明である。

(21) D21号土坑

遺構 (第47図)

検出位置：Eい6、Eい7、Eう7グリッド。重複関係：H10号住居址に切られる。平面形態：H10号住居址に切られており不明である。断面形態：逆台形を呈し、検出面からの深さは12cmである。覆土：黒褐色土（10YR 3/2）の単層であった。遺物出土状況：覆土中から縄文土器が十数点出土した。



第53図 D21号土坑址出土遺物実測図

遺物（第53図、第3・4表）53-1は深鉢の胴部片で羽状縄文が施されている。2は深鉢の胴部片でループ文が施されている。3は磨石で断面卵型の円礫の表裏面に広く磨滅痕が確認できる。時期：出土遺物から縄文時代前期の所産と考えられる。

第3節 その他の遺構

(1) 1号集石遺構

遺構 (第54図)

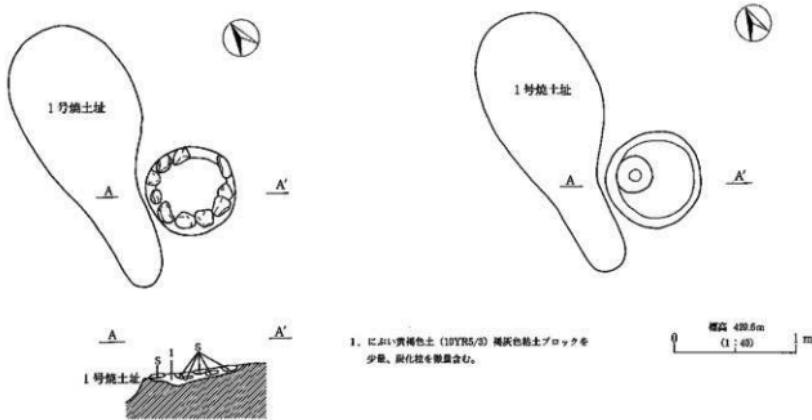
検出位置：Dう5グリッド。重複関係：なし。平面形態：径約80cmの円形を呈し、主軸方位はN-0°-E

を指す。地面を浅く掘り込んで、礫を敷き詰めた状態であった。断面形態：皿状を呈し、検出面からの深さは約8cmである。覆土：にぶい黄褐色土（10YR5/3）の単層であった。遺物出土状況：遺物は出土しなかった。時期：帰属時期は不明である。

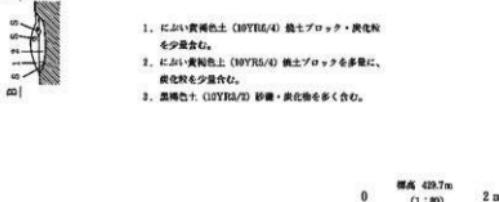
（2）1号焼土址

遺構（第55図）

検出位置：Dう5、Dう6グリッド。重複関係：なし。平面形態：長軸約2.2m、短軸約1mの椭円形を呈し、主軸方位はN-17°-Eを指す。断面形態：逆台形を呈し、検出面からの深さは約25cmである。上部を粘土状の土で覆った、カマド状の構造物であったものと思われる。覆土：にぶい黄褐色土（10YR5/4）で覆われる構造であった。遺物出土状況：遺物は出土しなかった。時期：帰属時期は不明であるが、古代以降の所産であると思われる。



第54図 1号集石遺構実測図



第55図 1号焼土址実測図

町横尾遺跡II出土黒耀石分類概念図

S = 1 / 3

製品	石 織								スクレバー完存品				
	完存品				欠損品				33-14		33-15		
未製品	制作途中								石錐未製欠損				
	17-1 39-16 16-9 17-3				欠損品 39-7 39-9 32-10 17-4				16-4		△33-11		
素材 A 大型				素材B中型				素材C中小型				素材D小型	
A 1 石錐の 素材と 考えら れる	34-2 34-5 34-7				16-4				18-7		D 1 D類の中 で平面小 型のもの 18-11 18-10 34-6		
A 2 石錐の 素材と 考えら れる	33-8 33-8 17-15				34-4				18-8		D 2 薄手の もの 33-1 18-12 48-1		
											D 3 厚めの もの 18-17 18-13		
石 核										原 石			
16-1				45-1				16-2		12.8g MNI—量算理No.71			

町横尾遺跡II出土黒耀石出土数 (造構毎の出土数を示すもので、必ずしも黒耀石の帰属時期を示すものではない)

造構名	帰属時期	製品 (欠損品合)		未製品 (未製欠損品合)		製品 スクレ バ-	素 材						側片	砂片	石核	原石	総数	
		石錐	石錐	石錐	石錐		A1	A2	B	C	D1	D2	D3	Rf	Uf	Ch		
H1	平安前半			1										1	1	1	17	21
H2	奈良				1												6	12
H3	縄文前期	3		13	3		5	3	15	9	12	9	2	1	3	93	2	173
H4	古墳後期													1		3		4
H5	古代															3		4
H6	平安前半													1	1	3		5
H7	弥生後期	13	7	1	2	5	1	10		17	15	4	2	6	164	1	248	
H8	縄文前期	8	11	1			5	8		11	2	2		1	124		173	
H9	縄文前期			1				1	4		5	5	3			35		54
H10	古墳後期	2					2		3	1	2				120		132	
D14	古代～中世												1		2		3	
D15	縄文前期												1		1	2		4
D16	縄文前期															9		9
D17	弥生後期		1													1		2
D18	不明														1			1
D21	縄文前期															2		2
遺構外	不明							1	1	2		3				10		1
計			26	-	34	6	2	11	13	40	12	52	37	17	5	12	594	3
																1	865	

第1表 掘載土器観察表

〈 〉推定値 () 残存値を示す。

編 號 No.	遺 跡 No.	形 態 No.	種 類 No.	基 礎 No.	残 存 状 況 No.	測 量 (cm)			測 量 文 字			色 調 No.	性 質 No.	備 考
						自 由 高 度 Hf	露 高 度 Ht	底 径 D	外 周 長 L	内 周 長 Li				
7-1	H1	7	直筒器	杯	完存	13.5	3.3	6.6	ロクロコナデ、延澤 回転柄切り	ロクロコナデ	内肉) LSYT/5灰褐色 外肉) LSYT/5灰褐色	MMMIIH1N07-aR, aL中槽		
7-2	H1	6	直筒器	杯	完存	12.0	3.1	6.5	ロクロコナデ、延澤 回転柄切り	ロクロコナデ	内肉) 10G/1緑灰色	MMMIID1N06		
7-3	H1	3	直筒器	杯	口一底深 1/2	(13.0)	3.8	(6.0)	ロクロコナデ、延澤 回転柄切り	ロクロコナデ	外輪) 10Y5/4灰青褐色 内肉) 7.5YR5/1灰オーブ色	MMMIID1N03-aR, aL中槽、bR上槽		
7-4	H1	11	直筒器	杯	口一底深 1/4	(13.0)	2.5	(6.0)	ロクロコナデ、延澤 回転柄切り	ロクロコナデ	内肉) 10G/1緑灰色	MMMIID1N08-bR		
7-5	H1	16	直筒器	片	口一底深 1/2	(13.0)	2.7	(6.0)	ロクロコナデ、延澤 回転柄切り	ロクロコナデ	内肉) 7.5YR6/1灰褐色	MMMIID1N09-aR		
7-6	H1	12	直筒器	旋削片	口一底 中央	(6.0)	(6.0)	—	ロクロコナデ	ロクロコナデ	内肉) 2.5Y5/1暗オーブ 色	MMMIID1N10-aR 中槽、bR上槽	直縫付蓋	
7-7	H1	5	土罐	片	口一斜削	—	(10.0)	—	ロークナデ(ヨリナデ、 瓶一斜削)のカクシリ	ヨクナデ	内肉) 5Y5/4暗褐色	MMMIID1N05		
7-8	H1	18	土罐	瓶	底深	—	(4.0)	6.1	ハケヌメ、瓶底ハ ケヌメ	ハケヌメ	内肉) 2.5Y5/4CJ-1灰褐色 内肉) 7.5YR5/1CJ-1褐色	MMMIID1N09-aR、bR 中槽		
10-1	H2	3	直筒器	杯	口一底深 1/3	(13.0)	4.0	(6.0)	ロクロコナデ、延澤 両面付柄口の回転	ロクロコナデ	内肉) 2.5Y5/4灰褐色 内肉) 10Y5/4灰褐色	MMMIID1N06サブト レ		
11-1	H2	4	圓文	鋸片	鋸片	—	—	—	—	ナデ	内肉) 7.5YR5/4CJ-1褐色	MMMIID2N08	片ノ木	
14-1	H2	1	圓文	鋸片	鋸片	—	—	—	埋藏条件文、斜面方 向による羽状回転	ナデ	内肉) 7.5YR5/4褐色	MMMIID2N01	合縫隙	
14-2	H2	10	圓文	鋸片	口一底深 1/2	—	—	—	明治文(底深窓)く 底深不明	ナデ	内肉) 2.5Y5/4褐色 内肉) 7.5YR5/1褐色	MMMIID2N02	全縫隙 片ノ木	
14-3	H2	18	圓文	鋸片	鋸片	—	—	—	羽状回文(底深窓) 底深不明	ナデ	内肉) 10Y5/4CJ-1褐色	MMMIID2N18		
14-4	H2	26	圓文	鋸片	鋸片	—	—	—	高木圓文	ナデ	内肉) 10Y5/4CJ-1褐色	MMMIID2N01		
14-5	H2	41	圓文	鋸片	鋸片	—	—	—	JL圓文板方向直角 による羽状回文	ナデ	内肉) 10Y5/4CJ-1褐色	MMMIID2N02	合縫隙 片ノ木	
14-6	H2	45	圓文	鋸片	鋸片	—	—	—	新潟圓文	ナデ	内肉) 5YR5/4CJ-1褐色	MMMIID2N03	合縫隙	
14-7	H2	52	圓文	鋸片	鋸片	—	—	—	新潟工芸による組み 目文	ナデ	内肉) 7.5YR5/4暗褐色	MMMIID2N02	片ノ木	
14-8	H2	35	圓文	鋸片	鋸片	—	—	—	透巻帶	ナデ	内肉) 7.5YR5/4CJ-1褐色	MMMIID2N03	片ノ木	
14-9	H2	54	圓文	鋸片	口唇部	—	—	—	透巻帶による組み目 文	ナデ	内肉) 10Y5/4CJ-1褐色	MMMIID2N02	片ノ木 高木圓文	
14-10	H2	48	圓文	鋸片	底部部	—	—	—	透巻帶工芸による透巻 目文	ナデ	内肉) 7.5YR5/4暗褐色	MMMIID2N03	片ノ木 高木圓文	
14-11	H2	66	圓文	鋸片	鋸片	—	—	—	JLと足見文斜面切込 底文	ナデ	内肉) 5YR5/4CJ-1褐色	MMMIID2N02サブト レ		
14-12	H2	68	圓文	鋸片	鋸片	—	—	—	JL圓文板方向直角 による羽状回文	ナデ	内肉) 7.5YR5/4CJ-1褐色	MMMIID2N02	片ノ木 高木圓文	
14-13	H2	45	圓文	鋸片	鋸片	—	—	—	JL圓文と足見文斜面 切込底部に沿る羽状 組み目文	ナデ	内肉) 7.5YR5/4暗褐色 内肉) 10Y5/4CJ-1褐色	MMMIID2N02サブト レ	合縫隙	
14-14	H2	49	圓文	鋸片	底部	—	—	—	新潟底部破壊	ナデ	内肉) 10Y5/4CJ-1褐色 内肉) 7.5YR5/4CJ-1褐色	MMMIID2N02		
14-15	H2	47	圓文	鋸片	鋸片	—	—	—	JL圓文板方向直角 による羽状回文	ナデ	内肉) 10Y5/4CJ-1褐色	MMMIID2N03	合縫隙	
14-16	H2	21	圓文	鋸片	口唇部	—	—	—	新潟圓文、口唇部組み 目	ナデ	内肉) 10Y5/4CJ-1褐色 内肉) 10Y5/4CJ-1褐色	MMMIID2N02	合縫隙	
14-17	H2	44	圓文	鋸片	鋸片	—	—	—	JL圓文	ナデ	内肉) 7.5YR5/4暗褐色 内肉) 7.5YR5/4CJ-1褐色	MMMIID2N02サブト レ		
14-18	H2	47	圓文	鋸片	鋸片	—	—	—	JL圓文	ナデ	内肉) 10Y5/4CJ-1褐色	MMMIID2N02	合縫隙	
14-19	H2	58	圓文	鋸片	鋸片	—	—	—	斜縫目	ナデ	内肉) 7.5YR5/4CJ-1褐色	MMMIID2N02サブト レ		
14-20	H2	27	圓文	鋸片	鋸片	—	—	—	新潟原形	ナデ	内肉) 7.5YR5/4CJ-1褐色	MMMIID2N02		
14-21	H2	25	圓文	鋸片	鋸片	—	—	—	新潟圓文による透巻目 文	ナデ	内肉) 7.5YR5/4暗褐色	MMMIID2N02		
14-22	H2	26	圓文	鋸片	鋸片	—	—	—	透巻目文	ナデ	内肉) 7.5YR5/4CJ-1褐色	MMMIID2N02		
20-1	H4	4	土罐	底	口一底深 1/4	15.5	15.7	7.5	ナデ、逆捲木裏底	ナデ	内肉) 5YR5/6暗褐色 内肉) 10Y5/4CJ-1褐色	MMMIID4N04, cR サブト		
20-2	H4	8	土罐	底	口一底深 1/2	—	(10.0)	6.5	丁寧なハラミガキ、底 部木裏底	ハラナデ	内肉) 7.5YR5/4CJ-1褐色	MMMIID4N05		
20-3	H4	6	土罐	底	底	—	(4.0)	5.0	ヘラナデ、底部木裏底	ヘラナデ	内肉) 10Y5/4CJ-1褐色 内肉) 7.5YR5/4CJ-1褐色	MMMIID4N06		

第2表 捕鳥器具類別表

< > 推定値 () 残存値を示す。

順序 No.	種別 No.	種別 No.	目録 番号	種別 名	推定 (cm)			調査・文書		色調	注記	参考		
					内面	裏面	底面	外観	内面					
20-4	H4	2	2	土師器	網	網脚片	—	—	—	ナデ	外側) 10YR16/2(灰褐色) 内側) 10YR16/4(灰褐色)	MIMIIH4往No2		
21-1	F4	12	17	羅文	圓錐	圓錐/7	—	(3.6)	(9.8)	ナデ	外側) 7.5YR15/4(灰褐色)	MIMIIH4往No1 下部	紳ノ本 新系統	
21-2	F5	2	2	羅文	網	網脚	—	—	—	ナデ	外側) 10YR16/2(灰褐色) 内側) 10YR16/4(灰褐色)	MIMIIH4往No2		
24-1	F5	2	2	羅文	網	網脚	—	—	—	ナデ	外側) 10YR16/2(灰褐色) 内側) 10YR16/4(灰褐色)	MIMIIH4往No3	同一個体	
24-2	F5	2	3	羅文	網	網脚	—	—	—	ナデ	外側) 10YR16/2(灰褐色) 内側) 10YR16/4(灰褐色)	MIMIIH4往No4		
24-3	F5	4	4	羅文	網	網脚	—	—	—	ナデ	外側) 10YR16/2(灰褐色) 内側) 10YR16/4(灰褐色)	MIMIIH4往No5		
24-4	F5	5	5	羅文	網	網脚	—	—	—	ナデ	外側) 10YR16/2(灰褐色) 内側) 10YR16/4(灰褐色)	MIMIIH4往No6		
24-5	H5	6	6	土師器	环	口一部底 1/3	05.0	(3.4)	—	ロクロコナデ	ロクロコナデ	外側) 10YR16/2(灰褐色)	MIMIIH5往No6	
27-1	I1B	8	9	鐵器	环	口一部底 1/3	01.0	3.7	6.0	ロクロコナデ、尾端 網脚切り	ロクロコナデ	外側) 10YR16/2(灰褐色)	MIMIIH往No8	尾端上端 口部J
27-2	I1B	1	1	鐵器	長圓錐	口一部底 1/3	01.7	(15.3)	—	ロクロコナデ	ロクロコナデ	外側) 10YR16/2(灰褐色)	MIMIIH往No1	
27-3	H6	10	10	土師器	环	口一部底 2/3	04.0	5.5	7.4	ロクロコナデ、尾端 網脚切り	ロクロコナデ	外側) 10YR16/2(灰褐色)	MIMIIH6往No10	
27-4	H6	4	4	土師器	長圓錐	口一部底 片	03.3	(7.3)	—	ロクロコナデ 網脚) ヘラケリ	ナデ	外側) 10YR16/2(灰褐色)	MIMIIH6往No4	
27-5	H6	13	13	土師器	環	口一部底 1/3	01.0	5.5	—	ヨコナデ	ヨコナデ	外側) 10YR16/2(灰褐色)	MIMIIH6往No13	
30-1	I1T	1	1	馬介	高环	口一部底 2/3	26.0	22.0	16.5	丁寧なヘラミガキ・赤 色地	丁寧なヘラミガキ・赤 色地	外側、頭部) 10YR16/2(灰褐色) 頭部、尾) 10YR16/4(灰褐色)	MIMIIHT往No1	
30-2	I1T	17	17	馬介	網	口一部底 3/5	15.8	8.0	6.2	網目) ヘラミガキ・赤 色地	網目) ヘラミガキ・赤 色地	外側) 2.5YR14/4(灰褐色) 網脚) 10YR16/2(灰褐色)	MIMIIHT往No17	
30-3	I1T	18	18	馬介	網	口一部底 4/5	—	(4.5)	(4.5)	網目) ヘラミガキ・赤 色地	網目) ヘラミガキ・赤 色地	外側) 2.5YR14/4(灰褐色) 網脚) 10YR16/2(灰褐色)	MIMIIHT往No18	
30-4	H7	30	馬介	環	網脚片	—	—	—	細い螺旋状による織目 文	ナデ	外側) 10YR16/4(灰褐色)	MIMIIHT往カラン	右面	
30-5	H7	7	7	馬介	環	口一部底 1/3	—	(12.0)	8.5	ヘラミガキ	ナメタ	外側) 7.5YR16/4(灰褐色)	MIMIIHT往No7	
30-6	H7	5	5	馬介	廣	網脚片	—	—	—	6本一組の網脚き成形 文(「上」)、同じ具 によると複数組止め、 網脚状文・網脚状 文・網脚状文	ヨコナデ	外側) 7.5YR16/4(灰褐色)	MIMIIHT往No5	
30-7	H7	3	3	馬介	環	網脚片	11.8	15.1	8.0	4~5本の網脚き成形 文(「上」)	ヘラミガキ	外側) 7.5YR16/4(灰褐色)	MIMIIHT往No3	
30-8	H7	19	19	馬介	環	口一部底 1/4	13.1	(12.0)	—	6本~8本の網脚き成形 文(「上」)、同じ具 によると複数組止め、 網脚状文・網脚状 文・網脚状文	ヨコナデ	外側) 7.5YR16/4(灰褐色)	MIMIIHT往No19、c 左上部	
30-9	H7	2	2	馬介	環	口一部底 2/3	12.0	(8.5)	—	8~9本の網脚き成形 文(「上」)	ヘラミガキ	外側) 7.5YR16/4(灰褐色)	MIMIIHT往No2	
30-10	I1T	10	15	魯文	環	網脚片	—	—	7.8	網目) ヘラミガキ	ナデ	外側) 10YR16/4(灰褐色)	MIMIIHT往No15	
30-11	H7	20	20	羅文	圓錐	網脚片	—	—	—	複合式網脚片	ナデ	外側) 10YR16/4(灰褐色)	MIMIIHT往床	
30-12	H7	28	羅文	圓錐	網脚片	—	—	—	半自動的網脚による織目 成形文	ナデ	外側) 7.5YR16/4(灰褐色)	MIMIIHT往床	有孔	
30-13	H7	25	羅文	圓錐	網脚片	—	—	—	16本の網脚き成形文 系 - 頭) 10YR16/4(灰褐色) 頭) 10YR16/4(灰褐色)	丁寧なミガキ	外側) 10YR16/4(灰褐色)	MIMIIHT往	諸調査	
30-14	H7	32	羅文	圓錐	圓錐片	—	—	—	複合式工具による織目 成形文	丁寧なミガキ	外側) 10YR16/4(灰褐色) 頭) 10YR16/4(灰褐色)	MIMIIHT往床	紳ノ本 新系統	
30-15	H7	30	羅文	圓錐	圓錐片	—	—	—	複合式工具による織目 成形文	ナデ	外側) 7.5YR16/4(灰褐色)	MIMIIHT往床	紳ノ本 新系統	
30-16	H7	8	8	羅文	圓錐	定期	—	(4.0)	9.2	複合式網脚	ヘラナメタ	外側) 10YR16/4(灰褐色)	MIMIIHT往No8	
30-17	H7	21	羅文	圓錐	網脚片	—	—	—	PL網文による織目 成形文	ナデ	外側) 10YR16/4(灰褐色) 頭) 10YR16/4(灰褐色)	MIMIIHT往	鶴山正 古墳場	
30-18	H7	22	羅文	圓錐	網脚片	—	—	—	PL網文による織目 成形文	ナデ	外側) 10YR16/4(灰褐色) 頭) 10YR16/4(灰褐色)	MIMIIHT往	鶴山正 古墳場	
30-19	H7	24	羅文	圓錐	網脚片	—	—	—	重の繩	ナデ	外側) 7.5YR16/4(灰褐色)	MIMIIHT往床	鶴山正期	
30-20	H7	25	羅文	圓錐	網脚片	—	—	—	重の繩	ナデ	外側) 7.5YR16/4(灰褐色)	MIMIIHT往カラン	鶴山正期	
30-21	H7	36	羅文	圓錐	網脚片	—	—	—	PL網文複数組合せ 方向性による織目成形文	ナデ	外側) 10YR16/4(灰褐色)	MIMIIHT往カラン	合織繩	
30-22	H7	27	羅文	圓錐	網脚片	—	—	—	複合式網脚成形文	ナデ	外側) 10YR16/4(灰褐色) 頭) 10YR16/4(灰褐色)	MIMIIHT往	合織繩	
30-23	H7	27	羅文	圓錐	網脚片	—	—	—	PL網文複数組合せ 方向性による織目成形文	ナデ	外側) 10YR16/4(灰褐色)	MIMIIHT往	合織繩	
30-24	H7	35	羅文	圓錐	網脚片	—	—	—	ルーパー多、尾端	ナデ	外側) 10YR16/4(灰褐色)	MIMIIHT往		
30-25	H7	24	羅文	圓錐	網脚片	—	—	—	半自動的網脚成形文に よる孔同心円	ナデ	外側) 10YR16/4(灰褐色)	MIMIIHT往		
30-26	H7	25	羅文	圓錐	網脚片	—	—	—	半自動的網脚成形文に よる孔同心円	ナデ	外側) 10YR16/4(灰褐色)	MIMIIHT往	鶴山正 古墳場	

第3表 据載土器・金属製品観察表

〈 〉推定値 () 残存値を示す。

器種 No.	遺構 No.	測定 No.	幅斜 度	断面	測定處 所	形状 (cm)	測量・文 稿		色 調	性 質	備 考		
							外 壁	内 壁					
35-17	H7	25	縦文	直線	断面片	—	(1.6)	尖底	外壁 内壁 丁寧なナメ	外(内) TSYR5/4に近い黄褐色 内(外) TSYR3/1黒褐色	MMⅢHD住	草・新居	
37-1	HR	32	縦文	直線	断面片	—	—	—	外壁 内壁 丁寧なナメ	外(内) TSYR4/2に近い黄褐色 内(外) TSYR3/1黒褐色	MMⅢHD住	合鐵鑄	
37-2	HR	34	縦文	直線	口縁断片	—	—	—	外壁 内壁 丁寧なナメ	外(内) TSYR4/2に近い黄褐色 内(外) TSYR3/1黒褐色	MMⅢHD住	山田山 合鐵鑄	
37-3	HR	35	縦文	直線	断面片	—	—	—	外壁 内壁 丁寧なナメ	外(内) TSYR5/6黄褐色 内(外) TSYR4/4に近い黄褐色 内(外) TSYR3/1黒褐色	MMⅢHD住	山田山 合鐵鑄	
37-4	HR	4	縦文	直線	口縁断片	—	—	—	外壁 内壁 丁寧なナメ	外(内) TSYR5/4に近い黄褐色 内(外) TSYR4/4に近い黄褐色 内(外) TSYR3/1黒褐色	MMⅢHD住	神・木	
37-5	HR	38	縦文	直線	口縁断片	—	—	—	外壁 内壁 丁寧なナメ	外(内) TSYR4/3に近い黄褐色 内(外) TSYR3/4に近い黄褐色 内(外) TSYR2/1黒褐色	MMⅢHD住	神・木	
37-6	HR	22	縦文	直線	断面片	—	—	—	外壁 内壁 丁寧なナメ	外(内) TSYR5/6黄褐色 内(外) TSYR4/4に近い黄褐色	MMⅢHD住	神・木 合鐵鑄	
37-7	HR	12	縦文	直線	断面片	—	—	—	外壁 内壁 丁寧なナメ	外(内) TSYR5/3に近い黄褐色	MMⅢHD住	No13	
37-8	HR	37	縦文	直線	断面片	—	—	—	外壁 内壁 丁寧なナメ	外(内) TSYR5/6黄褐色	MMⅢHD住	合鐵鑄	
37-9	HR	49	縦文	直線	断面片	—	—	—	外壁 内壁 丁寧なナメ	外(内) TSYR5/6黄褐色	MMⅢHD住	MMⅢHD住	
37-10	HR	10	縦文	直線	断面片	—	—	—	外壁 内壁 丁寧なナメ	外(内) TSYR5/4に近い黄褐色	MMⅢHD住	No10	
37-11	HR	39	縦文	直線	断面片	—	—	—	外壁 内壁 丁寧なナメ	外(内) TSYR5/4に近い黄褐色 内(外) TSYR2/1黒褐色	MMⅢHD住	合鐵鑄	
37-12	HR	36	縦文	直線	断面片	—	—	—	外壁 内壁 丁寧なナメ	外(内) TSYR5/4に近い黄褐色	MMⅢHD住	山田山 合鐵鑄	
37-13	HR	38	縦文	直線	断面片	—	—	—	外壁 内壁 丁寧なナメ	外(内) TSYR4/2黄褐色 内(外) TSYR3/1黒褐色	MMⅢHD住	合鐵鑄	
37-14	HR	34	縦文	直線	断面片	—	—	—	外壁 内壁 丁寧なナメ	外(内) TSYR5/4に近い黄褐色	MMⅢHD住	MMⅢHD住	
37-15	HR	1	縦文	直線	断面片	—	—	—	外壁 内壁 丁寧なナメ	外(内) TSYR5/4に近い黄褐色	MMⅢHD住	No1	
37-16	HR	35	縦文	直線	断面片	—	—	—	外壁 内壁 丁寧なナメ	外(内) TSYR5/6黄褐色	MMⅢHD住	MMⅢHD住	
37-17	HR	26	縦文	直線	断面片	—	—	—	外壁 内壁 丁寧なナメ	外(内) TSYR5/1黄褐色 内(外) TSYR2/1黒褐色	MMⅢHD住	山田山 合鐵鑄	
37-18	HR	31	縦文	直線	断面片	—	—	—	外壁 内壁 丁寧なナメ	外(内) TSYR5/6黄褐色	MMⅢHD住	合鐵鑄	
37-19	HR	18	縦文	直線	断面片	—	—	—	外壁 内壁 丁寧なナメ	外(内) TSYR5/6黄褐色	MMⅢHD住	No18	
37-20	HR	28	縦文	直線	断面片	—	—	—	外壁 内壁 丁寧なナメ	外(内) TSYR5/6黄褐色	MMⅢHD住	山田山 合鐵鑄	
37-21	HS	16	16	縦文	直線	断面片	—	—	—	外壁 内壁 丁寧なナメ	外(内) TSYR4/2に近い黄褐色	MMⅢHD住	No16
37-22	HS	27	縦文	直線	断面片	—	—	—	外壁 内壁 丁寧なナメ	外(内) TSYR5/4に近い黄褐色 内(外) TSYR2/1黒褐色	MMⅢHD住	合鐵鑄	
37-23	HS	25	縦文	直線	断面片	—	—	—	外壁 内壁 丁寧なナメ	外(内) TSYR5/4に近い黄褐色 内(外) TSYR3/1黒褐色	MMⅢHD住	山田山 合鐵鑄	
37-24	HS	29	縦文	直線	断面片	—	—	—	外壁 内壁 丁寧なナメ	外(内) TSYR5/4に近い黄褐色 内(外) TSYR3/1黒褐色	MMⅢHD住	草・新居	
42-1	ED	5	縦文	直線	断面片	—	—	—	外壁 内壁 丁寧なナメ	外(内) TSYR5/4に近い黄褐色	MMⅢHD住	MMⅢHD住	
42-2	ED	6	縦文	直線	断面片	—	—	—	外壁 内壁 丁寧なナメ	外(内) TSYR5/4に近い黄褐色	MMⅢHD住	山田山	
43-3	ED	7	縦文	直線	口縁断片	—	—	—	外壁 内壁 丁寧なナメ	外(内) TSYR5/4に近い黄褐色 内(外) TSYR3/1黒褐色	MMⅢHD住	合鐵鑄	
42-4	ED	3	2	縦文	直線	断面片	—	—	外壁 内壁 丁寧なナメ	外(内) TSYR5/4に近い黄褐色 内(外) TSYR3/1黒褐色	MMⅢHD住	山田山 合鐵鑄	
45-5	ED	2-1	2-1	縦文	直線	断面片	—	—	外壁 内壁 丁寧なナメ	外(内) TSYR5/4に近い黄褐色	MMⅢHD住	合鐵鑄	
45-6	ED	5-2	2-2	縦文	直線	口縁断片	—	—	外壁 内壁 丁寧なナメ	外(内) TSYR5/4に近い黄褐色 内(外) TSYR3/1黒褐色	MMⅢHD住	横浜アリ 合鐵鑄	
47-7	ED	4	縦文	直線	口縁断片	—	—	—	外壁 内壁 丁寧なナメ	外(内) TSYR5/4に近い黄褐色 内(外) TSYR3/1黒褐色	MMⅢHD住	草	
44-1	ED	110	1	1	土器部	直 口一盛部 1/2	(19.0)	G27.00	7.0	外壁 内壁 丁寧なナメ	外(内) TSYR5/4に近い黄褐色	MMⅢHD住	No1
45-1	D14	1	中井	内輪	直線	口縁	クテ ヨコ 2.4	ヨコ 3.4	基部 0.2	外壁 内壁 丁寧なナメ	外(内) TSYR5/4に近い黄褐色 内(外) TSYR3/1黒褐色	MMⅢD14	大光通穴
50-1	D16	1	縦文	直線	断面片	—	—	—	外壁 内壁 丁寧なナメ	外(内) TSYR5/4に近い黄褐色	MMⅢD16	合鐵鑄	
50-2	D16	3	縦文	直線	断面片	—	—	—	外壁 内壁 丁寧なナメ	外(内) TSYR5/4に近い黄褐色	MMⅢD16	合鐵鑄	
50-3	D10	2	縦文	直線	断面片	—	—	—	外壁 内壁 丁寧なナメ	外(内) TSYR5/4に近い黄褐色	MMⅢD10	合鐵鑄	
51-1	D17	1	外井	直	断面片	—	—	—	外壁 内壁 丁寧なナメ	外(内) TSYR5/4に近い黄褐色	MMⅢD17	合鐵鑄	
53-1	D21	1	縦文	直線	断面片	—	—	—	外壁 内壁 丁寧なナメ	外(内) TSYR5/4に近い黄褐色	MMⅢD21	合鐵鑄	
53-2	D21	2	縦文	直線	断面片	—	—	—	外壁 内壁 丁寧なナメ	外(内) TSYR5/4に近い黄褐色	MMⅢD21	合鐵鑄	

第4表 採集石器観察表(黒曜石・石英以外)

編號 No.	遺構 No.	形態 No.	種別	岩層 分類	石質	表面度	粒度 (mm)			質量 (g)	性 記	著 者	
							員 8	員 9	員 10				
8-4	H1	2	2	磨石器	磨石	安山岩	1/2塊	19.7	13.7	5.7	1050.0	MMH111(Ne2)	大型の断面扁平な尖端石。表面と底面に広く磨削面が認められる。
13-6	H2	3	3	磨石器	磨石 研磨石	安山岩	1/2塊	7.3	6.2	3.3	296.0	MMH12作区サブトレ	断面研磨の滑らかな円錐形に類似な尖端石を有し、表面と底面に磨削面を残す。
15-7	H3	1	1	磨石器	磨石	安山岩	完存	14.6	13.1	6.7	1064.4	MMH13作区Ne1	円錐に似た形状にさき、その中央に底面所に小さな斜打部を残す。
15-1	H3	17	17	磨石器	兩石	安山岩	完存	11.8	9.5	4.9	257.7	MMH131(Ne17)	断面研磨の滑らかな円錐形に類似な尖端石を有し、表面と底面に磨削面を残す。
15-2	H3	16	16	磨石器	兩石	安山岩	1/2塊	8.8	8.3	5.3	233.0	MMH132(Ne16)	円錐状の全周に断面研磨を有し、底面に磨削面を残す。
22-3	H4	9	9	兩片石器	石核	安山岩	基盤欠損	13.5	8.3	1.8	117.4	MMH14作区Ne6	底面全体に似た形状に滑らかな研磨面を有し、大型石器の形状を有する。
22-3	H4	18	18	磨石器	磨石	安山岩	1/4塊	7.6	6.5	3.0	271.4	MMH146(アメ中・下)	滑らかな円錐の底面間に似た形状を残す。
22-4	H4	1	1	磨石器	磨石	安山岩	完存	8.9	8.1	4.2	354.1	MMH141(Ne1)	滑らかな円錐の底面間に似た形状を残す。
22-5	H4	9	9	磨石器	磨石	安山岩	完存	19.8	7.8	5.5	345.6	MMH149(Ne6)	滑らかな円錐の底面間に似た形状を残す。
22-6	H4	12	12	磨石器	磨石	安山岩	完存	4.4	4.2	3.8	71.1	MMH1412(アメ上層)	底面部分の円錐に尖端部に似た形状を残す。
22-7	H4	16	16	磨石器	石核	安山岩	完存	34.0	28.3	9.0	1080.0	MMH1416(Ne9)	大きな断面尖端石の表面に凹凸面を持ち、底面同一箇所に若干の斜打部を残す。
22-8	H4	5	5	磨石器	石核	安山岩	1/2塊	39.5	18.2	5.8	3180.0	MMH145(Ne6)	大きな断面尖端石の表面に凹凸面を持ち、若干の斜打部を残す。
25-1	H5	8	8	磨石器	磨石	磨石	完存	8.5	5.5	5.0	36.4	MMH158(カド)	振り手による断面研磨の底面間に似た形状を残す。
26-3	H6	2	2	磨石器	石核	安山岩	完存	35.3	24.5	11.5	10kg以上 計測不能	MMH162(Ne2)	底面に大きな円錐の底面間に似た形状を残す。
31-1	H7	17	17	兩片石器	石核	頁岩	1/3塊	3.7	3.6	0.4	13.5	MMH1717(アメサブトレ)	底面からの剥離を有し、底面とともに丁寧な磨きを施す。底面に凹凸面がある。
31-2	H7	16	16	兩片石器	石核	頁岩	完存	4.7	18.6	9.8	29.2	MMH1716(Ne18)	表面に自然剥離面に一致し、不規則に斜り削製した部分を持つ。表面は滑らかの底面により削製され、底面は生産剥離面に直角剥離面を有している。
31-3	H7	10	10	磨石器	磨石 研磨石	安山岩	完存	11.2	8.8	4.8	435.5	MMH1710(Ne10)	滑らかな円錐の底面に似た形状を残す。底面に広く島状化した部分が認めできる。
31-4	H7	6	6	磨石器	磨石 研磨石	安山岩	1/4塊	11.1	13.7	5.1	1153.6	MMH1716(Ne6)	滑らかな円錐の底面に似た形状を残す。底面に自然剥離面がある。
36-1	H8	24	24	兩片石器	打削石核	安山岩	完存	8.7	4.3	0.8	19.4	MMH1824(アメ一端)	底面剥離の底面に似た形状を残す。底面に細かい剥離網目を有し、底面二端を露出する。
36-2	H8	25	25	兩片石器	打削 台化了	頁岩	完存	4.2	8.2	0.8	35.1	MMH1825(サブトレ)	底面ともに自然剥離により削製してある。刃部の剥離も極く生産品の可能性がある。
36-3	H8	25	25	兩片石器	打削	砂岩	1/4塊	4.7	3.0	1.8	13.5	MMH1825(アメ)	底面に小さな凹凸面がある。
36-4	H8	30	30	兩片石器	磨石	安山岩	完存	10.0	9.7	4.2	608.9	MMH1830(アメ)	底面剥離の底面に似た形状を残す。底面に広く島状化した部分が認めできる。
36-5	H8	22	22	兩片石器	磨石	頁岩	完存	7.4	5.6	5.0	53.3	MMH1822(アメ)	底面剥離の底面に似た形状を残す。底面に自然剥離面がある。
36-6	H8	19	19	兩片石器	磨石 研磨石	安山岩	1/2塊	7.6	6.0	4.3	247.7	MMH1819(アメ19)	底面剥離の底面に似た形状を残す。底面に底面が複数である。
36-7	H8	5	5	磨石器	兩石	安山岩	完存	11.0	8.7	4.8	410.9	MMH185(アメ2)	底面剥離の底面に似た形状を残す。
36-8	H8	6	6	磨石器	磨石 研磨石	安山岩	完存	12.0	9.2	3.7	743.4	MMH186(アメ6)	底面剥離の底面に似た形状を残す。底面に自然剥離面および剥離面に似た形状を有する。
36-9	H8	21	21	兩片石器	磨石	安山岩	完存	10.5	16.3	9.1	194.0	MMH1821(アメ21)	底面剥離の底面に似た形状を残す。底面に自然剥離面および剥離面に似た形状を有する。
45-2	H9	3	3	磨石器	兩石	安山岩	完存	12.3	6.6	4.5	606.2	MMH193(アメ3)	底面剥離の底面に似た形状を残す。底面に自然剥離面がある。
53-3	D11	1	1	磨石器	磨石	安山岩	完存	5.1	4.6	3.2	115.4	MMHD111(アメ上層)	底面剥離の底面に似た形状を残す。

第5表 掘載石器類表(黒曜石・石英)

測段 No	測場 No	測點 No	種別	岩質	直徑	厚さ	法線(cm)			質量 (g)	注 記	備 考
							長	幅	厚			
6-1	H1	36	石頭	本製品	黒曜石	—	2.2	1.5	0.6	1.5	MMIIH101a区	手続物のやや多い素材を使用し、刃部端面を広くす。
6-2	H1	127	素材	D2	黒曜石	—	2.2	1.6	0.5	1.4	MMIIH101a区	断面三角形で不規則をやや含む。
6-3	H1	66	剥片	D1	黒曜石	—	3.3	1.4	0.5	1.1	MMIIH101a区中	上部ノコ削面に自然面を残す長い側面の直面端面に、極めて複雑な削面を残す。
12-1	H2	27	石頭	本製品	黒曜石	—	2.5	1.6	0.5	1.7	MMIIH201a区	黑色の筋をかづ素材を使用し、表面に自然面を多く残す。
12-2	H2	109	素材	D2	黒曜石	—	2.5	1.7	1.4	2.1	MMIIH201a区	断面三角形で不規則を含み、上部と側面に自然面を残す。
12-3	H2	108	素材	D2	黒曜石	—	2.5	1.8	1.0	4.1	MMIIH201a区サブトレ	断面三角形で正面に削面を残す。
12-4	H2	125	素材	D2	黒曜石	—	2.6	2.2	0.8	2.1	MMIIH201a区サブトレ	断面「先端がV字形」を含み、正面に自然面を残す。
13-5	H2	61	石塊	素材	黒曜石	—	4.2	1.7	1.0	5.2	MMIIH201a区	ドリードにより削面に自然面を残し、背面に主原形削面を広く残す不規則の少ない素材を正面から大きな直面により斜面に整める。
15-1	H3	158	石塊	—	黒曜石	—	5.3	2.4	1.8	24.5	MMIIH301a区N13	下方削面にて横棒を含め、全体に磨きらしい実感。断面ははった六角形で、うち(横棒)より(右)よりは(左)より平行に削面の傾斜が進行する。
16-1	H3	154	石块	—	黒曜石	—	4.0	2.3	1.9	30.9	MMIIH301a区	断面円錐形で、底面部に直面面、側面に自然面を残す。内側部を上と下からぞれ削面の裏、裏面を下よりぞれ削面に直面面を残す。
16-2	H3	155	石块	—	黒曜石	—	5.0	3.2	1.6	34.7	MMIIH301a区	不規則を多く含む個体より広く削る。
16-3	H3	1	石頭	本製品	黒曜石	基部半欠	3.0	0.9	0.8	1.6	MMIIH301a区	直面面の高い実感を残す。裏面は主原形削面を直面のまま残し、底面の丁寧な削面整理にて削面を整したことで製作を手堅したと考えられる。
16-4	H3	82	石塊	本製品火候品	黒曜石	基部半欠	3.0	0.9	0.8	1.6	MMIIH301a区	不規則を多く含む素材を使用し、無い削面を残す。
16-5	H3	151	石塊	—	黒曜石	完存	2.0	1.4	0.4	0.7	MMIIH301a区	不規則を多く含む素材を使用し、今後にも無い削面を残すが添みを持つことより本製品と判断する。
16-6	H3	95	石塊	本製品	黒曜石	—	2.1	1.4	0.7	1.5	MMIIH301a区	不規則を多く含む素材を使用し、無い削面を残す。
16-7	H3	9	石塊	製品欠損品	黒曜石	基部一部欠	2.2	1.7	0.5	1.2	MMIIH301a区サブトレ	不規則を多く含む素材を使用するが、丁寧な削面を残す。
16-8	H3	32	石塊	本製品	黒曜石	—	1.7	1.5	0.3	1.1	MMIIH301a区	不規則のやや多い素材を使用し、無い削面を作出する。
16-9	H3	33	石塊	本製品	黒曜石	—	2.7	1.9	0.7	2.7	MMIIH301a区	裏面に削面整理面を持ち、裏面ともに直面に無い削面を残す。前面に自然面を持ち。
16-10	H3	44	石塊	本製品欠損品	黒曜石	基部から中央部欠	2.1	1.6	0.5	1.0	MMIIH301a区	裏面は主原形削面を直面型に残し、裏面は低い直面の後削面よりの細かい削面を中心とする直面を中心にいため製作を手堅いたと考えられる。
16-11	H3	16	石塊	製品欠損品	黒曜石	片削残	1.5	1.1	0.3	0.3	MMIIH301a区	若干不規則を含む素材を使用するが、丁寧な削面を残す。
16-12	H3	38	石頭	本製品	黒曜石	—	2.0	1.9	0.6	1.9	MMIIH301a区サブトレ	小溝跡をやや含み、削面に貼付素材を残す。
16-13	H3	29	石塊	本製品	黒曜石	—	2.2	1.8	0.4	1.1	MMIIH301a区	裏面は広く自然面を残し、裏面は直面のままで削面を残す。前面に自然面を持ち。
16-14	H3	45	石塊	本製品欠損品	黒曜石	基部半欠	2.0	1.6	0.5	0.5	MMIIH301a区	透明度の高い裏面を抜き出し、小さな形狀を呈す。直面端面に細かい削面跡を残すが、裏面は直面のままで削面を残す。裏面は主原形削面であることがより実感と判断される。
17-1	H3	51	石塊	本製品	黒曜石	—	1.3	1.2	0.2	0.3	MMIIH301a区	透明度の高い裏面を抜き出し、直面は全体的に直面の後削面よりの細かい削面を中心とする直面を残す。
17-2	H3	43	石頭	本製品欠損品	黒曜石	基部半欠	1.7	1.3	0.5	0.8	MMIIH301a区	裏面は主原形削面を水滴型に残し、裏面は全体的に直面の後削面よりの細かい削面を中心とする直面を残す。
17-3	H3	63	石塊	本製品	黒曜石	—	2.4	2.0	0.6	2.0	MMIIH301a区クラン	裏面は直面を残す。
17-4	H3	41	石塊	本製品欠損品	黒曜石	先端薄欠	2.7	1.4	0.5	1.9	MMIIH301a区	小範囲の多く直面を使用し、非常に細かい削面跡を残すが、直面よりの打率により直面に削面整理面を作成したと考えられる。
17-5	H3	40	石塊	本製品欠損品	黒曜石	先端薄欠	2.1	1.9	0.8	2.7	MMIIH301a区	裏面は自然面が多く持つ直面の素材を使用し、裏面に細かい削面跡を残す。
17-6	H3	42	石塊	本製品欠損品	黒曜石	基部半欠	2.0	1.2	0.4	0.7	MMIIH301a区	裏面に細かい削面跡を残す。
17-7	H3	46	石塊	本製品欠損品	黒曜石	先端薄欠	1.7	1.5	0.3	0.7	MMIIH301a区	透明度の高い裏面は上部直面面を広くす素材を使用し、直面に直面交叉での削面整理面、側面に削削したことで製作を手堅したと考えられる。
17-8	H3	37	剥片	D1	黒曜石	—	2.2	1.1	0.5	0.4	MMIIH301a区	裏面に削面面を残す。
17-9	H3	75	素材	A1	黒曜石	—	3.5	1.9	1.5	9.8	MMIIH301a区直面	裏面に直面端面を残すが、裏面に自然面を残す直面色の不規則な裏面。
17-10	H3	73	素材	A1	黒曜石	—	3.7	2.5	1.6	9.2	MMIIH301a区	裏面三角形で、削面端面と自然面、削面端と大まき直面、直面端面を各面に持つ。
17-11	H3	72	素M	A1	黒曜石	—	3.4	2.0	0.8	6.1	MMIIH301a区サブトレ	上削面に削面面を残す、裏面に奥方向の複数の削面面を残す。

第6表 掘藏石器類表(黒曜石・石英)

編號 No.	地點 No.	種類 No.	材料	岩性分類	石質	純度	寸法(cm)			質地 (g)	法 記	備 考
							長さ mm	幅 mm	厚さ mm			
17-13	H3	91	素材	A1	黑曜石	—	2.2	2.4	1.4	19.6	MMEH10住区	断面方形で、断跡に自然面と鋸切面を残す。
17-13	H3	76	素材	A1	黑曜石	—	3.0	4.6	1.5	19.5	MMEH10住区底	表面面に複数面を認む。
17-14	T3	83	素材	A2	黑曜石	—	3.9	1.9	0.9	5.9	MMEH10住区	断面面が底へ向いて斜面を持ち、素材を使用し、断面三角形の下平部を残す。
17-15	H3	82	素材	A2	黑曜石	—	3.5	1.8	0.8	4.3	MMEH10住区P1	不規則な凸凹にて灰岩を示す。
17-15	H3	85	素材	B1	黑曜石	—	3.8	1.9	0.9	7.9	MMEH10住区P1	片側面に自然面を残し、表面面に無い凹面を残す。
18-1	T3	93	素材	B1	黑曜石	—	3.0	1.7	1.0	4.6	MMEH10住区	全面に複数面を認む。断面三角形となる。
18-2	H3	94	素材	B1	黑曜石	—	3.3	1.9	1.0	5.2	MMEH10住区	全面に複数面を認む。断面三角形に整形する。
18-3	H3	95	素材	B1	黑曜石	—	3.8	1.8	1.3	7.8	MMEH10住区サブトレ	断面二角形で、斜側面に自然面を残す。
18-4	H3	88	素材	B1	黑曜石	—	3.3	1.1	1.2	6.4	MMEH10住区	断面三角形で、斜側面に自然面を残す。
18-5	H3	93	素材	B1	黑曜石	—	3.5	2.0	1.1	5.3	MMEH10住区P1	全面に複数面を認む。断面三角形となる。
18-6	H3	91	素材	B1	黑曜石	—	2.7	2.1	1.1	6.5	MMEH10住区サブトレ	断面三方形で、上端に自然面を残す。
18-7	H3	107	素材	C1	黑曜石	—	2.5	1.4	0.9	3.3	MMEH10住区	全面に複数面を認む。斜面を削除し、斜面で削除で修飾する。
18-8	H3	106	素材	C1	黑曜石	—	3.1	1.6	1.0	4.3	MMEH10住区	斜面二角形で上端部に自然面を残す。
18-9	H3	116	素材	D1	黑曜石	—	2.6	1.5	1.0	3.4	MMEH10住区	断面三角形で自然面を残す。
18-10	H3	109	素材	D1	黑曜石	—	2.8	1.5	1.1	3.6	MMEH10住区	不規則物を多く含み断面三角形を見る。
18-11	H3	111	素材	D1	黑曜石	—	1.9	1.2	1.2	4.1	MMEH10住区P1	不規則物を多く含み、片側面に自然面を残す。
18-12	H3	123	素材	D1	黑曜石	—	2.0	1.4	0.7	1.5	MMEH10住区	全面に複数面を認む。断面三角形となる。
18-13	H3	135	素材	D1	黑曜石	—	2.5	1.9	0.9	5.0	MMEH10住区サブトレ	断面三方形で、上端に自然面を残す。
18-14	T3	134	素材	D2	黑曜石	—	2.6	1.7	0.7	7.5	MMEH10住区	断面二角形で自然面をやむ。
18-15	H3	129	素材	D2	黑曜石	—	2.6	1.8	0.7	2.7	MMEH10住区	断面三角形で不規則物をやむ。
18-16	H3	130	素材	D2	黑曜石	—	2.9	1.8	0.7	2.8	MMEH10住区	断面二角形で不規則物をやむ。
18-17	H3	160	素材	D3	黑曜石	—	2.5	1.7	1.3	5.3	MMEH10住区	断面三角形で不規則物をやむ。
22-1	T3	147	素材	D3	黑曜石	—	3.2	2.4	1.6	1.1	MMEH11住区D層	断面二角形で、下端面には全て自然面を残す。
22-1	H3	143	素材	D4	黑曜石	—	2.3	1.1	0.9	8.7	MMEH10住区マド	全面に自然面を残し、斜面で端部をやむ。
22-2	H3	148	素材	D5	黑曜石	—	3.0	1.9	0.9	4.1	MMEH10住区下層	全面に自然面を残す。
22-1	T3	155	石核	—	黑曜石	—	3.4	2.8	1.8	14.5	T11住区中層	不規則物を多く含みした素材で自然面を残す。上下端部より小さな削除で既成の刃が形成され、サコロ型の不定形を残す。
22-2	T3	11	石核	製品欠損前 剥離か	黑曜石	片側欠	2.9	1.2	0.5	0.7	MMEH10住区	黒色の石核のものない素材を使用し、丁寧な削削を施す。本選別記号欄では最も大きな手作業。
22-3	T3	3	石核	製品 剥離	黑曜石	完穿	2.0	1.2	0.3	9.4	MMEH10住区	透明度の高い素材を使用し、丁寧な削削を施す。
22-4	H3	13	石核	製品欠損 剥離前	黑曜石	先端挫傷	2.2	1.5	0.4	9.4	MMEH11住区下層	透明度の高い素材を使用し、丁寧な削削を施す。
22-5	H3	2	石核	製品 剥離	黑曜石	完穿	1.5	0.5	0.5	0.5	MMEH11住区庫	透明度の高い素材を使用し、丁寧な削削を施す。
22-6	H3	16	石核	製品欠損 剥離前	黑曜石	片側剥離	2.1	1.4	0.4	9.8	MMEH10住区上層	黒色に不規則物を含む素材を使用するが、丁寧な削削を施す。
22-7	H3	18	石核	製品欠損 剥離前	黑曜石	片側剥離	1.6	0.12	0.3	0.4	MMEH10住区	透明度の高い素材を使用し、丁寧な削削を施す。
22-8	H3	34	石核	製品欠損 剥離前	黑曜石	先端・介離 挫傷	1.2	1.2	0.4	0.4	MMEH10住区上層	不規則物の少ない素材を認識し、丁寧な削削を施す。本選別記号欄中では最も小さな手作業。
22-9	H3	17	石核	製品欠損 剥離前	黑曜石	挫傷欠	1.7	0.05	0.2	0.3	MMEH10住区下層	丁寧な削削を施す。
22-10	H3	12	石核	製品欠損 剥離前	黑曜石	基盤剥離 挫傷	2.6	1.6	0.4	1.0	MMEH10住区上層	黒色は丁寧な削削を施す。黒色は主要削削面を広くし削邊に取扱い小量削離を施す。
22-11	H3	19	石核	製品欠損 剥離前	黑曜石	基盤 挫傷	3.0	0.12	0.5	0.7	MMEH10住区上層	不規則物の多い素材を识别し、黒色は複数削削面を追加するが丁寧な削削を施す。
22-12	H3	15	石核	製品欠損 剥離前	黑曜石	先端・挫 剥離	2.0	1.6	0.5	1.2	MMEH10住区庫	黒色の繊維を持つ素材を使用し、丁寧な削削を施す。
22-13	H3	4	石核	剥離	黑曜石	完穿	1.8	1.5	0.4	1.0	MMEH10住区上層	透明度の高い素材を使用し、丁寧な削削が施される。
22-14	H3	5	石核	剥離	黑曜石	完穿	2.3	1.2	0.7	1.4	MMEH10住区庫	小型の尖端部の形態を持ち、丁寧な削削を施す。
22-15	H3	35	石核	未剥離	黑曜石	—	2.2	2.0	0.9	3.1	MMEH11住区渾面	表面の自然面の角部を削り去し、斜面に沿ってより厚めの外形を作出する。
22-16	H3	34	石核	未剥離	黑曜石	—	2.3	2.0	1.0	4.1	MMEH10住区庫	細かい角を持つ素材を使用し、粗い削削で厚めの外形を作出する。
22-17	H3	51	石核	未剥 欠品	黑曜石	基盤挫 傷欠	1.8	0.12	0.5	0.9	MMEH10住区上層	透明度の高い素材を使用し、表面全間に丁寧な削削面を作出した後、表面よりの削離か、剥離面の凹凸を削除するが丁寧に削削を施す。
22-18	H3	63	石核	未剥 欠品	黑曜石	剥離半欠	2.0	1.4	0.4	0.7	MMEH10住区上層	表面の凹凸の少ない素材を使用し、表面に削削面を作り削削を実行したと考えられる。
22-19	H3	58	石核	未剥 欠品	黑曜石	剥離欠	2.7	1.7	0.7	1.8	MMEH10住区庫	表面の凹凸の少ない素材を使用し、表面に削削面を作り削削を実行したことから削削を中止したと考えられる。

第7表 掘藏石器破片表(黒曜石・石英)

周数 No.	通番 No.	機種 No.	断面 No.	断面 分類	石質	残存度	寸法(cm)			質量 (g)	性 記	備 考	
							長さ L	幅 W	厚さ H				
21-30	HT	52	石器	未製 欠損品	黒曜石	端部欠少	1.0	1.2	0.4	0.5	MMIIHT15直底直	透明度の高い黒質を使用した刃物の無い断面による箇所中に、中央より破片を切削したことで製作を中断したと考えられる。	
25-31	HT	65	石器	未製 欠損品	黒曜石	先端部欠	1.6	1.5	0.4	1.3	MMIIHT15直底直	黒曜石に半円形凹面をもつて刃部を使用し、直面片側縁に細かい斜面削除跡を有するが、基盤からの打痕により機械性に切断したことで製作を中断したと考えられる。	
30-32	HT	138	素材	D9	黒曜石	—	2.5	1.5	0.6	1.5	MMIIHT15直底直	削面が平らであるが不純物をやや含み、表面に鉛錆面を残す。	
35-4	HT	139	素材	D9	黒曜石	—	2.5	1.4	0.6	1.9	MMIIHT15直底直	削面が平らであるが上端に鉛錆面を残す。	
35-5	HT	140	素材	D9	黒曜石	—	2.4	1.6	0.7	1.9	MMIIHT15直底直	削面が平らで下端に自然面を残す。	
35-3	HT	134	素材	D9	黒曜石	—	2.0	1.8	0.6	1.6	MMIIHT15直底直	削面が角形で表面に自然面を残す。	
33-4	HT	137	素材	D9	黒曜石	—	1.0	1.1	0.7	2.3	MMIIHT15直底直下端	削面が角形で不純物をやや含む。	
33-5	HT	138	素材	D9	黒曜石	—	1.6	1.2	0.9	3.0	MMIIHT15直底直	削面が角形で不純物をやや含む。	
33-6	HT	136	素材	D9	黒曜石	—	3.0	2.0	0.7	2.8	MMIIHT15直底直上端	削面が角形で不純物をやや含む。	
35-7	HT	149	素材	D9	黒曜石	—	2.4	1.4	1.0	3.5	MMIIHT15直底直下端	削面が角形で、上端と斜面から打痕により、機械切断したことで製作を中断したと考えられる。	
33-8	HT	85	素材	A2	黒曜石	—	4.1	1.8	1.0	5.6	MMIIHT15直底直上端	直裏面間に自然面を残し、方剣形に広い範囲を施し彫刻する。	
33-9	HT	94	素材	A2	黒曜石	—	4.3	1.8	0.9	7.1	MMIIHT15直底直	直裏面に自然面を残し不純物を多く含む素材。	
25-10	HT	6	石器	製品	石英	端部欠少	2.7	0.7	0.5	0.8	MMIIHT15直底直	全端に不純物を含む刃部を丁寧に施す。	
25-11	HT	64	石器	未製欠損	黒曜石	側縁一部欠	3.5	1.1	0.8	1.5	MMIIHT15直底直上端	先端に直裏面に自然面を残すが素材を使用し、側縁からの細かい斜面削除跡を、下端に斜面から打痕により、機械切断したことで製作を中断したと考えられる。	
25-12	HT	68	断片	R1	黒曜石	—	3.5	1.8	0.8	1.7	MMIIHT15直底直	片側面と裏面間に自然面を残し、他の面に斜面を施す斜面を残す。	
25-13	HT	69	断片	R1	黒曜石	—	2.5	1.5	0.8	1.6	MMIIHT15直底直	片側面と裏面間に自然面を残し、方剣形に広い範囲を施し彫刻する。	
25-14	HT	48	スラッシュバー	製品	黒曜石	完好	2.1	1.8	0.7	2.2	MMIIHT15直底直上端	全体的に斜面を施すが、斜面は丁寧な斜面を施す。	
33-15	HT	47	スラッシュバー	製品	黒曜石	完好	2.1	1.7	0.8	2.6	MMIIHT15直底直上端	全体的に斜面を施すが、斜面は丁寧な斜面を施す。斜面を自然面に残す。	
34-1	HT	78	素材	A1	黒曜石	—	4.2	2.3	1.9	14.5	MMIIHT15直底直	裏面に広く自然面を残し、他の面に斜面を施す。	
34-2	HT	77	素材	A1	黒曜石	—	3.5	2.2	1.2	7.1	MMIIHT15直底直下端	裏面に広く自然面を残し、裏面に広い斜面を残す。	
34-3	HT	95	素材	B1	黒曜石	—	5.2	2.4	0.8	6.0	MMIIHT15直底直下端	全端に斜面を施すが、斜面は丁寧な斜面を施す。	
34-4	HT	97	素材	B1	黒曜石	—	3.5	2.1	1.3	8.5	MMIIHT15直底直	削面が角形で、裏面と片側面に自然面を残す。	
34-5	HT	88	素材	A1	黒曜石	—	3.0	2.2	1.4	8.5	MMIIHT15直底直	裏面に自然面を残す。	
34-6	HT	99	素材	B1	黒曜石	—	3.5	2.3	0.7	6.4	MMIIHT15直底直	裏面がまことに自然面を残す。	
34-7	HT	79	素材	A1	黒曜石	—	2.1	2.1	1.1	7.2	MMIIHT15直底直	裏面に上端側に自然面を残す。	
34-8	HT	96	素材	B1	黒曜石	—	3.0	2.0	0.8	4.4	MMIIHT15直底直	全端に斜面を施すが、片側面に細かい斜面を施す。斜面三面に無にする。	
34-9	HT	98	素材	B1	黒曜石	—	2.9	1.7	1.2	3.2	MMIIHT15直底直上端	白側面に斜面を持つ素材で斜面は三角形に、片側面に自然面を残す。	
34-10	HT	115	素材	D1	黒曜石	—	2.5	2.1	0.6	1.5	MMIIHT15直底直	削面が平らで純物はさせず、裏面に丁寧な斜面を残す。	
34-11	HT	120	素材	D1	黒曜石	—	1.2	1.8	0.8	2.5	MMIIHT15直底直上端	削面が角形で、裏面と斜面に自然面を残す。	
34-12	HT	130	素材	D1	黒曜石	—	2.5	1.5	0.8	2.8	MMIIHT15直底直	裏面に自然面を残す。	
34-13	HT	134	素材	D1	黒曜石	—	1.9	1.5	1.1	2.8	MMIIHT15直底直下端	削面が角形で、裏面に自然面を残す。	
34-14	HT	127	素材	D1	黒曜石	—	1.0	2.0	0.9	2.7	MMIIHT15直底直	削面が平らで純物を含み、裏面に自然面を残す。	
34-15	HT	128	素材	D1	黒曜石	—	1.0	1.9	1.0	2.4	MMIIHT15直底直上端	削面が平らで純物を含み、裏面に自然面を残す。	
34-16	HT	123	素材	D1	黒曜石	—	2.3	1.7	0.9	2.1	MMIIHT15直底直	裏面が角形で正反と斜面に自然面を残す。	
38-1	HB	14-1	6	石器	製品	珪藻土	完好	1.4	1.8	0.5	0.9	MMIIHB16直底直	透明度の高い素材を使用し、丁寧な斜面を残す。
38-2	HB	14	25	石器	製品欠損	黒曜石	端部欠少	(2.1)	1.6	0.5	0.7	MMIIHB16直底直	黒色の縞を持つ素材を使用し、毛打痕を残す。
38-3	HB	14	35	石器	製品欠損	珪藻土	片側縁欠	1.7	0.0	0.4	0.4	MMIIHB16直底直	不純物のやや多い素材を使用するが、丁寧な斜面を残す。
38-4	HB	14-2	7	石器	製品	珪藻土	完好	1.3	1.3	0.3	0.3	MMIIHB16直底直	透明白色の素材を使用し、丁寧な斜面を残す。
38-5	HB	14	34	石器	製品欠損	黒曜石	端部欠少	1.7	1.4	0.4	0.7	MMIIHB16直底直	小斜面のやや多い・直打痕を使用し、裏面に丁寧な斜面を残す。
38-6	HB	26	石器	製品欠損	珪藻土	基盤端部 片側縁欠	(2.0)	1.1	0.5	1.3	MMIIHB16	不純物の多い素材を使用するが、丁寧な斜面を残す。	
38-7	HB	19	石器	製品欠損	珪藻土	先端部欠	2.3	2.1	0.6	2.1	MMIIHB16直底直	不純物のやや多い素材を使用し、直打痕を残す。	
38-8	HB	21	石器	製品欠損	珪藻土	支輪部欠	1.9	1.8	0.3	0.6	MMIIHB16	不純物のやや多い素材を使用するが、丁寧な斜面を残す。	
38-9	HB	14	22	石器	製品欠損	珪藻土	端部 不規則	2.1	1.5	0.3	0.7	MMIIHB16直底直	黒色の縞を持つ素材を使用する。
38-10	TB	37	石器	未製品	珪藻土	—	2.1	1.3	0.4	1.9	MMIIHB16	高透明度に自然面を持つ薄い素材を使用する。	

第8表 採石器類別表(墨羅石・石英)

番号	地名	標高	緯度	経度	対象分類	石質	種別	数量(cm)			質感 (g)	測定 距離	備 考
								長さ	幅	厚さ			
35-11	BB	54	石墨	未報	欠損品	墨羅石	崩壊半欠	1.6	1.6	0.3	0.4	MMDW10往	崩壊面が高く下側面に自然面を持つ小さな石の當面を使用し、崩壊面側面に中央縫合に切削したことで操作を手軽としたと考えられる。
35-12	BB	57	石墨	未報	欠損品	墨羅石	崩壊半欠	1.3	1.3	0.4	0.5	MMDW10往	透明白の高い素材を使用し、裏面に主張部側面を広く出し背面に表面互差削除による凹部中に側面切削による。その他の部分も側面に側面側面を削り、操作を手立てたと考えられる。
35-13	BB	58	石墨	未報	欠損品	墨羅石	崩壊半欠	1.4	1.5	0.4	0.4	MMDW10往	不透明の割れの無い素材を使用し、裏面ににくく主張部側面を削し、背面の側面側面から裏面側面から外れる打削により側面切削したと考えられる。
35-14	BB	55	石墨	未報	欠損品	墨羅石	崩壊半欠	1.5	1.9	0.5	0.8	MMDW10往	透明白で高い透明度を持つ素材を使用し、裏面側面に広く主要側面を削り、背面側面から裏面側面から外れる打削により側面切削したと考えられる。
35-15	BB	56	石墨	未報品	墨羅石			2.2	1.8	0.5	1.6	MMDW10往	透明度が高く、裏面に自然面を持つ側面を手軽に削りようやく側面側面を削る。
35-16	BB	36	石墨	未報品	墨羅石			2.8	1.9	0.4	1.8	MMDW10往	裏面側面を持つ素材を使用し、側面に自然面を持つ。
35-17	BB	38	石墨	未報品	墨羅石			3.0	2.5	1.3	7.8	MMDW10往	不透明で少量をむぎり裏面を削る。
40-1	BB	103	木材	B1	墨羅石	—	2.6	2.1	1.0	6.5	MMDW10往	全面的に側面側面を削り、裏面側面から外れる打削により側面切削したと操作を手堅としたと考えられる。	
40-2	BB	101	木材	B1	墨羅石	—	2.5	2.4	1.1	7.3	MMDW10往	側面三角形で裏面に自然面を削す。	
40-3	BB	100	木材	B1	墨羅石	—	3.1	2.2	0.9	5.7	MMDW10往	側面三角形で側面に自然面を削す。	
40-4	BB	111	木材	D1	墨羅石	—	2.3	1.3	1.0	3.1	MMDW10往	側面三角形で、上側面に側面側面を削す。	
40-5	BB	120	木材	D1	墨羅石	—	2.2	1.7	1.3	5.8	MMDW10往	サイコロ様で、耳側と正面に自然面を削す。	
40-6	BB	102	木材	B1	墨羅石	—	2.5	2.4	1.3	8.0	MMDW10往	山側の角を持つ複数で断面三角形で、上側面に自然面を削す。	
40-7	BB	141	木材	D2	墨羅石	—	2.4	1.6	0.6	2.4	MMDW10往	側面側面三角形で複数側面を削り、左側面と正面に自然面を削す。	
40-8	BB	142	木材	D2	墨羅石	—	2.2	1.8	0.7	3.7	MMDW10往	側面側面で裏面に自然面を削す。	
40-9	BB	87	木材	A2	墨羅石	—	4.4	2.8	1.2	10.1	MMDW10往	側面側面に自然面を削り、不透明をやや含む。	
40-10	BB	96	木材	A2	墨羅石	—	4.6	2.6	1.3	9.2	MMDW10往	上側面に自然面を削り、裏面側面に底面側面を削り削る。	
40-11	BB	95	石墨	鉱品	墨羅石	崩壊欠	3.7	1.5	0.8	2.9	MMDW10往	左側面に自然面を削りまとめて側面から丁寧な側面側面を削し、特に先端部は尖頭部に細く削形される。	
40-12	BB	151	木材	D3	墨羅石	—	2.7	1.7	1.3	6.4	MMDW10往	サイコロ様で裏面側面を削り、不透明を含む赤茶色の紙を手に持つ。	
40-13	BB	157	石墨	製品欠損 前玉墨	墨羅石	片側欠損	2.0	1.5	0.3	0.8	H10Dサフレ	裏面中央に自然面を削すが、丁寧な感想を送る。	
40-14	BB	156	石墨	製品欠損 前玉墨	墨羅石	片側欠損	2.3	1.8	0.3	0.8	H10D山6	「手なみ」感想を送る。	
40-15	BB	138	木材	D1	墨羅石	—	2.5	1.6	0.8	2.7	MMDH10往	側面側面で小動物を多く含む。	
40-16	BB	144	木材	D2	墨羅石	—	2.5	1.8	0.5	2.1	MMDH10往	墨羅石「角形で小動物をやや含む。	
40-17	BB	125	木材	D1	墨羅石	—	2.7	1.9	1.1	5.2	MMDH10往	サイコロ様で、正面に自然面を削す。	
40-18	BB	128	木材	D1	墨羅石	—	2.6	1.5	1.1	5.3	MMDH10往	サイコロ様で、裏面に側面側面を削す。	
40-19	BB	160	木材	C1	墨羅石	—	3.2	1.5	1.0	3.8	MMDH10往	不透明で多くみる側面側面に自然面を削す。	
40-20	BB	145	木材	D1	墨羅石	—	2.2	1.6	0.5	1.9	MMDH14	側面側面「丁寧で底面側面に自然面を削す。	
40-21	BB	146	木材	D1	墨羅石	—	1.8	1.9	0.7	1.9	MMDH15	側面側面で不透明をやや含む。	
52-2	DI7	90	石墨	未報 欠損品	墨羅石	崩壊半欠	2.6	1.5	0.8	1.8	MMDI7	不透明から全面に裏面側面を広く後手前手を削削し、正面側面に1~2個側面側面を削り、側面よりやや低い側面側面中に側面から打削により側面切削に底面側面に底面側面を手堅したと考えられる。	
53-1	DI8	76	剥片	II	墨羅石	—	1.5	1.4	0.7	1.3	MMDI8	正面に自然面を削る手堅な剥片の片側縁に連続する側面側面を削る。	

第V章 総括

本遺跡の発掘調査によって検出された遺構は縄文時代前期から弥生時代・古墳時代を経て奈良・平安時代～中世にいたる住居址10棟及び土坑址21基などであった。調査区が狭長でありますながら多くの遺構が検出されたことによって、周辺は密度の濃い遺構分布を示すものと思われる。

町横尾遺跡はこれまでの分布調査、本調査及び試掘調査によって縄文時代から平安時代にかけての集落遺跡と考えられていた。ことに奈良～平安時代にかけては検出遺構数も多く、この遺跡の主体的な時期を示すものとして理解されていた。また、近隣に所在する保地遺跡の存在から縄文時代後晩期の遺跡が広がる可能性をも秘めた遺跡であった。

今回の発掘調査では縄文時代後晩期に属する遺構・遺物は確認されなかったが、これまで町横尾遺跡では知られていなかつたいくつかの事例を確認することができた。これらを踏まえつつ今回の調査成果を概観する。

まず、新知見としてあげることができるが縄文時代前期の遺構・遺物の発見である。住居址3棟のほか、土坑を2基確認した。住居址からは関山期の土器片をはじめ、数多くの黒耀石製鏡や木製品及びチップなどが出土した。調査範囲が限られていたため、集落構造などは知るすべもないが、かつてこの地で黒耀石製の石鏡を作りながら狩猟を行っていた人々が暮らしていたことが確認できた。

次に指摘できるのは弥生時代後期の住居跡の存在である。従来、現坂城中学校付近の宮上遺跡IIや、テクノサカキ工業団地付近の塚田遺跡IIが弥生時代の集落跡として知られていたが、山裾に近い本調査地点まで弥生時代に住居が作られていたことは新たな発見といえる。加えて、本調査地点から石包丁が出土したことから注目される。本遺跡内には水田に適した場所は確認し得ないので、谷川の開口部付近の塚田遺跡II周辺に水田を經營していたのであろうか。

さらに、今回の調査では古墳時代の住居址（H4・10号住居址）が確認された。これまでの調査で当該期の遺構は確認されていなかったため、初の検出となった。坂城町では中之条地区の宮上遺跡I・II・III・IVや寺浦遺跡IIなどが古墳時代後期の集落址として顕著であるが、町横尾遺跡周辺においても集落が形成されていたかといった点については、今回の発掘調査結果からは不明と言わざるを得ない。なお、H4号住居址からは、槍型の石製品（22-2）が出土しているが船属時期や用途は不明である。

先にも述べたが、本遺跡は奈良～平安時代にかけてが主体的な時期となり、今回の調査でも当該期の住居址を4棟検出した。今回の調査で特筆すべきは、H6号住居址から出土した墨書き土器である。須恵器の坏に描かれたそれは「維」の一文字が読み取れ、その文字の前にも一文字存在していることから「□維」となり、人名の可能性（平川南氏教示）がある。近接する寺浦遺跡において当該期の掘立柱建物群が検出されていることから、当地にも役的な人物が暮らしていた可能性が指摘できよう。このほか、床面付近から扁平な石材を多く出土した住居址（H6号住居址）の存在から、鉄製品など製造・加工する工房的なものの存在も予測されるが現段階では想像の域を出ない。

最後に、本町横尾遺跡と谷川を挟んだ対岸に所在する金井東遺跡群も町横尾遺跡とほぼ同様の時期の遺跡である。今回の調査成果を踏まえて、両遺跡の時期的や性格的な問題を比較検討して、谷川水系の古代社会の環境を分析する必要があろう。また、本調査地点から北に約1km離れた場所に所在する開窓遺跡も小河川付近に展開する集落址である。河川をはじめとする自然環境と、古代集落の関係についても科学的分析を行っていく必要があろう。

写 真 図 版



調査区全景（南より）



H 1号住居址（西より）



H 2号住居址（西より）



H 3号住居址（南東より）



H 4号住居址（西より）



H 4号住居址遺物出土状況（北より）



H 4号住居址遺物出土状況（南西より）



H 4号住居址掘り方完結状況（西より）



H 5号住居址（南より）



H 5号住居址カマド（南より）



H 6号住居址（西より）



H 6号住居址遺物出土状況（南西より）



H 7号住居址（南東より）



H 7号住居址遺物出土状況（東より）



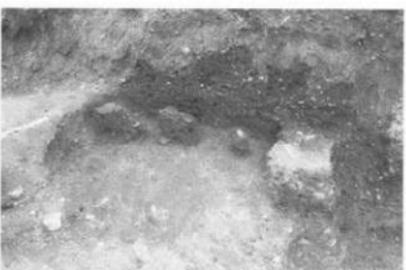
H 7号住居址遺物出土状況（東より）



H 8号住居址（東より）



H 8号住居址遺物出土状況（北東より）



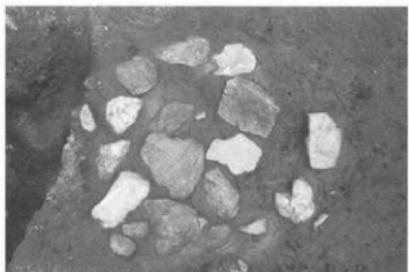
H 9号住居址（北東より）



H10号住居址（西より）



H10号住居址遺物出土状況（南より）



1号集石遺構（南より）



D14号土坑址遺物出土状況（南より）

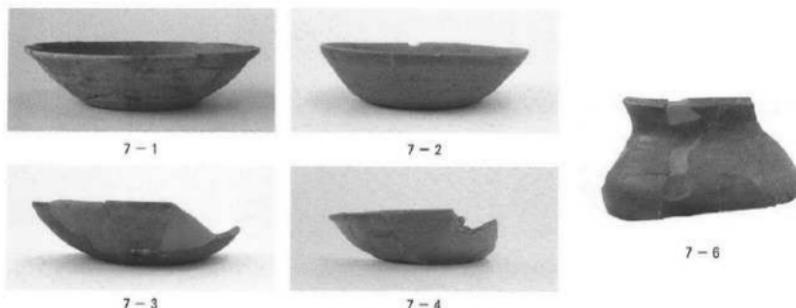


作業風景（北より）



調査参加者

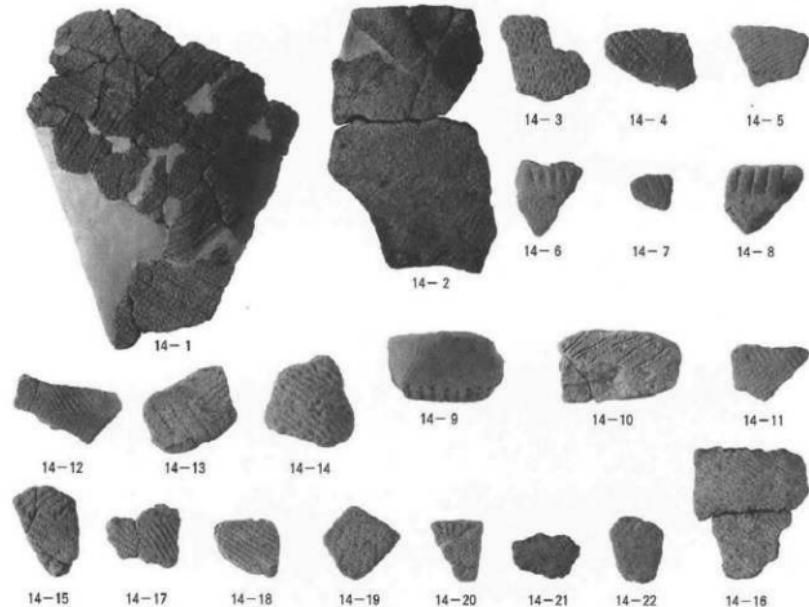
5



H 1号住居址出土土器 (1 : 3)



H 2号住居址出土土器 (1 : 3)



H 3号住居址出土土器 (1 : 3)



20-1



20-2



21-1

H 4号住居址出土土器 (1:3)



27-1



27-1 (墨書き部分)



27-2



27-3



27-4

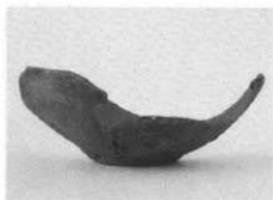


27-5

H 6号住居址出土土器 (1:3)



30-1



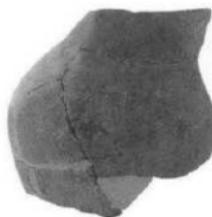
30-2



30-5



30-7

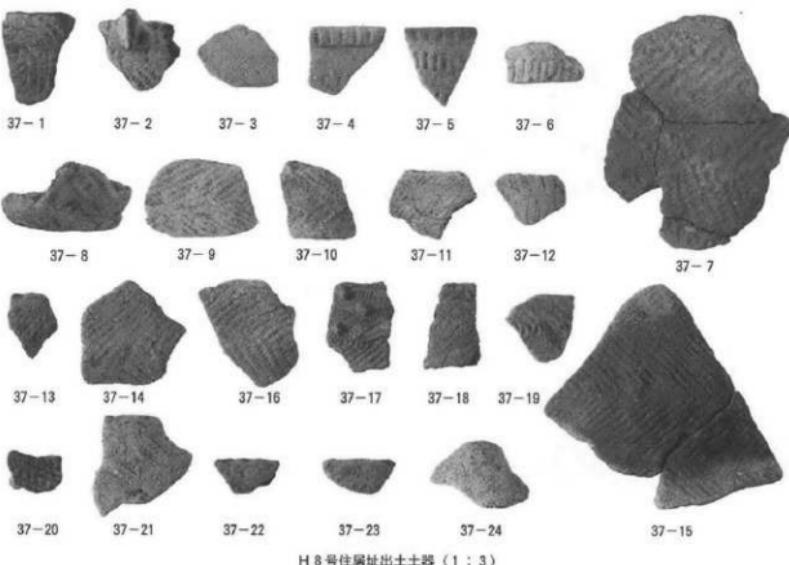
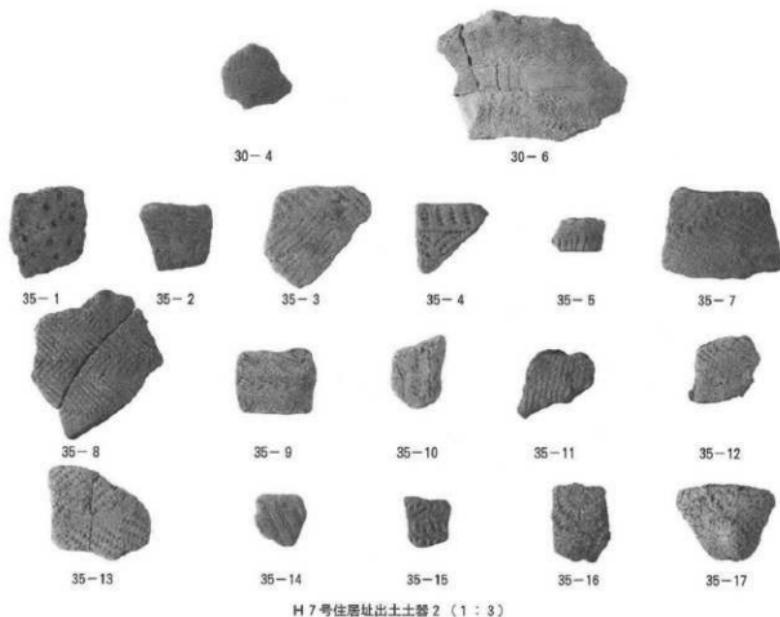


30-8



30-9

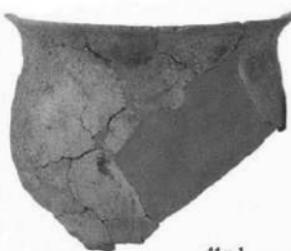
H 7号住居址出土土器 1 (1 : 3)



9



H 9号住居址出土土器 (1 : 3)



H 10号住居址出土土器 (1 : 3)



D 16号土坑址出土土器 (1 : 3)



D 17号土坑址出土土器 (1 : 3)



D 21号土坑址出土土器 (1 : 3)



8-1



8-2



8-3



8-4 (1:4)

H 1号住居址出土石器 (1:1)



12-1



12-2



12-5



12-6 (1:4)



12-3



12-4



12-7 (1:4)

H 2号住居址出土石器 (1:1)



15-1



15-2

H 3号住居址出土石器 1 (1:4)

11



16-1



16-2



16-3



16-4



16-5



16-6



16-7



16-8



16-9



16-10



16-11



16-12



16-13



16-14



17-1



17-2



17-3



17-4



17-5



17-6



17-7



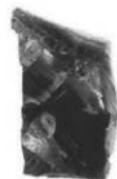
17-8



17-9



17-10



17-11

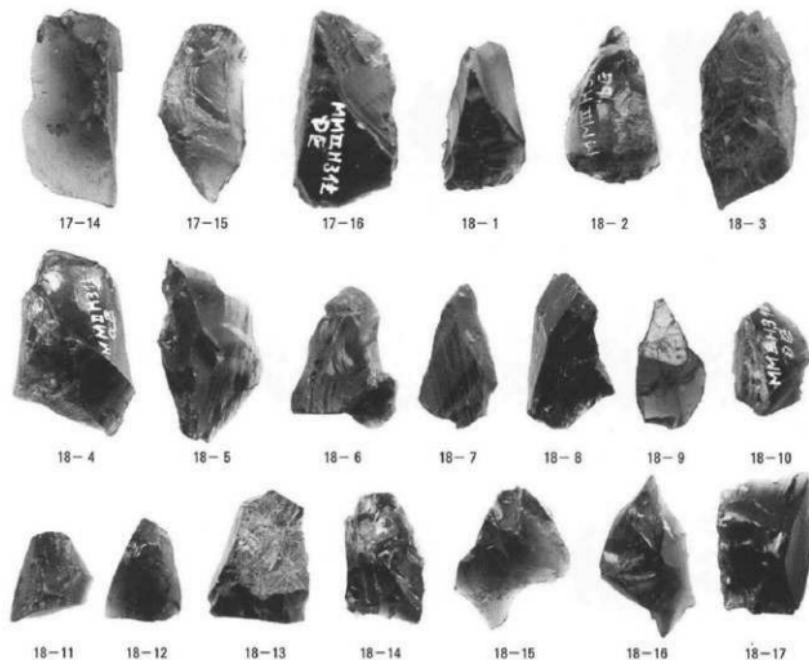


17-12

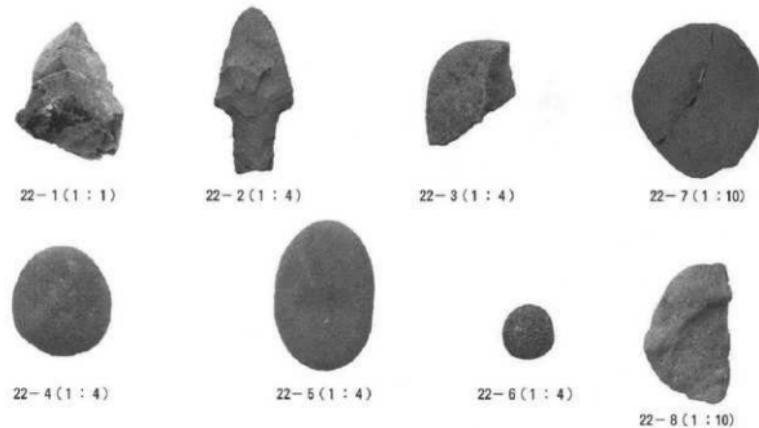


17-13

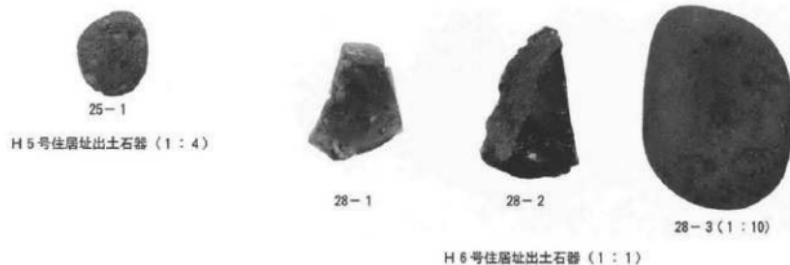
H 3号住居出土石器 2 (1 : 1)



H 3号住居出土石器 3 (1 : 1)



H 4号住居出土石器



31-1 (1 : 2)



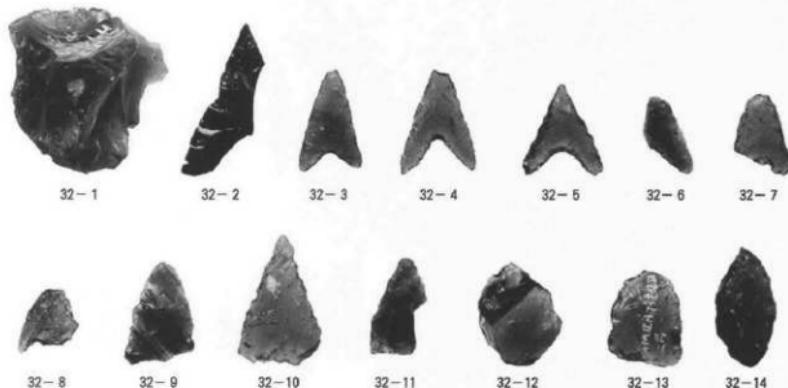
31-2 (1 : 2)



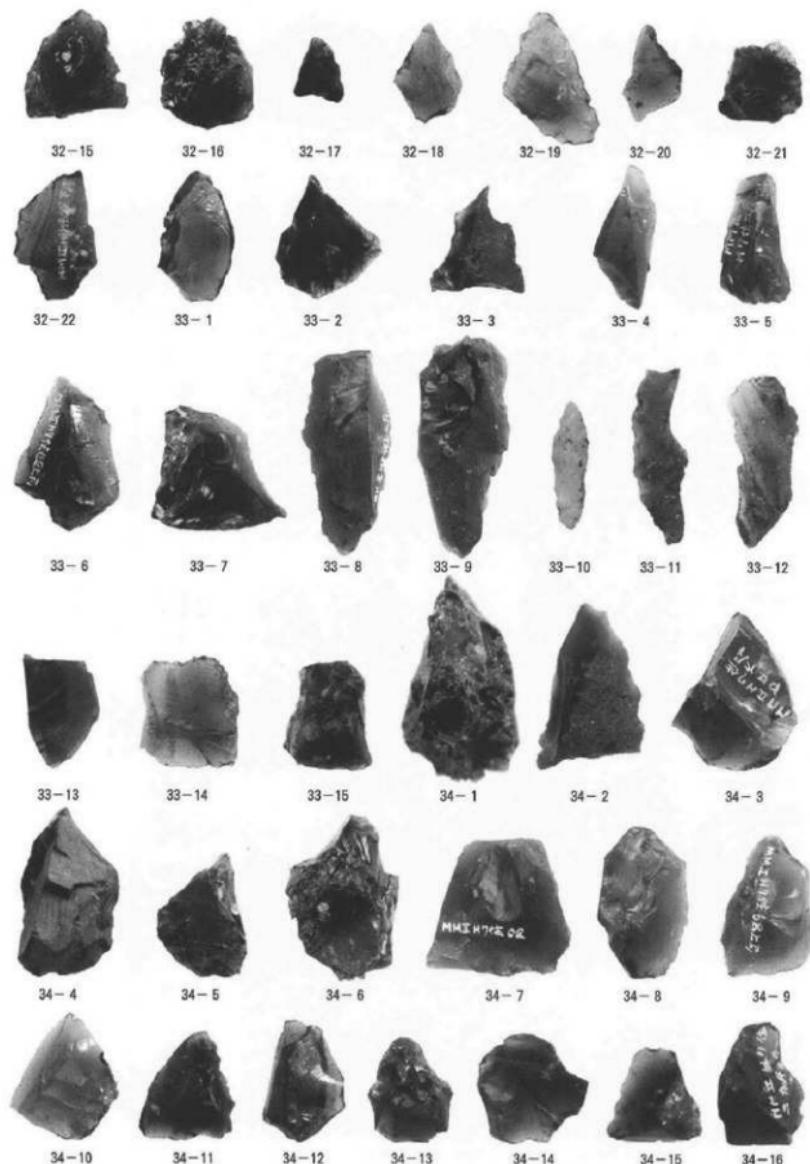
31-3 (1 : 4)



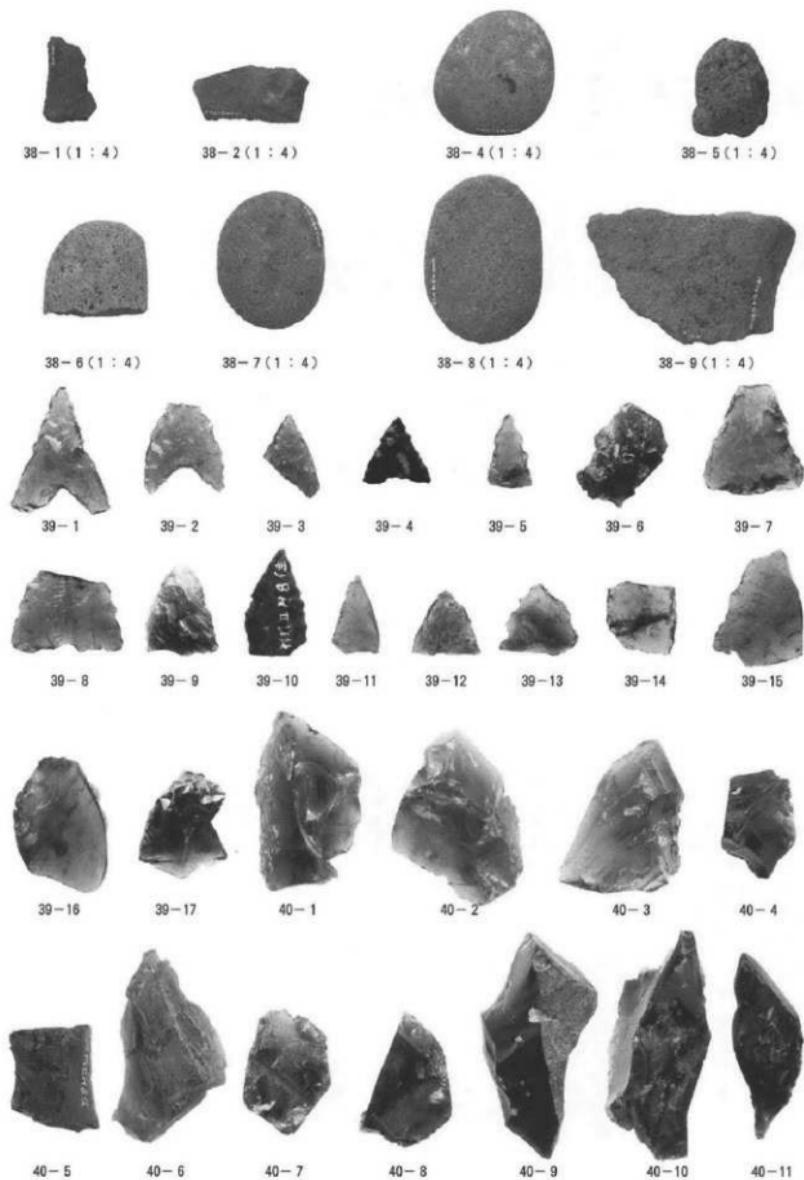
31-4 (1 : 4)



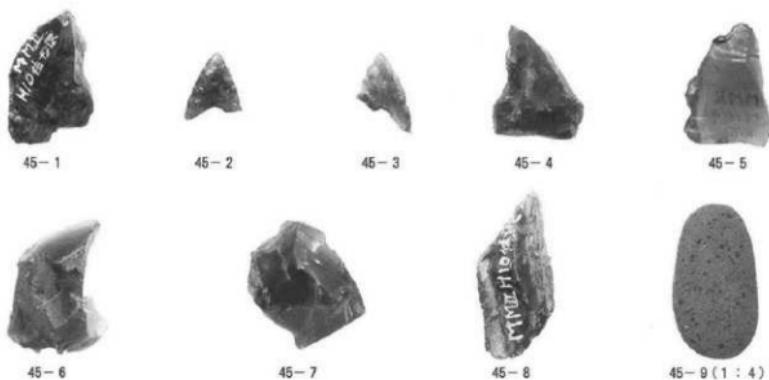
H 7号住居址出土石器 1 (1 : 1)



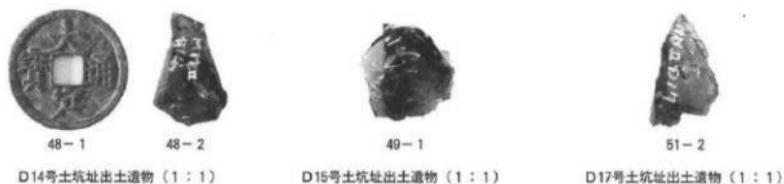
H 7号住居址出土石器 2 (1 : 1)



H 8 号住居址出土石器 (1 : 1)



H10号住居址出土石器 (1 : 1)



報告書抄録

ふりがな	まちよこおいせきに
書名	町横尾遺跡II
副書名	長野県埴科郡坂城町坂都1号線道路改良事業に伴う緊急発掘調査報告書
卷次	
シリーズ名	坂城町埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第32集
編著者名	助川朋広・田中浩江・時信武史
編集機関	坂城町教育委員会
所在地	〒389-0601 長野県埴科郡坂城町大字坂城6362-1 TEL 0268-82-1109
発行年月日	2008年3月28日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
町横尾遺跡II	埴科郡坂城町大字南条	20521		36°26'29"	138°11'39"	2007年6月5日～ 2008年3月28日	800m ²	坂都1号線道路改良事業

所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
町横尾遺跡II	集落址	縄文～平安	竪穴住居址 10棟 土坑址 21基 集石遺構 1基 焼土址 1基	縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器・石器・古錢	縄文～古代の集落址の調査

坂城町埋蔵文化財調査報告書

『開歎製鉄遺跡－第1次調査報告書』	1977
『開歎製鉄遺跡－第2次調査報告書』	1978
『東裏遺跡』	1983
『中之条遺跡群 宮上遺跡II』(概報)	1993
『南条遺跡群 塚田遺跡』	1993
第1集 『南条遺跡群 東裏遺跡II・青木下遺跡』	1994
第2集 『町内遺跡発掘調査報告書』	1994
第3集 『町内遺跡発掘調査報告書』	1995
第4集 『南条遺跡群 塚田遺跡II』	1995
第5集 『飛龍堂遺跡・上町遺跡・寺浦遺跡・東町遺跡』	1996
第6集 『中之条遺跡群 寺浦遺跡II』	1996
第7集 『中之条遺跡群 上町遺跡II』	1996
第8集 『上五明条里水田址』	1996
第9集 『町内遺跡発掘調査報告書1995』	1996
第10集 『坂城町試掘調査・立会い調査報告書』	1996
第11集 『町内遺跡発掘調査報告書1996』	1997
第12集 『戌久保・町横尾遺跡』	1998
第13集 『込山Bほか 発掘調査報告書 1997』	1998
第14集 『町内遺跡発掘調査報告書1998』	1999
第15集 『町内遺跡発掘調査報告書1999』	2000
第16集 『開歎遺跡III』	2000
第17集 『中之条遺跡群 北川原遺跡II』	2001
第18集 『町内遺跡発掘調査報告書2000』	2001
第19集 『中之条遺跡群 宮上遺跡I・II・III・IV』	2001
第20集 『金井東遺跡群 保地遺跡II』	2002
第21集 『町内遺跡発掘調査報告書2001』	2002
第22集 『町内遺跡発掘調査報告書2002』	2003
第23集 『豊饒堂遺跡II』	2004
第24集 『坂城町町内遺跡発掘調査報告書2003』	2004
第25集 『坂城町内遺跡発掘調査報告書2004』	2005
第26集 『坂城町内遺跡発掘調査報告書2005』	2006
第27集 『込山遺跡群 込山C遺跡II・III』	2006
第28集 『込山遺跡群 込山D遺跡』	2007
第29集 『坂城町内遺跡発掘調査報告書2006』	2007
第30集 『南条遺跡群 青木下遺跡II・III』	2007
第31集 『開歎遺跡IV』	2008
第32集 『町横尾遺跡II』(本書)	2008

坂城町埋蔵文化財調査報告書第32集

町横尾遺跡II

発行日 2008年3月28日

編集者 坂城町教育委員会

〒389-0601 長野県埴科郡坂城町大字坂城6362-1

TEL 0268(82)1109

印刷者 信毎書籍印刷株式会社

〒381-0037 長野県長野市西和田1丁目30番3号

TEL 026(243)2105

